弘前大学医学部保健学科・保健学研究科

自己点検・評価報告書

平成２５年９月

はしがき

保健学研究科における自己評価は、3 年から 5 年ごとにまとめて行なわれてきましたが、平成 23 年度からは、毎年、定期的に自己評価のための業績や実施記録を残すことを基本方針として実行されています。その主旨は、総括的な自己評価を行なう際に必要となる各種資料・データを年度ごとに集積し、有効かつ効率的な自己評価につなげることにあります。

平成 24 年度は、保健学研究科の取り組みの中で大きな割合を占めていた「被ばく医療人材育成プロジェクト」の最終年度に当たる年でした。5 年間のプロジェクトを振り返ってみて、この取り組みが、教育的にも学術的にも、また組織的な側面からみても、本研究科にとって大きな意義があったことに改めて気づかされました。この成果は、学内外の諸機関からも高く評価されている所であります。そして、年度末には、これまでの事業の継続・発展を目的とした第 2 期プロジェクトの概算要求の内示を受け、被ばく医療人材育成のさらなる発展という新たな目標を目指すこととなりました。その他にも、厳しい財政情勢の中、人件費削減への対応という苦しい判断を求められる課題もありましたが、教職員一同、英知を結集して打開策を生み出すことができました。

今後、大学改革の流れの中で、これまでの歩みの中から保健学研究科としての特色と強みを抽出し、それを中核とした取り組みを行なっていくことが必要です。そうした意味でも、自己評価は重要な役割を果たすものと思われます。

このたび、平成 24 年度の「自己評価報告書」がまとめられましたが、本報告書の内容は、前述した基本方針に基づき、教員業績と組織的な事業活動の記録が中心となっております。5 年、10 年といった節目での “自己評価”を実りあるものとするためにも、こうした一年一年の歩みを記録として積み重ねることが大切であると考えます。

2013 年 9 月

保健学研究科長　對馬　　均

目　　次

Ⅰ．機構図　2

Ⅱ．各教育研究分野における教育・研究・社会貢献活動等

健康支援科学領域

健康増進科学分野　4

老年保健科学分野　29

障害保健科学分野　51

医療生命科学分野

放射線生命科学分野　75

生体機能科学分野　102

病態解析科学分野　115

管理運営活動　129

Ⅲ．平成 24 年度医学部保健学科学士課程卒業論文題目一覧表　134

Ⅳ．平成 24 年度保健学研究科博士（前期・後期）課程学位論文題目一覧表　142

Ⅰ．機構図

- 大学院 保健学研究科　博士（後期）
  - 健康支援科学領域
    - 健康増進科学分野
    - 老年保健学分野
    - 障害保健学分
  - 医療生命科学領域
    - 放射線生命科学分野
    - 生体機能科学分野
    - 病態解析科学分野

- 大学院 保健学研究科　博士（前期）
  - 看護学領域
    - 基礎看護・看護教育学分野
    - 地域保健看護学分野
  - 生体情報科学領域
    - 生体情報放射線科学分野
    - 放射線生命科学分野
    - 医用放射線機器学分野
  - 生体機能科学領域
    - 細胞機能科学分野
    - 細胞分子生物科学分野
    - 代謝機能科学分野
    - 病態解析科学分野
  - 総合リハビリテーション科学領域
    - 理学療法学分野
    - 作業療法学分野
    - 生活環境保健学分野

- 医学部
  - 医学科（省略）
  - 保健学科
    - 看護学専攻
    - 放射線技術科学専攻
    - 検査技術科学専攻
    - 理学療法学専攻
    - 作業療法学専攻

Ⅱ．各教育研究分野における教育・研究・社会貢献活動等

健康増進科学分野

Department of Health Promotion

１．教員

健康増進科学分野(人)

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手
5	2	7	6	2

２． 教育実績

1）21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
12 年度	一戸とも子	教授	人を育む営み(E) 基礎ゼミナール	4 30
	山辺英彰	教授	生活習慣と健康 最新医学の現状 基礎ゼミナール	6 6 30
	西沢義子	教授	メンタルヘルス(B)	8
	尾田　敦	准教授	運動とリハビリテーション(A)	8
	古川照美	准教授	社会参加活動 人間の尊厳	18 6
	北宮千秋	准教授	人を育む営み(B)	6
	三崎直子	講師	人を育む営み(E) 生活習慣と健康(N)	4 6
	佐藤真由美	講師	人を育む営み(I)	6
	漆坂真弓	講師	生活習慣と健康(N)	6
	小倉能理子	講師	人を育む営み(B)	4
	平川裕一	講師	運動とリハビリテーション(D)	30
	吉田英樹	講師	運動とリハビリテーション(B)	8
	冨澤登志子	講師	放射線防護の基礎 人を育む営み(E) 生活習慣と健康	2 4 6
	西村美八	助教	情報Ⅰ	32
	澄川幸志	助教	運動とリハビリテーション(B)	8

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
12 年度				

2）学部教育

(1) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	一戸とも子	教授	看護教育学概論 看護科教育法Ⅰ 看護教育学演習	2 3 3	16 32 16
	山辺英彰	教授	疾病論Ⅰ 人体機能形態学演習	1 1	30 10
	木田和幸	教授	環境衛生学 衛生学公衆衛生学 衛生学公衆衛生学 地域保健学 保健統計学 検査科学総合演習Ⅰ	2T 2T 3R 1N 2N 4T	16 32 16 14 32 4
	西沢義子	教授	コミュニケーション論 看護教育方法論 看護教育課程論 看護科教育法Ⅱ 地域看護方法論Ⅰ	1 2 4 3 2	4 26 15 28 4
	尾田　敦	教授	理学療法学総論演習 筋骨格系障害学 筋骨格系障害学演習 義肢装具学 日常生活活動分析学 筋骨格系障害義肢装具学演習 神経系障害装具学演習 理学療法研究演習 スポーツ障害理学療法学演習 成人看護学演習	1 2 2 2 2 2 3 3 3 3	6 12 8 15 15 30 30 15 30 2
	古川照美	准 教 授	地域保健学 地域看護方法論Ⅰ 地域看護方法論Ⅱ 地域看護学演習	1 2 3 3	12 12 18 30
	北宮千秋	准 教 授	保健学概論 保健学概論演習 公衆衛生看護学概論Ⅰ 地域看護学概論 地域看護方法論Ⅰ 地域看護方法論Ⅱ 地域看護学演習 卒業研究	1 4 1 2 2 3 3 3	2 2 15 15 18 8 30 2
	三崎直子	講師	助産学概論 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学Ⅳ 卒業研究	3 3 3 3 3	4 15 15 15 2

12 年度	佐藤真由美	講師	看護技術学 看護技術学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅱ 看護過程論演習	2 2 2 2	30 48 24 30
	漆坂真弓	講師	成人看護方法論Ⅰ	2	4
	小倉能理子	講師	看護教育学演習 看護技術学演習Ⅱ 看護科教育法Ⅱ 教職入門	3 2 3 2	16 22 30 30
	平川裕一	講師	身体障害作業療法学 高次脳機能障害作業療法学 身体障害作業療法学演習 身体疾患別作業療法学 研究方法論演習：身体障害分野	2 2 3 3 3	30 15 30 30 30
	吉田英樹	講師	物理療法学 理学療法管理・運営論 地域リハビリテーション論 福祉住環境学 理学療法学総論演習 脳障害理学療法学演習 内部障害系理学療法学演習 理学療法研究演習	2 3 3 3 1 3 3 3	26 8 12 6 6 16 2 30
	冨澤登志子	講師	成人看護方法論Ⅰ	2	30
	西村美八	助教	地域看護方法論Ⅱ 地域看護学演習 地域保健学 卒業研究	3 3 1 3	6 30 6 6
	澄川幸志	助教	整形外科学演習 研究方法論演習	2 3	6 30
	赤池あらた	助手	物理療法学 内部障害系理学療法学演習 内部障害系理学療法学演習 成人看護学演習 福祉機器適合論	2 3 3 3 3	4 4 4 6 16
	會津桂子	助教	看護技術学 看護過程論演習 看護科教育法Ⅱ 看護教育方法論	2 2 3 2	15 30 30 30
	倉内静香	助教	地域看護学演習 卒業研究 地域保健学	3 3 1	30 8 2
	安杖優子	助手	看護過程論演習 看護技術学 卒業研究	2 2 3	30 15 8
	北島麻衣子	助教	成人看護学演習 卒業研究 成人看護方法論Ⅰ	3 3 2	30 4 1

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	一戸とも子	教授	教育実習事前・事後指導	4	6
	木田和幸	教授	衛生学公衆衛生学実習	3T	45
	西沢義子	教授	教育実習事前事後指導	4	6
	尾田　敦	准 教 授	筋骨格系障害理学療法学実習	2	15
	三崎直子	講師	助産学演習	3	60
	佐藤真由美	講師	看護技術学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅱ	2 2	48 30
	漆坂真弓	講師	成人看護学演習	3	32
	小倉能理子	講師	看護技術学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅱ 教育実習事前・事後指導	2 2 4	4 32 45
	平川裕一	講師	身体障害作業療法評価学実習 義肢装具作業療法学実習 身体障害作業療法学実習	3 3 3	45 45 45
	吉田英樹	講師	物理療法学実習 理学療法評価学実習 神経系障害理学療法学実習 内部障害系理学療法学実習	2 2 3 3	39 21 12 3
	冨澤登志子	講師	成人看護学演習	3	15
	澄川幸志	助教	人体機能学実習 身体障害作業療法学実習 軽作業作業療法学実習 日常生活活動能力学実習	2 3 1 3	45 45 45 45
	赤池あらた	助手	内部障害系理学療法学実習 運動学実習 理学療法評価学実習 理学療法評価学実習 筋骨格系障害理学療法学実習	3 2 2 2 2	21 48 31 31 9
	會津桂子	助手 助教	看護技術学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅱ	2 2	60 90
	安杖優子	助手	看護技術学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅱ	2 2	60 90

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
12 年度	尾田　敦	准教授	2 3	60 50
	古川照美	准教授	4	270
	北宮千秋	准教授	4	270
	三崎直子	講師	4 3	225 90
	佐藤真由美	講師	2 3	65 180
	漆坂真弓	講師	3	270
	小倉能理子	講師	2 3	65 180

12 年度	平川裕一	講師	4 4	20 20
	吉田英樹	講師	2 3	45 45
	冨澤登志子	講師	3	540
	西村美八	助教	4	270
	澄川幸志	助教	4	40
	赤池あらた	助手	3 2	48 48
	會津桂子	助手	2 3	65 180
	倉内静香	助手	4 4	270 85
	安杖優子	助手	2 3	65 180
	北島麻衣子	助教	3	540

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
12 年度	山辺英彰	教授	2 4	臨床医科学 腎尿路男性生殖器と疾患	30 10

3）卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
12 年度	4 名	一戸とも子
	3 名	山辺英彰
	2 名	木田和幸
	5 名	西沢義子
	3 名	尾田敦
	4 名	古川照美
	3 名	北宮千秋
	2 名	三崎直子
	3 名	佐藤真由美
	3 名	漆坂真弓
	3 名	小倉能理子
	2 名	平川裕一
	5 名	吉田英樹
	3 名	冨澤登志子
	2 名	西村美八
	2 名	澄川幸志
	1 名	赤池あらた
	1 名	會津桂子
	1 名	倉内静香
	1 名	安杖優子
	1 名	北島麻衣子

4）大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	一戸とも子	教授	看護教育学特論(M) 小児保健看護学特論(M) 健康増進科学特講(D)	1 1 1	12 4 6
	山辺英彰	教授	国際保健医療学(M) 成人保健看護学特論(M)	1 1	8 6
	西沢義子	教授	基礎看護・看護教育学特論(M) 健康科学特論(M) 看護教育学特論(M) 教育・研究者育成コースワーク(D) 健康増進科学特講(D)	1 1 1 1 1	30 10 8 4 6
	尾田　敦	教授	運動療法学特論(M) 基礎理学療法学特論(M) 健康増進科学特論(D)	1 1 1	10 30 6
	古川照美	准教授	健康科学特論(M)	1	10
	北宮千秋	准教授	小児保健看護学特論(M)	1	6
	三崎直子	講師	母性保健看護学特論(M)	1	15
	小倉能理子	講師	看護教育学特論(M) 看護管理学特論(M)	1 1	6 6
	平川裕一	講師	身体障害者作業療法学特論(M)	1	15
	吉田英樹	講師	運動療法学特論(M) 保健学連携セミナー(M)	1 1	10 14
	冨澤登志子	講師	成人保健看護学特論(M)	1	6

(2)演習の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	山辺英彰	教授	健康増進科学特講演習(D)	1	6
	西沢義子	教授	基礎看護・看護教育学特別演習(M) 基礎看護・看護教育学特別研究(M) 被ばく医療演習（M） 健康増進科学特講演習(D) 健康増進科学特別研究(D)	1 2 1 2 2	60 60 60 60 120

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
12 年度	一戸とも子	教授	女性多数環境における男子看護学生への教育の工夫―男子看護学生の経験とそれに対する看護教員の認識から―(M)

12 年度	山辺英彰	教授	Factors Influencing Behavior of Taking Medicine in Elderly Patients Undergoing Hemodialysis (D)
	西沢義子	教授	重粒子線治療を受ける患者の急性放射線障害とQOL について－前立腺がんの場合(M)
			子宮頸がん検診受診行動の実態と受診率向上に向けた健康教育プログラムの有効性についての研究(D)

5）その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　　称　　等
12 年度	一戸とも子	教授	平成 24 年度弘前大学 FD ワークショップ(第 14 回)「能動的学習（アクティブ・ラーニング）」 平成 24 年度弘前大学 FD シンポジウム
	木田和幸	教授	H24 年度「公開授業・検討会」の授業担当 平成 24 年度ＦＤミニフォーラム「公開授業のあり方について(公開授業検討会を含む)」 ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」 ＦＤ講演会　第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」
	西沢義子	教授	公開授業への参加（一戸とも子教授） ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」
	尾田　敦	准教授	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」
	古川照美	准教授	保健学研究科独自の公開授業（伊藤巧一准教授）
	北宮千秋	准教授	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」
	三崎直子	講師	公開授業・検討会、平成 24 年度ＦＤミニフォーラム)、ＦＤ講演会の企画、運営 第 19 回大学教育研究フォーラム参加(京都大学)
	佐藤真由美	講師	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」
	漆坂真弓	講師	保健学研究科独自の公開授業（伊藤巧一准教授）
	小倉能理子	講師	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」
	平川裕一	講師	ＦＤ講演会　第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」
	冨澤登志子	講師	21 世紀教育公開講座「人を育む営み(C)」 ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」 ＦＤ講演会　第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」
	澄川幸志	助教	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」 ＦＤ講演会　第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」 保健学研究科独自の公開授業(伊藤巧一准教授) ＦＤシンポジウム

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
12 年度	山辺英彰	教授	疾病論	弘前学院大学	30
	木田和幸	教授	公衆衛生学 公衆衛生学	東北栄養専門学校 厚生病院附属看護学院	30 14
	西沢義子	教授	基礎看護方法論Ⅳ（看護研究） 地域看護学Ⅰ	国立病院機構弘前病院附属看護学校 青森県立保健大学	10 4
	北宮千秋	准教授	公衆衛生学 公衆衛生学 保健医療福祉のしくみ	弘前医療福祉短期大学 黒石高等学校専攻科 医師会看護専門学校	30 15 16
	三崎直子	講師	周産期医学 母子保健から今日の若者の健康を考える	弘前医療福祉大学 弘前大学教員免許状更新講習	30 3
	小倉能理子	講師	放射線の基礎と放射線看護	弘前大学教員免許状更新講習	2
	吉田英樹	講師	リハビリテーション医学 理学療法学	弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学	16 8
	冨澤登志子	講師	英語Ⅱ	国立弘前病院看護学校	30
	澄川幸志	助教	訪問介護員養成研修2級課程に関する講義	青森県立弘前実業高校	2
	赤池あらた	助手	在宅看護援助論 2 介護技術論	弘前市医師会看護専門学校 青森歯科衛生士専門学校	10 36

３．研究活動

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1．Yamabe H, Shimada M, Murakami R, Fujita T, Shimaya Y, Nakamura N．Mizoribine suppresses proliferation of rat glomerular epithelial cells in culture and inhibits increase monocyte chemoattractant protein-1 and macrophage inflammatory protein-2 stimulated by thrombin．Biol Pharm Bull，35．705-708, 2012．

2. Ogura N, Nishizawa Y. Relationship between Career Commitment and Achievement Motive of Nurses Working in Government-run Hospitals in Japan．Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology，22(1)．17-27,2012.

3．Tomisawa T, Sasa H, Tachibana M, Itaki C, Aizu K, Ohgino A, Kitajima M, Urushizaka M, Kawasaki K, Noto Y, Yamabe H．Changes in the Educational Effects and Radiation Risk

Perception by Radiological Education for the Students of School of Health Sciences. Radiation Emergency Medicine, 2(1). 56-63, 2013.

4. Sumigawa K, Takahashi I, Matsuzaka M, Danjo K, Koeda S, Hirakawa Y, Kogawa T, Kamitani H, Umeda T, Nakaji S. Risk Factors of Osteoporosis according to the Number of Years after Menopause. Hirosaki Med J, 63(1). 38-47, 2012.
5. Kitajima M, Noto Y, Kudo U, Urishizaka M, Tomisawa T, Itaki C, Kawasaki K, Yamabe H, Hayashi A, Takanashi S. Stress assessment by salivary biomarkers in patients with lung cancer undergoing chemotherapy. JCT, 3. 127-131, 2012.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. Ozawa K, Yamabe H, Endo M, Tomisawa T, Niki S, Yamanouchi S, Kitajima M, Urushizaka M, Kawasaki K, Itaki C, Noto Y. Factors Influencing Behavior of Taking Medicine in Elderly Patients Undergoing Hemodialysis. Journal of Nephrology, 2. 38-43, 2012.
2. Shutto Y, Yamabe H, Shimada M, Fujita T, Nakamura N. Quality of life in patients with minimal change nephrotic syndrome. Scientific World Journal doi:10.1155/2013/124315, Feb 28, 2013
3. Satoh J, Mizuki N, Kurosawa M, Nishizawa Y. Efficacy of Health Education Using Protection Motivation Theory for Primary Prevention of Diabetes in Young Adults- with Focus on Diabetes Knowledge, Preventive Health Behavior, and Physical Activity-. Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology, 22(1). 28-36, 2012.
4. Harata T, Noda M, Saito K, Kogawa T, Kitamiya C, Kida K, Kidachi R, Tsushima E, Yonaiyama C, Nisimura M, Kurauchi S, Otsu H, Kitajima Y, Makino M, Akaike A, Koeda S, Koike Y, Narita T, Mita R. The relationship between bone density and walking speed of the elderly people attending the Kotobuki college of T town in Aomori prefecture. Journal of Health Science Research, 3. 61-69, 2013.
5. Itaki C, Tomisawa T, Aizu K, Ohgino A, Yamabe H . Changes in Nurses' Radiation Risk Perception by Attending the Training Course for Radiation Emergency Medicine. Radiation Emergency Medicine, 2(1). 50-55, 2013.
6. Koeda S, Sumigawa K, Koike Y, Sato C, Imai H, Tensaka S, Osanai T. Risk factors for post-stroke depression in patients treated with occupational therapy. Med Biol, 156(10). 715-722, 2012.
7. Iwane K, Takahashi I, Danjo K, Matsuzaka M, Akaike A, Osato R, Kai T, Honda K, Umeda T, Nakaji S. The Influence of Occupation and Working Hours on Neutrophil Function in the General Adult Population of Japan. JPFNI, 22(1). 8-16, 2012.
8. Kubosawa S, Ny Ony NR, Kitajima M, Noto Y, Yamabe H. Attitude survey of nursing students in Madagascar and Japan. OJN, 2. 79-84, 2012.
9. Koeda S, Takahashi I, Umeda T, Matsuzaka M, Sumigawa K, Kogawa T, Hirakawa Y, Kamitani H, Totsuka M, Nakaji S. Effects of Changes in Physique and Lifestyle on Bone Mineral Density in the Early Teens. Hirosaki Med J, 63(1). 28-37, 2012.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Shimaya Y, Shimada M, Shutto Y, Fujita T, Murakami R, Nakamura N, Yamabe H, Okumura K. Thrombin Stimulates Synthesis of Macrophage Colony-Stimulating Factor, Granulocyte-Macrophage Colony-Stimulating , Factor and Granulocyte Colony-Stimulating Factor by Human Proximal Tubular Epithelial Cells in Culture. Nephron Extra, 2. 1-8. 2012.
2. Saito K, Umeda T, Kamitani H, Hirakawa Y, Iwane K, Sumigawa K, Koeda S, Takahashi I, Matsuzaka M, Nakaji S. The Association between Body Composition and Obesity-Related

Conditions of University Male SumoWrestlers. International Journal of Life Science and Medical Research, 2(4). 13-18, 2012.

3. Saito Y, Takahashi I, Iwane K, Okubo N, Nishimura M, Matsuzaka M, Wada N, Miwa T, Umeda T, Nakaji S. The influence of blood glucose on neutrophil function in individuals without diabetes. Luminescence. 2013 Mar 19. doi: 10.1002/bio.2495.
4. Yaegashi Y，Satoh A，Kudoh H，Lee S，Kitamiya C，Butler JP，Sasaki H．Diets of obese and non-obese older subjects．health, 5(3)．361-363，2013.

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 北宮千秋，佐藤厚子，冨澤登志子，葛西敦子．役割を考慮した保健師と養護教諭の連携促進への期待． 保健科学研究，3．1-11，2013.
2. 三崎直子，高梨一彦，山内瑶子，高間木静香．双子に対する母親のとらえ方と授乳との関わり．保健科学研究，3．45-50，2013.
3. 三崎直子，高梨一彦．A県における未受診妊婦支援の施策に関する基礎調査(1)－調査の概要とフェースシート等－．保健科学研究，3．33-42，2013.
4. 澄川幸志，小枝周平，小池祐士，酒井裕美．ペーパークラフトにおける作業活動中のフロー体験と心理的効果の関係．臨床作業療法, 9(6)．664-669, 2012.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 齋藤久美子，横田ひろみ，一戸とも子，小倉能理子，佐藤真由美．看護職者が高齢者への患者指導を実施する上で感じる困難．保健科学研究，3．51-60，2013.
2. 原子千鶴，黒澤繭子，西沢義子．頭頚部がん患者の QOL に関する研究．保健科学研究, 3．13-22，2013.
3. 黒澤繭子，佐藤純子，水木暢子，原子千鶴，西沢義子．医学中央雑誌からみた医療安全に関する研究の動向．秋田看護福祉大学総合研究所研究所報，8．26‐33，2013.
4. 中野京子，武尾照子，藤岡美幸，西沢義子，會津桂子．接遇に関する教育の臨地実習における有効性の検討—アンケート調査から—. 臨床検査学教育, 4(2). 67‐74, 2012.
5. 山内瑶子, 三崎直子. 重量感に焦点をあてた胎盤モデルの作成の試み. 保健科学研究, 3．135-140，2013.
6. 山内真弓，野戸結花，小倉能理子，西沢義子，山辺英彰，細川洋一郎，青木昌彦，堤弥生．放射線治療を受けている乳がん患者の急性放射線障害と QOL．日本放射線看護学会誌，1．13-21, 2013.
7. 上谷英史，平川裕一，金谷圭子，浦瀬康太．非利き手での箸操作練習を継続した際の筋活動と操作時間,操作印象との関係．総合リハビリテーション，40(12)．1533-1539, 2012.
8. 湯浅敦智，吉田英樹．運動前の温熱刺激が筋疲労耐性に与える影響．理学療法科学，27(6)．623-627，2012.
9. 成田大一，吉田英樹，大森俊輔，千葉正司，尾田 敦，石川大瑛，高橋信人，外崎敬和．電気生理学的モーターポイントと解剖学的モーターポイントは一致するか？．東北理学療法学，24．5-10，2012.
10. 照井駿明，吉田英樹，川口梨沙：キセノン光の星状神経節近傍照射が覚醒度に及ぼす影響に関する検討．東北理学療法学，24．85-91，2012.
11. 小林健幸，吉田英樹．キセノン光の星状神経節近傍照射が上肢筋の筋力増強効果及び筋肉痛に及ぼす影響．理学療法の歩み，23．22-28，2012.
12. 野戸結花，冨澤登志子，井瀧千恵子，西沢義子，一戸とも子，工藤せい子，木立るり子，北島麻衣子，山辺英彰，浦田秀子，松成裕子．がん放射線療法看護認定看護師の活動に関する現状と課題．日本放射線看護学会誌，1(1)．22-29，2013.
13. 井瀧千恵子，冨澤登志子，北島麻衣子，漆坂真弓，工藤うみ，野戸結花，川崎くみ子，

田上恭子，山辺英彰．2 型糖尿病患者の健康プログラム介入群と対照群の身体活動量の比較．保健科学研究，3．79-84，2013.

14. 田上恭子，冨澤登志子，北島麻衣子，工藤うみ．グループワークを組み合わせた運動プログラムの心理的効果：糖尿病患者に対する効果的なプログラム開発に向けて．Asian Journal of Human Services, 2．67-80, 2012.
15. 平塚磨奈，工藤せい子，冨澤登志子，西沢義子．就業年数別にみた看護者の対人態度について.弘前大学医学部附属病院看護部紀要, 12．50-53, 2012.
16. 小池祐士，澄川幸志，小枝周平，原 長也．脳卒中患者の入院時 ADL 能力とリハビリテーション訓練時間の違いが退院時 ADL 能力と転帰先に与える影響．作業療法ジャーナル, 47(3)．274-280，2013.
17. 今井寛人，小枝周平，清水寛己，佐藤真央，高橋 良，小池祐士，澄川幸志．脳卒中後疼痛が心身機能および健康関連 QOL に与える影響. Pain Rehabilitation, 2(1)．17-22, 2012.
18. 菅田奈々子，赤池あらた．在宅生活を送る重症心身障害児者における理学療法利用度と介護負担の関連性．東北理学療法学，24．59-64，2012.
19. 則包和也，川添郁夫，倉内静香，小野志麻子．精神看護学実習における患者の認知と感情に着目する記録様式の評価．保健科学研究，3．125-134，2013.
20. 高間木静香，北島麻衣子，三崎直子，五十嵐世津子，工藤せい子，山辺英彰，貝塚満明．成人女性に対する「湧泉」・「太谿」の指圧効果―冷え症の有無による指圧効果の違い―．青森県立中央病院誌，57(4). 135-141, 2012.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 三國裕子，一戸とも子．看護学生の批判的思考態度に関する研究．日本看護研究学会雑誌，35(1)．79-88，2012.
2. 三國裕子, 一戸とも子．２年課程専門学校における看護学生の批判的思考態度の構造．保健科学研究，3．23-31，2013.
3. 蛯子智子，長谷川至，尾田 敦，赤石孝一，片野 博．大腿骨近位部骨折の術後 1 週での平行棒内立ち上がり動作獲得に影響を与える因子について．東北理学療法学，24．11-15, 2012.
4. 對馬史織，尾田 敦，成田大一，高橋信人，石川大瑛．後足部アライメントを考慮した前足部可動性の測定方法の開発．東北理学療法学，24．28-33, 2012.
5. 須藤 宗，岡村良久，津田英一，尾田 敦，安田友久，長谷川至．高校野球大会における救護活動報告．青森県スポーツ医学研究会誌, 21．33-37, 2012.
6. 村岡祐介,小池祥太郎,古川照美. 満床時の転棟による患者のストレス程度とその要因. 医学と生物学，156(8)，533-539,2012.
7. 高梨一彦，三崎直子．Ａ県における未受診妊婦支援の施策に関する基礎調査(2)－背景要因の分析を中心に－．和洋女子大学紀要，53．179-193，2013.
8. 飯野香理，樋口 毅，伊東麻美，阿部和弘，山内瑤子，三崎直子，田中幹二，水沼英樹．妊娠時の血圧値と将来の生活習慣病発症の関連性～母子手帳の解析から～．日本妊娠高血圧学会会誌，20．62-64，2013.
9. 飯野香理，柞木田礼子，阿部和弘，谷口綾亮，三崎直子，樋口 毅，中路重之，水沼英樹．FRAX の骨粗鬆症性一次スクリーニングの有用性に関する検討．日本女性医学学会雑誌，20(3)．386-389，2013.

2）総説

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Nakamura N, Fujita T, Murakami R, Kumasaka R, Shimada M, Shimaya Y, Hiroshi Osawa, Yamabe H, Okumura K, Yachie A. A case of familial Mediterranean fever-associated systemic amyloidosis. CEN Case Reports DOI: 10.1007/s13730-011-0002-1
2. Shimada M, Fujita T, Nakamura N, Narita I, Shimaya Y, Murakami R, Yamabe H, Osawa H, Okumura K. A case of myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody (MPO-ANCA)-associated glomerulonephritis and concurrent membranous nephropathy. BMC Nephrol doi:10.1186/1471-2369-14-73, Mar28,2013.

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 一戸とも子，木立るり子．学部，大学院，現職者における被ばく医療教育の概要―大学院を中心に―．看護研究，46(1)．32-38，2013.
2. 西沢義子．被ばく医療における人材育成のこれから．看護研究，46(1)．77‐82，2013.
3. 冨澤登志子，漆坂真弓，北島麻衣子．緊急被ばく医療に関連した看護研究の動向．看護研究，46(1)．13-22, 2013.
4. 冨澤登志子．糖尿病の運動療法．弘前市医師会報, 48(1)．49-52, 2013.
5. 會津桂子，北島麻衣子，安杖優子．海外における被ばく医療教育-研修から得た学び④米国 UCSF 研修を通して、米国のがん放射線治療と看護を考える．看護研究, 46(1), 71-76, 2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 木立るり子,齋藤久美子,古川照美.プロジェクトにおける体制づくりと研修の展開、諸機関との連携．看護研究,46(1),23-31,2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 島田美智子，山辺英彰．肝腎症候群．別冊　日本臨床　新領域別症候群シリーズ No.18 腎臓症候群(下)．565-566, 2012.
2. 大沢 弘，山辺英彰，中村典雄，白戸研一．肝性 IgA 腎症．別冊　日本臨床　新領域別症候群シリーズ No.18　腎臓症候群(下)．567-570, 2012.
3. 島田美智子，山辺英彰．肝炎ウィルス．別冊　日本臨床　新領域別症候群シリーズ No.18　腎臓症候群(下)．664-668, 2012.
4. 中村典雄，島田美智子，藤田 雄，山辺英彰，奥村 謙．Tolvaptan 投与後血液浄化療法を離脱した1例．内科，110．321－324，2012.

3）著書

英文

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 島田美智子，山辺英彰：感染症に伴う腎障害（敗血症、HCV 腎症、HBV 腎症、パルボウィルスなど）．草野英二，編．腎・透析診療　最新ガイドライン．57-60，総合医

学社，東京，2012.

2. 島田美智子，山辺英彰：HCV 関連腎症：副腎皮質ステロイド薬、インターフェロンとその他の治療薬．小林正貴他，編．腎疾患治療のエビデンス．88-90，文光堂，東京，2012.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 北宮千秋，他 29 名著．クエスチョン・ バンク保健師国家試験問題解説 2013. MEDIC MEDIA,東京,2012（分担執筆）
2. 北宮千秋，他 8 名監修．保健師国家試験のためのデータマニュアル　保健師 2013, MEDIC MEDIA,東京,2012（監修）
3. 佐藤真由美，大串靖子：調査研究．神郡 博．臨床実践に役立つ看護研究ガイド基礎と実践．第 1 版．88－100，看護実践の科学社，東京，2013.
4. 木村紀美，佐藤真由美，齋藤美紀子：調査研究の実際．神郡 博．臨床実践に役立つ看護研究ガイド基礎と実践．第 1 版．182－189，看護実践の科学社，東京，2013.

4）その他

英文

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 金谷圭子，佐藤志穂，鈴木直人，平川裕一．腕帯固定型自動電子血圧計を片手で使用するためのスイッチ増設改造, 21(1). 57-63, 2013.

Ⅱ．学会、研究会等の発表

1）国際学術集会

A.特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1. Nishizawa Y, Noto Y, Itaki C, Tomosawa T, Kidachi R, Ichinohe T, Kudo S, Yamabe H. The plan of educational program for Certified Nurse Specialist in radiological nursing at Hirosaki University. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, 2012.
2. Kidachi R, Nishizawa Y, Yamabe H, Chiba S, Noto Y, Kitamiya C, Ishikawa T, Sumigawa K, Narita H, Osanai M. Planning and results for the staff education in radiation emergency medicine: Summarization in the planning department. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, 2012.
3. Tomisawa T, Koeda S, Itaki C, Ohtomo Y, Wakayama S, Ichinohe T, Nakamura T. Practice and Evaluation on Education Program of Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University. 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicineat Hirosaki University. Hirosaki, 5-8, 2012.

C.一般演題（ポスター発表を含む）

1. Nishizawa Y, Kitamiya C, Noto Y, Aizu K. Study of the impression of the HAZMAT suit- a comparison between nursing students and nurses. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars, Bangkok, Thailand, 2013.
2. Noto Y, Shikanai H, Nishizawa Y, Ogura N, Kudo E, Yamabe H, Hosokawa Y, Aoki M. Acute Radiation Syndrome and Quality of Life in Head and Neck Cancer Patients Undergoing Radiation Therapy. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, 2012 .
3. Kogawa T, Nishimura M, Kurauchi S, Takahashi I, Matsuzaka M, Umeda T, Nakaji S. Association between Indefinite Complaints, Physical Features and Blood Biochemistry of Junior High School Students. The 9th international conference with the global net work of WHO collaborating centers foe nursing and midwifery, Kobe, 2012.
4. Kogawa T, Kashiwakura I. Association between Obesity and Serum Reactive Oxygen Metabolites in Adolescents. The 2ns Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, Taiwan, 2012.
5. Kitamiya C, Nishizawa Y, Fujita A, Kawazoe I. Feature of family support by nursing students of different training courses in Japan, The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars, Thailand, 2013.
6. Kitamiya C, Noto Y, Odagiri T. Mental health care by nurses during a nuclear disaster. The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centers for Nursing and Midwifery, Kobe, 2012.
7. Kitamiya C, Kidachi R. Responses to the consultations provided to residents by public health nurses following a nuclear disaster. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, Hirosaki, 2012.
8. Kumagai T, Lee S, Kitamiya C, Sato A, Hashimoto J, Kavanagh B, Suzuki T. Physical Characteristics of residents in low life expectancy regions in Japan. The 16th International Congress of Dietetics, Sydney, 2012.
9. Misaki N. Prototype "Clear Bath“. The ICM Asia Pacific Regional Conference, Hanoi, 2012.
10. Urushizaka M, Noto Y, Ogura N, Kitajima M, Nishizawa Y, Ichinohe T, Yamabe H. Change in impression of radiation in nurses before and after they attended education seminars on radiation. The 16Th EAFONS. Bangkok, Thailand, 2013
11. Ogura N, Noto Y, Nishizawa Y, Yamabe H, Yamauchi M, Tsutsumi T. Factors influencing the occurrence of dermatitis in patients with breast cancer during radiotherapy. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars. Bangkok, Thailand, 2013.
12. Noto Y, Ogura N, Urushizaka M, Kitajima M, Nishizawa Y, Ichinohe T, Yamabe H. The attitude of nurses for radiation emergency medicine and its structure. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars, Bangkok, Thailand, 2013.
13. Noto Y, Ogura N, Urushizaka M, Kitajima M, Nishizawa Y, Ichinohe T, Yamabe H. Development of the Attitude Scale during Radiation Emergency Medicine for Japanese Nurses and Evaluation of its Reliability and Validity. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University. 26, 2012.
14. Tomisawa T, Itaki C, Aizu K, Ohgino A, Tagami K. The relationship risk perception on radiation and radiological knowledge on nurse after the Hukushima Dai-ichi Nuclear Power Plants disaster. 2th Asian Society of Human Services Congress. 108-109, Okinawa, Japan, 2012.
15. Tagami K, Itaki C, Tomisawa T, Kitajima M, Urushizaka M. The effects of a self-management support program for lifestyle-related diseases on communication skills of nursing students. 2th

Asian Society of Human Services Congress, 97-99, Okinawa, Japan, 2012.

16. Tomisawa T, Aizu K, Itaki C, Ohgino A, Yamabe H. Effects on Risk Perception on Radiation of Nurses after the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plants Accident 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicineat Hirosaki University. Hirosaki, 2012.
17. Aizu K, Tomisawa T, Itaki C, Ohgino A. Factors affecting the radiation risk perception of students enrolled in a health sciences school. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars, Bangkok, Thailand, 2013.
18. Kitajima M, Urushizaka M, Tomisawa T, Itaki C, Noto Y, Tagami K, Ozawa K. The psychological effects of walking for diabetes patients at Shirakami-Sanchi in Japan. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars. Bangkok, Thailand, 2013.
19. Yokota H, Kitajima M, Kitajima Y, Takamagi S, Itaki C. Effective decontamination against injuries radiological contamination -How far does the decontamination splash radiological materials around the injury?-. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars, Bangkok, Thailand, 2013.

2）全国学術集会

A．特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

なし

C．一般演題（ポスター発表を含む）　43 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

1．冨澤登志子

日本カシス協会（平成 24 年 9 月 1 日-平成 25 年 8 月 31 日）

Ⅴ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1．西沢義子

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：緊急被ばく医療におけるサーベイメータアラーム音と防護服の改良に関する研究

配分額：　800（千円）

2．古川照美

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：育児支援・少子化に資する地域愛着形成プログラムの開発

配分額：　800（千円）

3．漆坂真弓

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：慢性閉塞性肺疾患患者のセルフモニタリングによる運動療法支援プログラムの開発

配分額：　2,210　（千円）

4．平川裕一

研究種目：若手研究(B)

研究課題名：身体組成が呼吸機能に及ぼす影響についての大規模疫学研究
配分額：　800（千円）

5. 冨澤登志子
研究種目：若手研究(B)
研究課題名：看護師に対するｅラーニングを用いた糖尿病の運動指導実践能力教育プログラムの構築
配分額：　500（千円）

6. 倉内静香
研究所目：若手研究（B）
研究課題名：ヘリコバクター・ピロリ感染、萎縮性胃炎と生活習慣に関連した縦断研究
配分額：　650（千円）

7. 安杖優子
研究種目：若手研究(B)
研究課題名：乳がん術後リンパ浮腫と身体組成および上肢障害との関連性
配分額：　500（千円）

8. 北島麻衣子
研究種目：若手研究（B）
研究課題名：精油を用いた看護ケアによるがん患者のストレス緩和効果の検証
配分額：　1,430（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.古川照美，西村美八
研究種目：基盤研究(C)
研究課題名：精神科病院における社会的入院患者数減少に向けた退院支援評価指標の開発と実証
研究代表者名：石崎智子
配分額：　100（千円）

2. 漆坂真弓，冨澤登志子，北島麻衣子
研究種目：基盤研究（C）（一般）
研究課題名：糖尿病セルフマネジメント支援に関する学生教育プログラムの開発
研究代表者名：井瀧千恵子
配分額：　1,690（千円）

2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

1.西沢義子
助成名：学術振興会受託研究
研究課題名：看護教育学・学校保健分野に関する学術研究動向調査研究
配分額：　1,700（千円）

他研究単位との研究分担者として
なし

3）学内の研究助成

研究代表者として

1. 一戸とも子
助成名：特定プロジェクト教育研究センター　研究経費
研究課題名：看護職者の教育力開発支援センター　研究・開発部門
配分額：　180（千円）

2. 山辺英彰
助成名：特定プロジェクト教育研究センター　研究経費
研究課題名：生活習慣病の療養に関する教育、研究、地域支援事業
配分額：　740（千円）
3. 西沢義子
助成名：保健学研究科被ばく医療人材育成プロジェクト
研究課題名：放射線治療を受ける患者の日常生活上の問題点と QOL
配分額：　750（千円）
4. 西沢義子
助成名：特定プロジェクト教育研究センター　研究経費
研究課題名：看護職者の教育力開発支援センター・現職者支援部門
配分額：　500（千円）
5. 北宮千秋
助成名：緊急被ばく医療支援人材育成プロジェクト
研究課題名：地域における健康危機管理システム構築のための保健師に関する研究
配分額：　539（千円）
6. 吉田英樹
助成名：平成 24 年度弘前大学科研費獲得支援事業
研究課題名：キセノン光線の星状神経節近傍照射を用いた新しい睡眠改善法の開発
配分額：　100（千円）
7. 冨澤登志子
助成名：弘前大学若手研究者支援事業
研究課題名：喫煙者のカシスによる血管内皮機能および酸化ストレスへの短期的影響に関する研究
配分額：　425（千円）
8. 會津桂子
助成名：弘前大学科学研究費獲得支援事業
研究課題名：看護学教育における思考・判断力育成のための教育プログラムの構築
配分額：　150（千円）
9. 澄川幸志
助成名：平成 24 年度弘前大学科研費獲得支援事業
研究課題名：作業活動を用いた認知症リハビリテーションの開発
配分額：　150（千円）

他研究単位との研究分担者として
1. 冨澤登志子
助成名：緊急被ばく医療人材育成プロジェクト
研究課題名：放射線医療教育における放射線リスク認知と系統的学習に関する研究
研究代表者名：井瀧千恵子
配分額：　434（千円）

4）民間の研究助成
研究代表者として
1. 冨澤登志子
助成名：24 年度日本カシス協会研究助成
研究課題名：喫煙後の抗酸化食品摂取(カシス)による血管内皮機能および酸化ストレスへの短期的影響に関する研究
配分額：　450（千円）

他研究単位との研究分担者として
なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

1）国際交流、国際的活動

a) 国際学術集会の主催
なし

b) 外国人研究者の招聘、受け入れ状況
1. 漆坂真弓
Peggy Davis, Dr
Department nursing of university of Tennessee at Martin
United States of America
2012.10.22-10.29

c) 外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況
なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加（3 ヵ月未満）状況
1. 北宮千秋
チェルノブイリ視察（10 月）

e) 外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況
なし

f) その他
なし

2）国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催
1. 西沢義子，第 1 回日本放射線看護学会学術集会，弘前市

b) 地方レベルの学会の主催
なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況
なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況
なし

Ⅶ. その他

1. 西沢義子
「看護研究」　46(1)，2013.　特集　被ばく医療における看護の人材育成と研究
弘前大学大学院被ばく医療人材育成プロジェクト

４．　社会貢献活動の実施状況

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
一戸とも子	日本放射線看護学会	理事
山辺英彰	日本腎臓学会	評議員
木田　和幸	日本衛生学会 日本臨床検査学教育学会 日本産業衛生学会	評議員 評議員 代議員
西沢義子	日本看護研究学会 東北学校保健学会 日本放射線看護学会 日本看護系学会協議会 日本ヒューマンケア学会	評議員 世話人 理事 指名理事 評議員
尾田　敦	青森県スポーツ医学研究会 青森県スポーツドクターの会トレーナー部会 メタボリック症候群対策事業化研究会	世話人 副部会長 副会長
平川裕一	一般社団法人青森県作業療法士会 一般社団法人青森県作業療法士会	全県理事 事務局長
冨澤登志子	日本放射線看護学会	理事
會津桂子	青森県看護教育研究会	連絡員
倉内静香	青森継続看護研究会	役員

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
西沢義子	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	大会長
北宮千秋	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	企画委員
佐藤真由美	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	企画委員
漆坂真弓	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	企画委員
小倉能理子	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	企画委員
冨澤登志子	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	企画委員
會津桂子	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	企画委員
倉内静香	第 14 回青森継続看護研究集会	企画委員
北島麻衣子	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	企画委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
一戸とも子	日本看護研究学会	査読委員
山辺英彰	日本腎臓学会雑誌 Scientific world journal International nursing review	査読委員 査読委員 査読委員
尾田　敦	理学療法研究	査読員
古川照美	Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology	査読員
佐藤真由美	日本看護技術学会 保健科学研究	専任査読委員 査読員
漆坂真弓	保健科学研究	査読員

平川裕一	青森県作業療法研究 青森県作業療法研究	論文査読委員 症例査読委員
吉田英樹	日本理学療法士協会東北ブロック協議会学術機関誌「東北理学療法学」	論文査読委員
澄川幸志	青森県作業療法士会 青森県作業療法士会	論文査読委員 症例査読委員

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
一戸とも子	第 38 回日本看護研究学会学術集会	査読委員
尾田　敦	日本理学療法学術大会	審査員
三崎直子	日本母性看護学会	審査員
平川裕一	日本作業療法学会	演題審査委員
吉田英樹	第 48 回日本理学療法学術大会（領域：物理療法，基礎理学療法）	演題査読委員
冨澤登志子	日本糖尿病教育・看護学会	査読委員
澄川幸志	第 25 回青森県作業療法学会	座長

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
西沢義子	現職者支援部門セミナー 患者支援のためのインタープロフェッショナルワーク（2 回開催）	代表
古川照美	平成２４年度弘前大学連続講演会 三沢市公開講座 十和田市家庭教育応援事業	講師 講師 講師
三崎直子	青年講座「イクメン講座」 青年講座「大人の保健体育」 講座「体験しよう」 公民館活動(よろず相談)	講師 講師 講師 講師
平川裕一	弘前大学大学院医学研究科健康・スポーツ医科学センター 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト　プロジェクト健診」 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト　運動教室（岩木地区）」 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト　運動教室（駒越地区）」 弘前大学「相馬健康増進プロジェクト　運動教室」	講師 身体機能計測員 運動指導講師 運動指導講師 運動指導講師
漆坂真弓	2012 年度公開講座弘前大学「山野いきいきウォーキング」事業	企画運営

冨澤　登志子	2012 年度公開講座弘前大学「山野いきいきウォーキング」事業	企画運営委員
澄川幸志	弘前大学「岩木健康増進プロジェクトプロジェクト健診」 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト運動教室」	身体機能計測員 運動指導講師
赤池あらた	岩木地区運動教室 青森県社会福祉協議会地域・家族介護講座 「失禁予防」「介助動作と福祉用具」	指導員 講師
會津桂子	現職者支援部門セミナー 患者支援のためのインタープロフェッショナルワークセミナー（2 回開催）	センター員
安杖優子	現職者支援部門セミナー 患者支援のためのインタープロフェッショナルワークセミナー（2 回開催）	センター員
北島麻衣子	白神ウォーキング（すこやかコミュニティセンター生活習慣病フォローアップ部門）	企画運営

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
西沢義子	学術システム研究センター 新規採用養護教諭研修校外研修Ⅰ（青森県総合学校教育センター） 青森県養護教諭 5・10 年経験者研修Ⅱ（青森県総合学校教育センター）	専門研究員 講師 講師
尾田　敦	地域リハビリテーション津軽圏域広域支援センター	委員
古川照美	青森県健康寿命アップ推進会議	委員
三崎直子	青森県周産期医療協議会	委員
平川裕一	青森県介護実習・普及センター活動事業運営委員会 青森県介護実習・普及センター介護機器普及事業運営協議会	委員 副会長

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
一戸とも子	看護学の発展―ナイチンゲールの看護と最近の看護の状況―　（むつ市）	放送大学客員教員
西沢義子	日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員の役割	講師

尾田　敦	第 36 回青森県理学療法士学会教育セミナー「小・中学生における足部成長と変形および運動能力の関連性について」. 青森慈恵会病院院内研修会講師「足底挿板の紹介と理論について」. 青森県スポーツドクターの会公認トレーナー養成講座講習会講師「特殊テクニック（実習）」. 第 10 回津軽地区老人福祉協議会研修会講師「車いすと姿勢，操作と適合，移乗介助について」. 青森県理学療法士会津軽支部特別講習会講師「スポーツテーピング」. (5 回開催)	講師 講師 講師 講師 講師
北宮千秋	日本地域看護学会　災害支援のあり方検討プロジェクト教育セミナー	講師
平川裕一	青森県介護実習・普及センター　目からウロコ！知って得する介護講座「介護予防教室～ゆたかな生活・あじわい深い生活は健康から～」 第 61 回青森県社会福祉大会併催平成 24 年度福祉機器展～福祉用具の日 in あおもり 2012～「介護予防のための運動ワンポイント講座」 青森県介護実習･普及センター　出張家庭介護講座「腰痛予防を考えた介護技術～受ける人，する人にやさしい技術～」	講師 講師 講師
冨澤　登志子	弘前市医師会「糖尿病の病診・診診連携に向けての講習会」	講師
赤池あらた	平成 24 年度青森県退職公務員連盟女性部研修会 「元気で笑顔の日々を！　ピンピンコロリ！」 平成 24 年度難病患者等医療相談（第 1 回） 「パーキンソン病と排泄」 「パーキンソン病のリハビリテーション」 第 1 回ハピネス講演会 「障害のある方々が使用するおむつとは？！」 八戸圏域地域リハビリテーション研修会 「排泄（基礎編）」 重症心身障害児(者)を守る会むつ研修会 「子どもの将来を考えた身体のおはなし（導入編）」	講師 講師 講師 講師 講師 講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
一戸とも子	公立野辺地病院「看護研究発表会」における研究指導	講師
西沢義子	弘前大学看護職キャリア支援センター	副センター長
尾田　敦	医療法人整友会弘前記念病院 公立七戸病院 なかざわスポーツクリニック 青森慈恵会病院	非常勤理学療法士

小倉能理子	国立函館病院看護研究の指導・助言 弘前大学医学部附属病院看護部研究委員会 弘前大学医学部附属病院看護部臨床指導者研修会	講師 委員 講師
吉田英樹	医療法人元秀会　弘前小野病院 社会福祉法人西寿会 特別養護老人ホームはまなす荘	非常勤理学療法士 リハビリ指導講師
冨澤登志子	弘前大学医学部附属病院看護部 3 年目研修（看護過程と看護診断）	講師

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職
一戸とも子	社団法人青森県看護協会実習指導者講習会「教育方法」および「教育評価」	講師
西沢義子	社団法人青森県看護協会　教育方法 社団法人青森県看護協会　認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師 講師
尾田　敦	社団法人青森県理学療法士会津軽支部	支部長
古川照美	社団法人青森県看護協会職能委員会(保健師職能) 社団法人青森県看護協会　看護研究Ⅱ(実践編) 社団法人青森県看護協会　実習指導者講習会	職能委員 講師 講師
三崎直子	青森県看護協会研究指導 弘前大学医学部附属病院看護部研究指導	講師 講師
佐藤真由美	社団法人青森県看護協会　認定看護管理者教育課程セカンドレベル	講師
平川裕一	一般社団法人青森県作業療法士会現職者共通研修「事例検討方法論」	講師
漆坂真弓	緊急被ばく医療人材育成プロジェクト　現職者研修	企画運営
冨澤登志子	糖尿病患者への運動指導実践能力育成セミナー 緊急被ばく医療人材育成事業現職者研修	講師 企画運営委員
赤池あらた	ふくせん青森ブロック　スキルアップ研修 「排泄ケア」「排泄ケアの正しい知識と技術」 平成 24 年度介護スキルアップ研修（居宅介護支援編）基礎コース　「入浴」 ふくせん青森ブロック　スキルアップ研修 「車いすの座位保持　～円背とシーティング～」 第 15 回会員業務知識向上研修会 「介護保険における特定疾病と福祉用具（前編）」 介護支援専門員（ケアマネージャー）のための特別講習会「ケアマネージャーと考える在宅生活リハビリテーションの視点～最新！在宅リハビリテーションの現状～」 平成 24 年度第 3 回地域保健関係者研修 「心に寄り添った失禁のケアとは」 平成 24 年度介護スキルアップ研修(居宅介護支援編)ステップアップコース「拘縮ケア」 平成 24 年度社会福祉法人和晃会研修会「SST の基礎」	講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師

赤池あらた	第 16 回会員業務知識向上研修会 「特定疾病の病態と福祉用具（後編）」	講師

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職
三崎直子	青年研修母子保健実施管理	講師
漆坂真弓	短期海外研修　語学研修＆医療施設視察（La・Trobe University）	引率

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
西沢義子	科学研究費助成事業（科研費）と看護学の発展 ― 看護学分科会キーワード等検討の経緯から	講師
尾田　敦	NHK 総合テレビ「ためしてガッテン！」出演 テーマ「放置すると危険！謎の扁平足で骨異常に」. 平成 24 年度青森県中体連夏季大会陸上競技 第 58 回全日本中学校通信陸上競技大会青森大会 平成 24 年度東北中学陸上競技大会 第 94 回全国高校野球選手権青森大会	解説者 トレーナー トレーナー トレーナー トレーナー
佐藤真由美	臨床看護アセスメント能力研究会「看護診断セミナー」事業（3 回開催） ドリーム講座(八戸西高校) 弘前大学看護職教育キャリア支援センター 平成 24 年度青森県看護教育研究会　研究発表会	企画運営 講師 指導者育成部門責任者 企画運営
漆坂真弓	弘前大学進学相談会（秋田県立大館高等学校） 八戸サテライト事業「看護わくわく・どきどき体験」 臨床看護アセスメント能力研究会「看護診断セミナー」事業（3 回開催） 弘前大学看護職教育キャリア支援センター 平成 24 年度青森県看護教育研究会　研究発表会	相談員 主催企画運営 指導者育成部門担当 企画運営
小倉能理子	臨床看護アセスメント能力研究会「看護診断セミナー」事業（3 回開催） 弘前大学看護職教育キャリア支援センター 弘前大学進学相談会(八戸西高校)	運営 センター員 相談員
平川裕一	ドリーム講座（八戸西高校）	講師
冨澤登志子	臨床看護アセスメント能力研究会「看護診断セミナー」事業（3 回開催）	企画運営
澄川幸志	弘前大学生協	総代

會津桂子	臨床看護アセスメント能力研究会「看護診断セミナー」事業（3 回開催）	企画運営
北島麻衣子	臨床看護アセスメント能力研究会「看護診断セミナー」事業（3 回開催） 糖尿病患者のための健康教室（すこやかコミュニティセンター生活習慣病フォローアップ部門）	企画運営 企画運営

老年保健学分野

Department of Development and Aging

１．教員

老年保健学分野(人)

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手
5	1	4	3	1

２．教育実績

1）21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
12 年度	對馬　均	教授	最新医学の現状(K)	6
	野田美保子	教授	運動とリハビリテーション（C）	8
	齋藤久美子	教授	人を育む営み（B） 基礎ゼミナール	4 30
	若山佐一	教授	放射線防護の基礎 運動とリハビリテーション（C） 基礎ゼミナール	4 8 30
	木立るり子	教授	メンタルヘルス(B)	6
	對馬栄輝	准教授	統計学の基礎	15
	鈴木光子	講師	人を育む営み(E)	4
	米内山千賀子	講師	メンタルヘルス(B) 運動とリハビリテーション（C） 基礎ゼミナール	6 6 30
	上谷英史	講師	基礎ゼミナール	30
	小枝周平	助教	運動とリハビリテーション(A)	8

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
12 年度				

2）学部教育

(2) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	對馬　均	教授	保健学概論 リスクマネジメント論 理学療法学総論 運動学 理学療法学英語 臨床判断分析学 小児理学療法学演習	1 1 1 1 2 3 3	2 2 15 30 15 15 30

12 年度	野田美保子	教授	作業療法総論 保健学概論 発達期作業療法学 老年期作業療法学 発達期疾患別作業療法 老年期疾患別作業療法 発達期･老年期作業療法学演習 リスクマネジメント 研究方法論	1 1 1 1 2 2 3 3 3	30 2 16 14 16 14 30 2 30
	齋藤久美子	教授	保健学概論 看護学概論 看護対象論 看護管理学	1 1 2 4	2 32 16 32
	若山佐一	教授	老年期障害学 神経系障害学Ⅰ 神経系障害学演習 神経筋障害理学療法学演習 理学療法評価学演習 理学療法管理・運営論 理学療法研究演習 保健学概論演習	2 2 2 3 3 3 3 4	16 16 30 26 30 6 30 2
	木立るり子	教授	コミュニケーション論 在宅看護学概論 在宅看護方法論 在宅看護学演習 家族看護論	1 2 2 3 4	8 16 8 26 15
	對馬栄輝	准教授	理学療法研究方法論 筋骨格系障害学 運動学実習 筋骨格系障害学演習 筋骨格系障害理学療法学実習 理学療法概論	3 2 2 2 2 1	16 16 45 10 15 6
	鈴木光子	講師	小児看護学概論 小児看護方法論 小児看護学演習	2 2 3	8 8 22
	米内山千賀子	講師	老年看護学概論 老年看護方法論 老年看護学演習 在宅看護学演習	2 2 3 3	10 8 14 8
	大津美香	講師	老年看護学概論 老年看護方法論 老年看護学演習 在宅看護方法論 在宅看護学演習	2 3 3 3 3	8 8 22 8 22

12 年度	上谷英史	講師	日常生活活動能力学 生活支援作業療法学 身体障害地域作業療法学 基礎作業学 基礎作業学演習 研究方法論演習 : 身体障害分野 身体障害地域作業療法学	1 3 3 1 3 3 2	30 30 15 30 30 30 15
	成田大一	助教	神経系障害装具学演習 地域リハビリテーション論 成人看護学演習 理学療法研究演習	3 3 2 3	30 2 2 15
	北嶋　結	助教	老年看護学演習 在宅看護学演習 老年看護方法論 在宅看護方法論	3 3 2 2	14 12 4 2
	小枝周平	助教	筋骨格系障害学 研究方法論演習 : 身体障害分野 筋骨格系障害学演習	2 3 2	4 30 4
	高間木静香	助手	母性看護学演習	3	12

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	對馬　均	教授	神経系障害理学療法学実習	3	27
	野田美保子	教授	発達期・老年期作業療法評価学実習	3	45
	若山佐一	教授	神経系障害理学療法学実習	3	10
	上谷英史	講師	日常生活活動能力学実習 作業分析学実習	3 3	45 45
	成田大一	助教	人体形態学実習 物理療法学実習 筋骨格系障害理学療法学実習	2 2 2	90 15 6
	小枝周平	助教	人体機能学実習 発達期・ 老年期作業療法評価学実習	2 3	45 45

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
12 年度	野田美保子	教授	2 4 4	90 20 20
	齋藤久美子	教授	2 3	65 180
	若山佐一	教授	2 3 4	45 60 30

12 年度	木立るり子	教授	4 4	150 240
	對馬栄輝	准教授	2 3 4	36 45 30
	鈴木光子	講師	3	650
	米内山千賀子	講師	4	340
	大津　美香	講師	4 4	410 210
	上谷英史	講師	4 4	20 20
	成田大一	助教	2	45
	北嶋　結	助教	4 4	440 210
	小枝周平	助教	2 4 4	90 20 20
	高間木静香	助手	3 4	450 90

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
12 年度	對馬栄輝	准教授	2	医用統計学	28
	成田大一	助教	2	解剖学実習	256

3）卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
12 年度	2 名	對馬　均
	4 名	野田美保子
	3 名	齋藤久美子
	3 名	若山佐一
	4 名	木立るり子
	1 名	對馬栄輝
	6 名	鈴木光子
	3 名	米内山千賀子
	3 名	大津美香
	1 名	上谷英史
	2 名	成田大一
	2 名	北嶋　結
	2 名	小枝周平
	1 名	高間木静香

4）大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	對馬　均	教授	臨床理学療法学特論（M） 基礎理学療法学特論（M） 老年保健学特講（D）	1 1 1	30 30 6
	野田美保子	教授	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ作業療法学特論（M） インタープロフェッショナルワーク論（D） 老年保健学特別研究（D） 老年保健学特別研究（D）	1 1 3 3	30 16 60 60
	齋藤久美子	教授	医療マネジメント（M） 看護管理学特論（M） 健康科学特論（M）	1 1 1	18 24 10
	若山佐一	教授	理学療法臨床推論特論（M） 基礎理学療法学特論（M） 老年保健学特講（D）	1 1 1	30 30 6
	木立るり子	教授	老年保健看護学特論（M） 基礎地域保健看護学特論（M） 被ばく医療看護学特論（M） インタープロフェッショナルワーク論（D）	1 1 1 1	20 30 4 16
	對馬栄輝	准教授	運動療法学特論（M） 保健疫学特論（M）	1 1	10 30
	大津美香	講師	老年保健看護学特論(M)	1	10
	小枝周平	助教	基礎作業療法学特論（M）	1	30

(2)演習の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	對馬　均	教授	理学療法学特別演習（M） 老年保健学特講演習（D）	1 2	30 30
	野田美保子	教授	老年保健学特講演習（D）	2	30
	若山佐一	教授	理学療法学特別演習（M） 被ばく医療演習（M） 老年保健学特講演習（D）	1 1 2	30 2 30
	木立るり子	教授	地域保健看護学特別演習(M)	1	30
	對馬栄輝	准教授	生活環境保健学特別演習（M）	1	30
	上谷英史	講師	身体障害者作業療法学特論（M）	1	15
	小枝周平	助教	作業療法学特別演習（M）	1	30

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
12 年度	對馬　均	教授	パーキンソン病の方向変換動作における頚部―体幹の回旋運動の特徴について(M) 高齢者の転倒回避行動に焦点を当てた寒冷積雪地における転倒予防介入の効果(D)
	齋藤久美子	教授	糖尿病患者の自己管理行動と QOL の関連性（M）
	若山佐一	教授	在宅における運動プログラムの継続 ーセルフ・エフィカシーに介入してー（M） 中国内モンゴル自治区リハビリテーション医療の現状に関する調査（M）
	木立るり子	教授	高齢化地域における Quality of Life と Social Capital に関する研究（M）
	對馬栄輝	准教授	脳卒中片麻痺患者の実用歩行速度に関連する歩行パラメータについて（M） 体幹の固定性と体幹機能の関連について（M） 腰椎椎間板ヘルニア患者に対する手術後早期からの積極的リハビリテーション実施の効果に関する調査研究（D）

5）その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参加者名	職名	名　称　等
12 年度	對馬　均	教授	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30) ＦＤ講演会 第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」(H24.10.25)
	齋藤久美子	教授	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30) ＦＤ講演会 第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」(H24.10.25)
	若山佐一	教授	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30) ＦＤ講演会 第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」(H24.10.25)
	木立るり子	教授	ＦＤシンポジウム(H24.11.3) ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30)
	大津美香	講師	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30)
	上谷英史	講師	ＦＤ講演会 第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」(H24.10.25)
	成田大一	助教	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30) ＦＤ講演会 第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」(H24.10.25) ミニフォーラム　ー公開授業のあり方（含全学公開授業検討会)ー

12 年度	成田大一	助教	公開授業　精神障害作業療法疾患学　和田一丸教授 公開授業　衛生学・公衆衛生学　木田和幸教授 公開授業　神経筋障害理学療法学演習　石川玲教授
	北嶋　結	助教	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30)
	小枝周平	助教	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30)
	高間木静香	助手	平成 24 年度保健学科・保健学研究科第 1 回 FD 講演会「英語論文の書き方」（2012/8/30） 平成 24 年度弘前大学 FD シンポジウム（2012/11/3）

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学･施設等	年間担当時間数
12 年度	野田美保子	教授	人間発達学 肢体不自由者の心理･生理・病理 虚弱者の心理・生理・病理	東北メディカル学院 弘前学院大学 弘前学院大学	30 30 30
	若山佐一	教授	人間工学 神経系障害理学療法学Ⅱ	弘前市医師会看護専門学校 秋田大学医学部保健学科	4 16
	木立るり子	教授	家族看護論 少子高齢社会におけるメンタルヘルス 高齢社会とヘルスケア	秋田看護福祉大学 弘前大学教員免許状更新講習 放送大学学園	16 3 16
	對馬栄輝	准教授	理学療法特論 理学療法発展領域論 実験的研究法 研究法	京都大学大学院医学系研究科 山形県立保健医療大学 聖隷クリストファー大学大学院 上尾中央医療専門学校	4 8 8 10

12 年度	對馬栄輝	准教授	統計学 リハビリテーション論 人間工学	弘前医療福祉大学 弘前厚生学院 弘前市医師会看護専門学校	30 30 4
	鈴木光子	講師	小児看護 小児臨床看護	黒石高校 厚生病院附属看護専門学校	10 28
	大津美香	講師	家庭看護学 成人臨床看護Ⅰ（循環器）	東北女子大学 厚生病院附属看護専門学校	30 4
	成田大一	助教	人間工学	弘前市医師会看護専門学校	6
	北嶋　結	助教	成人臨床看護Ⅰ（循環器）	厚生病院附属看護専門学校	8

３．研究業績

Ⅰ．発表論文
以下の順番で、項目別に記載し、該当するものがない場合は「なし」と記して下さい。

1）原著
英文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
1. Haruka Otsu and Michiko Moriyama: A follow-up study for a disease management program for chronic heart failure 24 months after program commencement. Japan Journal of Nursing Science, 9: 136-148, 2012.
2. Hirokazu Narita, Toshiki Tani, Yoshikazu Tonosaki: Associations between kidney position and surplus renal arteries in horseshoe kidney: case report and analysis. Okajimas Folia Anat Jpn, 89, 7-13, 2012.
3. Shuhei Koeda, Koshi Sumigawa, Yuji Koike, Chihiro Sato, Hiroto Imai, Soichiro Tensaka, Takao Osanai: Risk factors for post-stroke depression in patients treated with occupational therapy. Med Biol 156(10):715-722,2012.
4. Shuhei Koeda, Ippei Takahashi, Takashi Umeda, Masashi Matsuzaka Koshi Sumigawa, Terumi Kogawa, Yuichi Hirakawa, Hidefumi Kamitani, Manabu Totsuka, Shigeyuki Nakaji: Effects of changes in physique and lifestyle on bone mineral density in the early teens. Hirosaki Med J 63(1):28-37,2012.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
1. Atsushi Oda, Toru Hasegawa, and Hitoshi Tsushima: Characterization of foot configuration in

Judo players at Japanese junior high schools. Med Biol 156: 754-759, 2012

2. Akihiro SATO, Kenichi FUJIWARA, Masahiro YUKAWA, Kazumasa UEYAMA, and Hitoshi TSUSHIMA: Factors affecting scores on the functional status subscale of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the Carpal Tunnel Syndrome Instruments. Med Biol 157: 32-37, 2013
3. Hideki SUZUKI, Hitoshi TSUSHIMA: Characteristic of visual information-seeking behavior of the elderly during walking: Comparison of video footage measurement with actual measurement. Med Biol 157: 143-150, 2013
4. Hideki SUZUKI, Hitoshi TSUSHIMA: Current status of ambulance transport due to falls on snow-covered and icy streets and awareness of the elderly in Sapporo city. Med Biol 157: 269-276, 2013
5. Hideki SUZUKI, Eiki TSUSHIMA, Hitoshi TSUSHIMA: Preliminary study of visual information-seeking behavior of elderly and young women walking on snow-covered and icy pavement. Med Biol 156: 754-759, 2012
6. Ning Li, Eiki Tsushima, Hitoshi Tsushima: Comparison of impact force attenuation by various combinations of hip protector and flooring material using a simplified fall-impact simulation device. Journal of Biomechanics 46 (2013), 1140-1146
7. Tomomi HARATA, Mihoko NODA, Kumiko SAITO, Terumi KOGAWA, Chiaki KITAMIYA, Kazuyuki KIDA, Ruriko KIDACHI, Eiki THUSHIMA, Chikako YONAIYAMA, Miya NISHIMURA, Shizuka KURAUCHI, Haruka OTSU, Yu KITAJIMA, Misato MAKINO, Arata AKAIKE, Syuhei KOEDA, Yuji KOIKE, Tukaki NARITA, Reizo MITA．The relationship between bone density and walking speed of the elderly people attending the Kotobuki college of T town in Aomori prefecture. Ｊ. Health. Sci. Res. 3:61-69, 2013
8. Kazuhiro Ishida，Eiki Tushima，Yasuyo Umeno．Factors Associated with the Oswestry Disability Index Score after One Month after Lumbar Discectomy．Journal of Physical Therapy Science，24（5）．415-421，2012.
9. Ning Li, Eiki Tsushima, Hitoshi Tsushima: Comparison of impact force attenuation by various combinations of hip protector and flooring material using a simplified fall-impact simulationdevice. Journal of Biomechanics 46．1140-1146，2013.
10. Koshi Sumigawa, Ippei Takahashi, Masashi Matsuzaka, Kazuma Danjo, Shuhei Koeda, Yuichi Hirakawa, Terumi Kogawa, Hidefumi Kamitani, Takashi Umeda, Shigeyuki Nakaji: Risk Factors of Osteoporosis according to the Number of Years after Menopause. Hirosaki Med J 63(1):38-47,2012

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Saito K, Umeda T, Kamitani H, Hirakawa Y, Iwane K, Sumigawa K, Koeda S, Takahashi I, Matsuzaka M, Nakaji S: The Association between Body Composition and Obesity-Related Conditions of University Male SumoWrestlers. International Journal of Life Science and Medical Research 2(4), 13-18, 2012.

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.齋藤久美子，横田ひろみ，一戸とも子，小倉能理子，佐藤真由美： 看護職者が高齢者への患者指導を実施する上で感じる困難．保健科学研究，3：51-60， 2013.
2.大津美香，森山美知子，真茅みゆき：認知症を有する高齢心不全患者の急性増悪期において看護師が対応困難と認識した支援の実態．日本循環器看護学会誌，8(2): 26-34, 2013.
3.大津美香，森山美知子，真茅みゆき：認知症を有する高齢慢性心不全患者の再入院の要因と在宅療養に向けた疾病管理の実態．日本循環器看護学会誌, 8(2): 35-46, 2013.
4. 大津美香，高山成子，渡辺陽子：認知症高齢者における徘徊対応プロトコールの有用

性の検討. 保健科学研究, 3: 85-99, 2013.

5. 大津美香, 高山成子, 渡辺陽子：看護師が診療所外来に通院中の認知症を有する高齢心不全患者の疾病管理において抱いている対応困難と支援の実態. 保健科学研究, 3: 101-111, 2013.
6. 上谷英史，平川裕一，金谷圭子，古用康太．非利き手での箸操作練習を継続した際の筋活動と操作時間、操作印象との関係．総合リハ,40(12), 1533-1539，2012.
7. 成田大一，吉田英樹，大森俊輔，千葉正司，尾田敦，石川大瑛，高橋信人，外崎敬和：電気生理学的モーターポイントと解剖学的モーターポイントは一致するか？ 東北理学療法学，24：5-10，2012.
8. 高間木静香，北島麻衣子，三崎直子，五十嵐世津子，工藤せい子，山辺英彰，貝塚満明：成人女性に対する「湧泉」・「太谿」の指圧効果－冷え性の有無による指圧効果の違いー．青森県立中央病院医誌，57(4)：135-141，2012.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 菊池麻美，對馬　均．お絵かき玩具を活用した簡易型フットプリント歩行路の考案と歩行解析への応用．医学と生物学．156 巻 3 号，86-90，2012.
2. 赤池あらた，岩田　学，對馬　均：高齢血液透析患者に対する生活の違いと血清クレアチニンの関係．医学と生物学　156: 829-834, 2012
3. 菊池麻美，對馬　均．歩き始めから定常歩行となるまでの歩数と距離に及ぼす加齢の影響～健常成人と虚弱高齢者との比較～．理学療法研究．第 30 号，11-15，2013.
4. 高橋純平,高見彰淑,若山佐一:脳卒中片麻痺者における歩行の自立判定方法ならびに関連要因の検討，理学療法科学．27(6)：731–736，2012
5. 野戸結花，冨澤登志子，井瀧千恵子，西沢義子，一戸とも子，工藤せい子，木立るり子，北島麻衣子，山辺英彰，浦田秀子，松成裕子：.がん放射線療法看護認定看護師の活動に関する現状と課題，日本放射線看護学会誌，1（1），22-29，2013.
6. 石田和宏，佐藤栄修，対馬栄輝：腰部疾患に対する腰椎伸展運動の効果．北海道整形災害外科学会雑誌．53．210-215，2012.
7. 石田和宏，対馬栄輝，佐藤栄修：腰椎椎間板障害に対する腰椎伸展運動～即時効果が認められる症例の特徴～．総合リハ．367-372，2012.
8. 家入　章, 対馬栄輝, 石田和宏, 他：人工股関節全置換術前と術後早期の健康関連 QOL について～身体機能との関係に着目した検討～．Hip Joint（Supplement）38．186-190，2012.
9. 石川大瑛，成田大一，高橋信人，澤田徹平，尾田　敦：姿勢変化時の足底接地面積の変化と運動能力の関係について．靴の医学，26：114-118，2013.
10. 對馬史織，尾田　敦，成田大一，石川大瑛，高橋信人：後足部アライメントを考慮した前足部可動性の測定方法の開発．東北理学療法学，24：28-33，2012.
11. 澄川幸志，小枝周平，小池祐士，酒井裕美：ペーパークラフトにおける作業活動中のフロー体験と心理的効果の関係．臨床作業療法 9(6):664－669，2012.
12. 小池祐士，澄川幸志，小枝周平，原　長也：脳卒中患者の入院時 ADL 能力とリハビリテーション訓練時間の違いが退院時 ADL 能力と転帰先に与える影響．作業療法ジャーナル 47(3):274－280，2013.
13. 三崎直子，高梨一彦，山内瑶子，高間木静香：双子に対する母親のとらえ方と授乳との関わり．保健科学研究，3：43-50，2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 村上大介，木立るり子，北嶋結: 福島第一原子力発電所事故発生後 1 年未満における訪問看護師としての原子力災害に対する認識,日本放射線看護学会誌，1（1），43-52，2013.
2. 一色相佳，本多真知子，北嶋　結，横田ひろみ，柴田早紀，山野智恵美，工藤せい子.テーブルクロスの色と食習慣が甘味・塩味の感じ方に及ぼす影響．保健科学研究，3:113-123, 2013.

3.今井寛人,小枝周平,清水寛己,:脳卒中後疼痛が心身機能および健康関連 QOL に与える影響. Pain Rehabilitation 2(1):17-22, 2012.

2）総説

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.木立るり子，齋藤久美子，古川照美：特集「被ばく医療における看護の人材育成と研究」－プロジェクトにおける体制づくりと研修の展開，諸機関との連携－．看護研究，46（1），23-31，2013.

2.対馬栄輝．統計学入門多群の比較．PT ジャーナル 47(3)．227-235，2013

3.対馬栄輝，石田水里．エビデンスにつなげるための臨床場面で身近に使える測定法　アライメントの測定法．理学療法 30(1)，84-91，2013

4.高間木静香，横田ひろみ：海外における被ばく医療教育―研修から得た学び①米国 REAC/TS における研修を通して．看護研究，46(1)：55-58，2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1.一戸とも子，木立るり子：特集「被ばく医療における看護の人材育成と研究」－学部，大学院，現職者における被ばく医療教育の概要－大学院を中心に－，看護研究，46（1），32-38，2013.

2.加藤 浩,対馬栄輝,建内宏重,湯田健二：変形性股関節症患者に対する理学療法の最新知見とこれからの展望．理学療法学．39(suppl-1): 131 -131 2012.

3.家入 章，対馬栄輝，石田和宏，増田武志：再考　大腿骨頚部/転子部骨折の理学療法，大腿骨頚部/転子部骨折：合併症への対応，理学療法．29（6），637-644，2012.

4.井瀧千恵子，北嶋　結：現職者を中心とする被ばく医療教育．看護研究.46（1）. 39-46，医学書院，東京, 2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

3）著書

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.若山佐一：ADL と障害，鶴見隆正他(編),「標準理学療法学専門分野，日常生活活動学・生活環境学」　第 4 版，pp14-26，医学書院，2012

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1.細田多穂(監修)，備酒伸彦，樋口由美，対馬栄輝(編)．リハビリテーション介入の効果判定．地域リハビリテーション学テキスト (シンプル理学療法学シリーズ) 改訂第 2 版．南江堂，2012.

2.太田喜久子，大津美香，奥野茂代，北川公子，桑田美代子，吹田夕起子，高見美保，高山成子，得居みのり，中島紀惠子，水谷信子，山田律子，総勢 12 名（2 番目）：新版　認知症の人々の看護　Ⅸ 認知症の人の急性・病態変化時の対応．4 慢性心不全の急性増悪期にある認知症患者の看護. 141-144，医歯薬出版株式会社，東京, 2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

4）その他

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.Ruriko Kidachi, Yoshiko Nishizawa, Hideaki Yamabe, Shoji Chiba, Yuka Noto, Chiaki KItamiya, Takashi Ishikawa, Koshi Sumigawa, Hirokazu Narita and Minoru Osanai: Results of staff education and training in radiation emergency medicine: Summary from the Planning Department, The Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University, 31-33, 2013.

2.Hirokazu Narita, Shuhei Koeda, Koichi Ito, Kyoko Ito, Hitoshi Tsushima: Effects of rehabilitation for skin and muscle damage caused by high-dose radiation -Developing an animal model of local radiation damage to the hind limbs-. The proceedings of the 4th international symposium on radiation emergency medicine at Hirosaki university, 47-50, 2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1.Ciaki Kitamiya and Ruriko Kidachi: Responses of public nurses to the consultations they provided to residents following a nuclear disaster, Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University, 43-45, 2013.

2.Reiko Narita and Ruriko Kidachi: Analysis of Japanese newspaper articles with keywords “radiation”, “nuclear” and “disaster”, The Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University, 9-12, 2013.

3.Toshiko Tomisawa, Chieko Itaki, Manabu Nakano, Shuhei Koeda, Saichi Wakayama, Tomoko Ichinohe, Yoshimitsu Otomo and Toshiya Nakamura: Practice and Evaluation of the Radiation Emergency Medicine Education Program at Hirosaki University, The Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University, 5-8, 2013.3.27

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.木立るり子，岸紗貴子，川崎くみ子，五十嵐世津子，一戸とも子，工藤美恵子，中村有子，木村　緑，市川裕美子，小野容子，長内一子，前田美佐子，坂本保子，小沢久美子，下川原久子，小笠原みや子，蓮井孝子，石澤久美子，井瀧千恵子，佐藤美香：

SNS とコミュニケーションに関する文献検討. 青森県看護教育研究会誌, (41), 12-16, 2013.

2.大津美香:認知障害を合併する心不全患者のケア. 医学出版 HEART, 第 2 巻 11 号(2012 年 11 月号), p.75-80, 2012.

3. 大津美香 : 循環器疾患を有する高齢患者の治療とケア : 認知症. 医学出版 HEART, 第 3 巻 3 号 (2013 年 3 月号), p.50-55, 2013.

4. 北嶋　結, 中野　学, 小山内　暢, 扇野綾子,中村敏也:研修に必要な場所, 器材, 消耗品, 養生, 傷の作り方など. 弘前大学大学院保健学研究科被ばく患者対応トレーニングマニュアル. 9-11, 2013.

5. 北嶋　結, 小山内　暢, 門前　暁, 井瀧千恵子:演習 5.汚染・被ばくを伴う患者の受け入れ体制作り. 弘前大学大学院保健学研究科被ばく患者対応トレーニングマニュアル. 30-33, 2013.

B. 当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1.大渕修一, 小泉幸毅, 高倉保幸, 対馬栄輝, 林下智恵, 本橋隆子 : 平成 24 年度厚生労働省老人保健健康増進等国庫補助金事業「長期的な医療介入が必要なリハビリテーション患者・利用者に対するリハビリテーションのあり方に関する調査研究事業」調査報告書, 公益社団法人日本理学療法士協会, 25 年 3 月.

2.井瀧千恵子, 北嶋　結, 中村敏也, 門前　暁, 細川洋一郎:トレーニングの構成と実践までの流れ. 弘前大学大学院保健学研究科被ばく患者対応トレーニングマニュアル. 6-9, 2013.

3. 真里谷　靖, 齋藤陽子,北嶋　結, 横田ひろみ, 則包和也:演習 6.汚染・被ばくを伴う患者の受け入れ実践. 弘前大学大学院保健学研究科被ばく患者対応トレーニングマニュアル. 34-35, 2013.

4.今　敏子, 赤石恵子, 阿部浩江, 五十嵐世津子, 井瀧千恵子, 一戸厚子, 工藤優子, 齊藤史恵, 鈴木光子, 高橋桂子, 高間木静香, 田中純子, 仁木雪子, 野呂修子, 山形祐子 : 母性グループのこれまでの活動と今後について. 青森県看護教育研究会誌, 41. 1-3, 2013.

5.漆坂真弓, 北島麻衣子, 高間木静香, 葛西敦子, 工藤せい子, 齋藤久美子, 齋藤美紀子, 野戸結花, 米内山千賀子, 會津桂子, 秋元安子 : 看護教員の英語教育に対する意識および取り組みに関する調査. 青森県看護教育研究会誌, 41. 7-11, 2013.

6. 井瀧千恵子,高間木静香:実践の評価と確認　指導チェックリスト.弘前大学大学院保健学研究科　緊急被ばく医療現職者研修実行委員会(編)「弘前大学大学院保健学研究科被ばく患者対応トレーニングマニュアル」. 39, 2013.

7. 井瀧千恵子, 高間木静香, 横田ひろみ, 小山内暢, 門前暁, 寺島真悟 : 参考資料　アクションカード, チェックリスト. 弘前大学大学院保健学研究科　緊急被ばく医療現職者研修実行委員会(編)「弘前大学大学院保健学研究科被ばく患者対応トレーニングマニュアル」. 40-50, 2013.

C. 当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

Ⅱ. 学会、研究会等の発表

1) 国際学術集会

A.特別（招待）講演

なし

B. シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1: Results of staff education and training in radiation emergency medicine: Summary from the Planning Department, The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at

Hirosaki

2.Nishizawa Y, Noto Y, Itaki C, Tomisawa T, Kidachi R, Ichinohe T, Kudo S, Yamabe H. The plan of educational program for Certified Nurse Specialist in radiological nursing at Hirosaki University. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, 2012.

C.一般演題（ポスター発表を含む）

1. Saichi Wakayama : Evaluation and effectiveness of radiation emergency medicine education at the School of Health Sciences, Hirosaki University - Focus on undergraduate education -. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, (September 30, 2012)（Hirosaki city）

2.Saichi Wakayama : Educational effect and assessment before and after radiation emergency medicine personnel training Assessment and effects of undergraduate education—Trends over three years, The Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University, 57-60, 2013.3.27

3. Reiko Narita and Ruriko Kidachi: Analysis of Japanese newspaper articles with keywords “radiation”, “nuclear” and “disaster”, The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, Hirosaki, 2012.

4.Ciaki Kitamiya and Ruriko Kidachi: Responses of public nurses to the consultations they provided to residents following a nuclear disaster, The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, Hirosaki, 2012.

5. Haruka OTSU, Michiko MORIYAMA, Rika Yuasa: Consideration of the effects of education on patients with ischemic heart disease using a portfolio to promote self-management, The 9th International Conference with the Global Network of WHO (Kobe city, June 30-July 1, 2012)

6.Hirokazu Narita, Shuhei Koeda, Koichi Ito, Kyoko Ito, Hitoshi Tsushima: Effects of rehabilitation for skin and muscle damage caused by high-dose radiation -Developing an animal model of local radiation damage to the hind limbs-. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, Hirosaki, 2012.

7.Toshiko Tomisawa, Shuhei Koeda, Chieko Itaki, Yoshimitsu Otomo, Saichi Wakayama,Tomoko Ichinohe1, Toshiya Nakamura: Practice and evaluation on education program of radiation emergency medicine in Hirosaki University、The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, (September 30, 2012)（Hirosaki city）

8.Hiromi Yokota, Maiko Kitajima, Yu Kitajima, Shizuka Takamagi, Chieko Itaki: Effective decontamination against injuries radiological contaminated -How far does the decontamination splash radiological materials around the injury?-, The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars

2）全国学術集会

A．特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1.加藤 浩，対馬栄輝：運動器シンポジウム 1　変形性股関節症患者に対する理学療法の最新知見とこれからの展望．第 47 回日本理学療法学術大会，神戸市，2012.

2.対馬栄輝．シンポジウム 5　若手教育シンポジウム：臨床研究をさらに進めるために．第 22 回日本臨床精神神経薬理学会・第 42 回日本神経精神薬理学会合同年会，宇都宮市，2012.

C．一般演題　44 件

Ⅲ．学術賞
なし

Ⅳ．共同研究
なし

Ⅴ．研究助成
1）文部科学省科学研究費
研究代表者として
1.對馬　均
研究種目：基盤研究(B)
研究課題名：在宅パーキンソン病者の生活場面でのバランス障害評価と実効的な転倒予防戦略の構築
配分額：　1,040（千円）
2.對馬　均
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究課題名：エプロン型ヒッププロテクターは虚弱女性高齢者を転倒骨折から救う
配分額：　1,950（千円）（うち間接経費分　450 千円）
3. 野田美保子
研究種目：基盤研究（C）
研究課題名：移動能力が異なる高齢者における日常生活活動水準の横断的、縦断的評価方法の開発
配分額：1,690（千円）
4. 木立るり子
研究種目：基盤研究（C）
研究課題名：元気高齢者への看護・リハビリの協働的介入による継続的介護予防・評価システムの開発
配分額：650（千円）
5. 大津美香
研究種目：若手研究(B)
研究課題名：認知症を有する高齢慢性心不全患者の疾病管理における支援方法の検討
配分額：　1,300　（千円）
6. 成田大一
研究種目：若手研究(B)
研究課題名：皮膚および筋の高線量放射線障害に対してリハビリテーションは有効か？
配分額：3,380（千円）
7.高間木静香
研究種目：若手研究（B）
研究課題名：マタニティヨーガが妊婦の心臓自律神経系調節および感情に及ぼす効果
配分額：650（千円）

他研究単位との研究分担者として
なし

2）その他の省庁からの研究費
研究代表者として
なし

3）学内の研究助成

研究代表者として

1.對馬 均

助成名：保健学研究科 緊急被ばく医療人材育成プロジェクト

研究課題名：被ばく事故等による放射線障害に対するリハビリテーションの基礎的研究

配分額：839（千円）

2.若山佐一

助成名：保健学研究科　緊急被ばく医療人材育成プロジェクト

研究課題名：緊急被ばく医療人材育成の実施前後の教育効果，評価に関する研究

配分額：177（千円）

3.木立るり子

助成名：保健学研究科　緊急被ばく医療人材育成プロジェクト

研究課題名：原子力施設立地県内の訪問看護ステーションにおける防災・災害時対応に関する研究

配分額：413（千円）

4.米内山千賀子

助成名：特定プロジェクト教育研究センター事業（保健学研究科すこやかコミュニティ支援センター継続ケア研究部門）

研究課題名：①原子力施設の近隣市町村における在宅ケア関係職種の原子力災害に関する認識―面接調査より―（高齢者継続ケアグループ）、②慢性疾患児の母親の社会的支援ネットワークに関する補足的調査（小児継続ケアグループ）、③地域で生活する精神障がい者への効果的な支援について（精神障がい者継続ケアグループ）

配分額：180（千円）

他研究単位との研究分担者として

1. 木立るり子

助成名：保健学研究科　緊急被ばく医療人材育成プロジェクト

研究課題名：地域における健康危機管理システム構築のための保健師に関する研究

研究代表者名：北宮千秋

配分額：539（千円）

2.北嶋　結、高間木静香

助成名：保健学研究科　緊急被ばく医療人材育成プロジェクト

研究課題名：創傷汚染部位に対する効果的な除染方法の検討

研究代表者名：北島麻衣子

配分額：484（千円）

4）民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

1）国際交流、国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘、受け入れ状況

對馬　均

・中国からの客員研究員：李寧

・招請機関：財団法人　日中医学協会

・受け入れ期間：平成 23 年 9 月 1 日から平成 24 年 8 月 31 日まで

c) 外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況
なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加（3 ヵ月未満）状況
なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況
なし

f) その他
なし

2）国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催
なし

b) 地方レベルの学会の主催
主催代表：木立るり子
学会名：第 14 回 青森継続看護研究集会
開催地：弘前市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況
なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況
なし

Ⅶ. その他

４．社会貢献活動の実施状況

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	青森県農村医学会 日本体力医学会東北地方会 全国障害者問題研究会青森県支部 全国障害者問題研究会全国大会準備委員会 全国リハビリテーション学校協会 全国リハビリテーション学校協会東北ブロック	理事 監事 理事 副委員長 理事 副委員長
若山佐一	文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター	専門調査員
木立るり子	日本放射線看護学会 第 1 回日本放射線看護学会学術集会 青森継続看護研究会	理事 企画委員 会長

對馬栄輝	日本理学療法士協会 運動器専門領域 日本理学療法士協会 評価検討委員会 日本理学療法士協会 国庫補助金事業調査検討委員会	幹事 委員 部員
米内山千賀子	第 1 回 日本放射線看護学会学術集会 青森継続看護研究会	協力員 副会長
大津美香	第 1 回日本放射線看護学会学術集会 青森継続看護研究会	企画委員 役員
上谷英史	一般社団法人青森県作業療法士会 一般社団法人青森県作業療法士会	全県理事 広報部担当理事
成田大一	一般社団法人青森県理学療法士会	生涯学習部長
北嶋結	青森継続看護研究会	役員
小枝周平	一般社団法人青森県作業療法士会	福利部長
高間木静香	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	企画委員

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
木立るり子	第 14 回青森継続看護研究集会	会長
米内山千賀子	第 14 回青森継続看護研究集会	実行委員
大津美香	第 14 回青森継続看護研究集会	実行委員
北嶋　結	第 14 回青森継続看護研究集会	実行委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
對馬　均	Member of editorial board in Physical Therapy Review 日本体力医学学会誌「体力医学」 Physical Therapy Review	編集員 査読員 編集委員
野田美保子	日本作業療法士協会学術部 青森県作業療法士会論文査読・症例査読 保健学研究科『保健科学研究』	部員 委員 査読
若山佐一	青森県理学療法士会「理学療法研究」査読	委員
齋藤久美子	保健学研究科『保健科学研究』	査読
木立るり子	保健学研究科『保健科学研究』	査読
對馬栄輝	日本理学療法士協会学術雑誌「理学療法学」	編集委員
鈴木光子	保健学研究科『保健科学研究』	査読
米内山千賀子	保健学研究科『保健科学研究』	査読
大津美香	日本循環器看護学会誌（和文）専任査読委員 保健学研究科『保健科学研究』	委員 査読
上谷英史	青森県作業療法士会論文査読・症例査読	委員
小枝周平	青森県作業療法士会論文査読・症例査読	委員

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
對馬　均	第 48 回日本理学療法学術大会演題査読委員	委員
野田美保子	日本作業療法協会学会演題査読	委員
若山佐一	第 48 回日本理学療法学術大会の演題審査	審査員

齋藤久美子	日本看護研究学会第 39 回学術集会	査読
木立るり子	日本看護研究学会第 39 回学術集会	査読
大津美香	第 9 回日本循環器看護学術集会一般演題座長	座長
上谷英史	日本作業療法協会学会演題査読	委員

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	鶴田町での健康体力増進啓蒙活動 すこやかコミュニティ支援センターの活動 鰺ヶ沢町での生活と体のお元気度チェック	代表 構成員 構成員
木立るり子	鶴田町での健康体力増進啓蒙活動 すこやかコミュニティ支援センターの活動	構成員 構成員
米内山千賀子	すこやかコミュニティ支援センターの活動（継続ケア研究部門）	部門代表
上谷英史	弘前大学大学院医学研究科健康・スポーツ医科学センター 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト健診」 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト運動教室（岩木地区）」 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト運動教室（駒越地区）」 弘前大学「相馬健康増進プロジェクト運動教室」	講師 身体機能計測員 運動指導講師 運動指導講師 運動指導講師
小枝周平	すこやかコミュニティ支援センターの活動	構成員
高間木静香	弘前大学大学院保健学研究科附属すこやかコミュニティ支援センター　女性のためのよろず健康相談事業（4 回/年）	構成員

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	大学設置・学校法人審議会	専門委員
木立るり子	日本学術振興会科学研究費委員会 弘前市地域包括支援センター運営協議会 弘前市地域密着型サービス運営委員会	専門委員 委員 委員

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
對馬　均	平成 24 年度群馬大学大学院保健学研究科セミナー テーマ 1「弘前大学における緊急被ばく医療への取り組みについて」 テーマ 2「在宅パーキンソン病に対する理学療法からの支援」	講師
野田美保子	青森県子育て団体活動支援事業研修会 感覚統合療法セミナー	講師 講師
對馬栄輝	福島県理学療法士会「統計学」 （株）Senstyle 主催～変形性股関節症に対する理学療法評価と治療 （社）日本理学療法士協会主催：人工股・膝関節全置換術患者に対する評価と理学療法 日本理学療法士協会主催：人工股関節・膝関節全置換術患者に対する評価と理学療法「変形性股・膝関節の評価」 日本理学療法士協会主催：下肢関節疾患の理学療法「下肢関節疾患の理学療法評価」 リハビリテーションリサーチメソッド研究会主催：理学療法研究のための統計学講習会 京都大学運動機能研究会主催：筋骨格系理学療法を見直す 平成 24 年度上尾中央医療専門学校講演会「研究法入門」	講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	弘前大清水学園	非常勤作業療法士
齋藤久美子	看護管理者ファーストレベル修了審査協議会委員 第 17 回日本看護サミット青森‘12 企画運営委員 弘前大学病院看護部平成 24 年度院内研修看護研究(2) 弘前大学看護職教育キャリア支援センター	委員 委員 講師 運営委員
若山佐一	近江整形外科 森岳温泉病院	非常勤理学療法士
木立るり子	弘前大学医学部附属病院看護部院内研修看護研究Ⅱ	講師
成田大一	鶴田町社会福祉協議会デイサービスセンター	非常勤機能訓練士
小枝周平	ケアセンター弘前	非常勤作業療法士

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	一般社団法人青森県作業療法士会現職者共通研修	講師
齋藤久美子	平成 24 年度青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会	講師
若山佐一	(公社)日本理学療法士協会新人教育プログラム,理学療法の基礎（クリニカルリーズニング）	講師
對馬栄輝	IBM SPSS トレーニングコース「医療統計：入門」	講師
上谷英史	一般社団法人青森県作業療法士会現職者共通研修	講師
北嶋　結	社団法人青森県看護協会中弘南黒支部　青森県看護協会中弘南黒支部看護研究発表会	委員長

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職
齋藤久美子	JICA 平成 24 年度「青年研修　母子保健実施管理」コース受け入れ 米国テネシー大学マーチン校客員教員受入れ	講師 メンバー
大津美香	米国テネシー大学マーチン校教員との国際交流･接待等	国際交流委員
高間木静香	JICA 青年研修事業受け入れ	運営

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	ダウン症児のための療育相談活動 地域療育支援センターおおしみずでの発達支援活動 発達サポートセンターでの発達支援活動 弘前市内小学校での発達支援活動	ボランティア ボランティア ボランティア ボランティア
鈴木光子	藤城公民館と弘前大学母子看護学領域との地域連携事業	
大津美香	ドリーム講座（三本木高等学校）	講師
北嶋　結	平成 24 年度緊急被ばく医療人材育成プロジェクト 現職者研修 平成 24 年度青森県総合防災訓練　国民保護訓練	実行委員 企画運営
小枝周平	弘前大学医学部保健学科同窓会（さくら会）	事務局長

高間木静香	緊急被ばく医療人材育成プロジェクト現職者研修 看護学専攻八戸サテライト事業「看護わくわくどきどき体験　みて、きいて、ためして、看護の世界を体験してみよう！」 浪江町初期被ばく線量検査における業務のための派遣（2013 年 1～3 月の検査実施日のうち 5 回派遣）	実行委員 企画・運営 業務担当

障害保健分野

Department of Disability and Health

１．教員

障害保健学分野(人)

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
6	6	3	3	4

２．教育実績

1）21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
12 年度	米坂　勧	教授	基礎ゼミナール	30
	工藤せい子	教授	人を育む営み(Ⅰ) 基礎ゼミナール	28 30
	石川　玲	教授	運動とリハビリテーションC	8
	樋口　毅	教授	生活習慣と病気	4
	野戸結花	教授	運動とリハビリテーション（A） 生活習慣と健康（N）	6 6
	和田一丸	教授	メンタルヘルス（A）	12
	井瀧千恵子	教授	統計学の基礎	30
	五十嵐世津子	准教授	基礎ゼミナール 人を育む営み（E）	30 4
	小山内隆生	准教授	人間の尊厳€ 放射線防御の基礎 メンタルヘルスA	32 2 4
	加藤拓彦	准教授	基礎ゼミナール	30
	髙見彰淑	准教授	基礎ゼミナール	30
	川崎くみ子	講師	人を育む営み（E） 人間の尊厳（B）	4 12
	川添郁夫	講師	メンタルヘルスB 人間の尊厳B	2 3
	則包和也	講師	人間の尊厳B メンタルヘルスB	10 6

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
12 年度				

2）学部教育

(3) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	米坂勧	教授	人体形態機能学演習	1	10
			疾病論 IV	2	15
			救急蘇生学	4	15
			小児看護方法論	2	7
			小児看護学概論	2	4
			小児科学	3	15
	工藤せい子	教授	セルフケア論	2	16
			看護倫理学	4	10
			看護技術学演習 I	2	18
			看護技術学演習 II	2	24
	石川玲	教授	理学療法学総論演習	1	6
			運動療法学	2	30
			歩行解析セミナー	2	16
			内部障害系理学療法学演習	3	30
			神経筋障害理学療法学演習	3	6
			理学療法研究演習	3	30
			がんリハビリテーション科学	2	8
			成人看護学演習	3	4
	樋口毅	教授	母性看護方法論	2	16
	野戸結花	教授	成人看護学概論	2	12
			成人看護方法論 II	3	10
			成人看護学演習	3	30
			がん看護論	4	8
			医療リスクマネージメント	3	2
			がんリハビリテーション科学	2	4
	和田一丸	教授	疾病論 III	2	12
			精神医学	1	32
			精神障害作業療法疾患学	2	32
			精神障害作業療法疾患学演習	3	30
			研究方法論演習（精神障害分野）	3	30
	井瀧千恵子	教授	成人看護方法論 I	2	14
			成人看護学演習	3	30
			がん看護論	4	6
	五十嵐世津子	准教授	母性看護学概論	2	8
			母性看護方法論	2	16
			母性看護学演習	3	32
	小山内隆生	准教授	精神機能障害作業療法学	1	15
			精神機能障害作業療法学演習	3	30
			精神能力障害作業療法学	1.2	15
			精神疾患別作業療法学	2	15

12 年度	小山内隆生	准教授	研究方法論	3	20
	加藤拓彦	准教授	精神疾患別作業療法学	2	15
			精神能力障害作業療法学	1	15
			精神能力障害作業療法学演習	3	30
			精神障害地域作業療法学	3	15
			研究方法論演習（精神障害分野）	3	30
	髙見彰淑	准教授	理学療法評価学Ⅰ	1	16
			理学療法評価学Ⅱ	1	16
			理学療法総論演習	1	6
			リハビリテーション医学	2	16
			リハビリテーション医学演習	2	32
			脳損傷理学療法学演習	3	16
			理学療法評価学演習	3	32
	川崎くみ子	講師	成人看護学概論	2	6
			成人看護方法論Ⅱ	3	22
			成人看護学演習	3	30
			保健医療福祉倫理学	3	16
			看護倫理学	4	10
			クリティカルケア論	4	10
	川添郁夫	講師	精神看護学方法論	2	4
			精神看護学概論	2	4
			精神看護学演習	3	10
	則包和也	講師	精神看護学概論	2	16
			精神看護方法論	2	12
			精神看護学演習	3	30
			人間発達論	1	16
	田中　真	助教	精神能力障害作業療法学	1	6
			精神疾患別作業療法学	2	6
	藤田俊文	助教	運動療法学	2	16
			物理療法学	2	2
			福祉住環境学	3	14
			理学療法研究演習	3	30
			スポーツ障害理学療法演習	4	16
			成人看護学演習」	3	2
	牧野美里	助手	小児理学療法学演習	3	10
	横田ひろみ	助手	看護技術学	2	15
			看護技術学演習Ⅰ	2	60
			看護過程論	2	30
			看護技術学演習Ⅱ	2	90
	山内瑶子	助手	助産診断技術学Ⅲ	3	30
			助産診断技術学演習	3	60
			母性看護学演習	3	60

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	工藤せい子	教授	看護技術学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅱ	2 2	18 24
	石川　玲	教授	運動療法学実習 内部障害系理学療法学実習	2 3	45 45
	樋口　毅	教授	人体機能・構造演習	1	10
	井瀧千恵子	教授	成人看護学実習	3	540
	小山内隆生	准教授	精神障害評価治療学実習	3	45
	加藤拓彦	准教授	軽作業作業療法学実習 臨床実習Ⅲセミナー 臨床実習Ⅳセミナー 重作業作業療法学実習	1 4 4 3	45 20 20 45
	髙見彰淑	准教授	理学療法評価学実習	2	48
	則包和也	講師	精神看護学実習	4	360
	田中　真	助教	精神障害作業療法評価学実習 研究方法論演習 臨床実習Ⅲセミナー 臨床実習Ⅳセミナー 重作業療法学実習	3 3 4 4 3	45 45 20 20 150
	扇野綾子	助教	小児看護学実習	3	610
	藤田俊文	助教	運動学実習 運動療法学実習 物理療法学実習 筋骨格系障害理学療法学実習	2 2 2 2	45 45 6 6
	牧野美里	助手	運動療法学 運動療法学実習 運動学実習 理学療法評価学Ⅱ	2 2 2 1	10 30 30 16
	横田ひろみ	助手	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ	2 3	65 180
	小池祐士	助手	人体形態学実習 人体機能学実習 作業分析学実習 研究方法論演習	2 2 3 4	90 45 45 30

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
12 年度	米坂勧	教授	3,4	135
	工藤せい子	教授	2 3	10 180
	石川　玲	教授	2 3 3 4	45 45 6 6
	野戸結花	教授	3	520

12 年度	和田一丸	教授	4	40
	井瀧千恵子	教授	3	540
	五十嵐世津子	准教授	3 3	360 80
	小山内隆生	准教授	3 4	90 40
	加藤拓彦	准教授	3	90
	髙見彰淑	准教授	2 3	45 45
	川崎くみ子	講師	3	540
	川添郁夫	講師	4	360
	田中　真	助教	3	45
	藤田俊文	助教	2 3 3 4	45 45 4 8
	牧野美里	助手	2 3	20 20
	山内瑶子	助手	3 4	90 225

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
12 年度	樋口　毅	教授	4	妊娠・分娩・女性疾患	6

3）卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
12 年度	4 名	米坂　勧
	4 名	工藤せい子
	5 名	石川　玲
	3 名	野戸結花
	3 名	井瀧千恵子
	4 名	五十嵐世津子
	3 名	小山内隆生
	3 名	加藤拓彦
	2 名	髙見彰淑
	3 名	川崎くみ子
	4 名	川添郁夫
	3 名	則包和也
	2 名	田中　真
	2 名	扇野綾子
	1 名	藤田俊文
	1 名	牧野美里
	1 名	横田ひろみ
	1 名	小池祐士
	1 名	山内瑶子

4）大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目（M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	米坂　勧	教授	小児保健学特論（M）	1	20
	工藤せい子	教授	看護倫理学特論（M） 看護技術学特論（M） 基礎看護・看護教育学特講（D）	1 1 1	16 30 30
	石川　玲	教授	リハビリテーション医学特論（M） 基礎理学療法学特論（M） 障害保健学特講（D）	1 1 1	15 30 6
	野戸結花	教授	成人保健看護学特論（M） 被ばく医療看護学特論（M）	1 1	8 4
	和田一丸	教授	精神障害者作業療法学特論（M）	1	6
	井瀧千恵子	教授	成人保健看護特論（M） 被ばく医療看護学特論（M）	1 1	6 22
	五十嵐世津子	准教授	保健学連携セミナー（M） 母性保健看護学特論（M）	1 1	10 6
	小山内隆生	准教授	医療マネジメント（M） 基礎作業療法学特論（M）	1 2	6 30
	加藤拓彦	准教授	精神障害者作業療法学特論（M）	1	10
	髙見彰淑	准教授	リハビリテーション医学特論（M）	1	14
	川崎くみ子	講師	成人保健看護学特論（M） 看護倫理学特論（M）	（M） 1	4 14

(2)演習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	米坂　勧	教授	地域看護学演習（M）	1	7
	工藤せい子	教授	基礎看護・看護教育学演習（M）	1	30
	石川　玲	教授	理学療法学特別演習（M） 教育・研究者育成コースワーク（M）	1 1	30 8
	野戸結花	教授	被ばく医療演習（M） 成人保健学特論（M）	1 1	60 8
	小山内隆生	准教授	作業療法学特別演習（M）	1	30

12 年度	井瀧千恵子	准教授	成人保健看護学特論（M）	1	8

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
12 年度	米坂　勧	教授	小児を持つ家庭の災害急性期における生活と健康に関する研究（M）
	工藤せい子	教授	湯たんぽの貼用方法の違いが生体と寝床内温度に与える影響（M）
	石川　玲	教授	乳幼児を対象とした呼吸理学療法における客観的評価手法に関する基礎的研究～呼吸音の音響学的解析と心拍変動解析に着目して(M)
	樋口　毅	教授	閉経移行期における抗ミューラー管ホルモンのバイオマーカーとしての役割(D)
	野戸結花	教授	外来化学療法を受けるがん患者のセルフケアに関する研究（M）

5）その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　称　等
12 年度	石川　玲	教授	平成 24 年度弘前大学ＦＤワークショップ（第 14 回） 平成 24 年度「公開授業・検討会」の授業担当 平成 24 年度ＦＤミニフォーラム「公開授業のあり方について
	野戸結花	教授	公開授業：親役割援助論　西野加代子准教授
	和田一丸	教授	公開授業：精神障害作業療法学
	井瀧千恵子	教授	看護卒後教育による mid-level provider 育成と医療提供イノベーション　第3回シンポジウム ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」
	五十嵐世津子	准教授	1) 公開授業への参加（2 回） 2) 国際医療保健学－病期の歴史 3) ＦＤ講演会（8/30）
	小山内隆生	准教授	京都大学高等教育開発センター高等教育研究会
	髙見彰淑	准教授	弘前大学 FD ワークショップ
	藤田俊文	助教	FD 講演会－英語論文の書き方
	小池祐士	助手	国際医療保健学－病期の歴史

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
12 年度	工藤せい子	教授	医療倫理学、看護倫理学	秋田大学大学院	8
	石川　玲	教授	リハビリテーション論	弘前学院大学	15

12 年度	石川　玲	教授	基礎看護援助論Ⅰ	弘前市医師会看護専門学校	4
	野戸結花	教授	がん看護学特論	秋田大学大学院医学系研究科	6
			吸引研修会	青森県作業療法士会	4
			喀痰吸引について	青森県看護リハビリテーション研究会	4
			災害急性期看護	救急看護認定看護師教育課程	4
	和田一丸	教授	精神医学 A・B	弘前学院大学	60
	井瀧千恵子	教授	がん看護援助論Ⅰ	秋田大学大学院医学研究科	4
	五十嵐世津子	准教授	弘前大学教員免許更新講習会	弘前大学	3
	小山内隆生	准教授	精神科リハビリテーション学	弘前学院大学	60
			作業学Ⅰ	山形医療保健大学	6
	加藤拓彦	准教授	作業学Ⅰ	山形県立保健医療大学	12
	髙見彰淑	准教授	神経系理学療法学Ⅱ	秋田大学	16
			生活技術支援Ⅱ	秋田福祉専門学校	32
	川崎くみ子	講師	看護倫理学	弘前医療福祉大学	16
	則包和也	講師	精神看護学	黒石高校看護	20
			精神保健	同上	14
			人間関係論	秋田看護福祉大	30
	横田ひろみ	助手	成人臨床看護Ⅰ	厚生病院附属看護専門学校	10
	小池祐士	助手	平川市介護予防事業	平川市	18

３．研究業績

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Chieko Itaki, Toshiko Tomisawa, Keiko Aizu, Ayako Ohgino and Hideaki Yamabe. Change in Nurses' Radiation Risk Perception by Attending a Training Course for Radiation Emergency Medicine. Radiation Emergency Medicine: 2(2), 50-55.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. Toshiko Tomisawa, Haruka Sasa, Mai Tachibana, Chieko Itaki, Keiko Aizu, Ayako Ohgino, Maiko Kitajima, Mayumi Urushizaka, Kumiko Kawasaki, Yuka Noto and Hideaki Yamabe. Changes in the Educational Effects and Radiation Risk Perception by Radiological Education for the Students of School of Health Sciences. Radiation Emergency Medicine, 2(1). 56-63, 2013
2. Shuhei Koeda, Koshi Sumigawa, Yuji Koike, Chihiro Sato, Soichiro Tensaka, Takao Osanai: Risk factors for post-stroke depression in patients treated with occupational therapy. Med Biol 156(10): 715-722, 2012.
3. Tomomi HARATA, Mihoko NODA, Kumiko SAITO, Terumi KOGAWA, Chiaki KITAMIYA, Kazuyuki KIDA, Ruriko KIDACHI, Eiki TSUSHIMA, Chikako YONAIYAMA, Miya NISHIMURA, Shizuka KURAUCHI, Haruka OTSU, Yu KITAJIMA, Misato MAKINO, Arata AKAIKE, Syuhei KOEDA, Yuji KOIKE, Tukaki NARITA, Reizo MITA. The relationship between bone density and walking speed of the elderly people attending the Kotobuki college of T town in Aomori prefecture. J Health Sci. Res, 3. 61-69, 2013.
4. Maiko Kitajima, Yuka Noto, Umi Kudo,Mayumi Urushizaka, Toshiko Tomisawa, Chieko Itaki, Kumiko Kawasaki, Hideaki Yamabe, Akihito Hayashi, Shingo Takanashi. Stress Assessment by Salivary Biomarkers in Patients with Lung Cancer Undergoing Chemotherapy. Journal of Cancer Therapy, 3, 127-131, 2012
5. Toshiko Tomisawa, Haruka Sasa, Mai Tachibana, Chieko Itaki, Keiko Aizu, Ayako Ohgino, Maiko Kitajima, Mayumi Urushizaka, Kumiko Kawasaki, Yuka Noto and Hideaki Yamabe. adiation Emergency Medicine,2(1),56-63, 2013

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Adams-Oliver syndrome and familial MYH9 mutaton. Ueda T, Echizenya T, Shuji E, Ohtani K, Sato T, Takahashi T, Ito E, Yonesaka S,　Kunishima S. Pediatrics International: 54, 407-409, 2012.
2. Iino K, Abe K, Taniguchi R, Higuchi T, Takahashi I, Mizunuma H. The role of antimüllerian hormone as a biomarker of menopausal transition. Menopause: 20,218-222. 2013.
3. Satomi Kubosawa, Narindra Rajaonarison Ny Ony, Maiko Kitajima, Yuka Noto, Hideaki Yamabe. Attitude survey of nursing students in Madagascar and Japan. Open Journal of Nursing, 2(2). 79-84, 2012
4. Kumiko Ozawa, Setsuko Niki, Seiko Yamanouchi, Hideaki Yamabe, Toshiko Tomisawa, Maiko Kitajima, Mayumi Urushizaka, Kumiko Kawasaki, Chieko Itaki, Yuka Noto, Morito Endo. Factors Influencing Behavior of Taking Medicine in Elderly Patients Undergoing Hemodialysis. *Open Journal of Nephrology*, 2(3). 38-43, 2012

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.野戸結花，冨澤登志子，井瀧千恵子，西沢義子，一戸とも子，工藤せい子，木立るり子，他：がん放射線療法看護認定看護師の活動に関する現状と課題，日本放射線看護学会誌，1(1)：22-29，2013.3
2. 樋口 毅，飯野香理，柞木田礼子，阿部和弘，谷口綾亮，水沼英樹，片桐清一，橋本哲司，蓮尾豊，藤盛嘉章，小川克弘，小野大志，高橋秀身．更年期障害の諸症状に対する加味逍遥散，ホルモン補充療法の効果比較-無作為割付研究の結果より-.日本女性医学学会雑誌;20:305-312. 2012
3. 樋口 毅，飯野香理，阿部和弘，谷口綾亮，水沼英樹．ＨＲＴは骨粗鬆症治療薬となりうるか？日本女性医学学会雑誌;20:201-206. 2012
4. 井瀧千恵子，冨澤登志子，北島麻衣子，漆坂真弓，工藤うみ，野戸結花，川崎くみ子，

田上恭子，山辺英彰．2 型糖尿病患者の健康プログラム介入群と対照群の身体活動量の比較．保健科学研究 3, 79-84, 2013

5.則包和也，川添郁夫，倉内静香，小野志麻子．精神看護学実習における患者の認知と感情に着目する記録様式の評価；弘前大学大学院保健学研究科紀要，保健科学研究 3, 125-134.2013

6. 田中 真，小山内隆生，加藤拓彦，和田一丸，小笠原寿子．統合失調症患者のぬりえ課題における色の塗り方の特徴．作業療法，31（4）．363-374，2012.

7.小池祐士，澄川幸志，小枝周平，原長也．脳卒中患者の入院時 ADL 能力とリハビリテーション訓練時間の違いが退院時 ADL 能力と転帰先に与える影響．作業療法ジャーナル，47．274-280，2013.

8.山内瑶子，三崎直子：重量感に焦点をあてた胎盤モデルの作成の試みとその評価．保健科学研究，3：135‐140，2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 境　美穂子，工藤せい子：脳・神経系病棟に勤務する看護師の倫理的問題に関する研究，日本看護倫理学会誌，5(1)：63-70，2013.

2.一色相佳，本多真知子，北嶋結，横田ひろみ，柴田早紀，山野智恵美，工藤せい子：テーブルクロスの色と食習慣が甘味・塩味の感じ方に及ぼす影響，保健科学研究，3：113-123，2013.3

3.高間木静香，北島麻衣子，三崎直子，五十嵐世津子，工藤せい子，他：成人女性に対する「湧泉」・「太谿」の指圧効果－冷え性の有無による指圧効果の違い－，青森県立中央病院医誌，57(4)：135-141，2012.12

4. 佐藤香吏，原田久美子，千葉　直，後藤明教，北澤淳一，牧野美里，藤田俊文，石川玲：呼吸音解析の試み～乳幼児の呼吸理学療法評価への応用を目指して～．理学療法研究，30：30-35，2013.

5. 澄川幸志，小枝周平，小池祐士，酒井裕美．ペーパークラフトにおける作業活動中のフロー体験と心理的効果の関係．臨床作業療法，9．664-669，2012.

6. 三崎直子，高梨一彦，山内瑶子，高間木静香：双子に対する母親のとらえ方と授乳との関わり．保健科学研究，3：43‐50，2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 天坂宗一郎，安原教子，伊藤美弥子，川村真理子，中村美穂，石川 玲：Errorless learning にて起居動作獲得に成功した一症例．青森県作業療法研究，21(1)：45-48，2013.

2. 奈良享平，安原教子，廣瀬美幸，石川玲，福士智久：心臓リハビリテーションにおける Adaptive servo ventilation 導入の効果．理学療法研究，30：26-29，2013.

3.横山良仁，福井淳史，福原理恵，樋口 毅，水沼英樹．ロボット支援手術の現状.青森県臨床産婦人科医会誌;27:1-8. 2012

4. 小林麻美，淵之上康平，鴨井舞衣，伊東麻美，谷口綾亮，田中幹二，樋口 毅，水沼英樹，対馬史泰，掛端伸也．総腸骨動脈バルーン血流遮断術，内腸骨動脈塞栓術併用による子宮全摘術を施行した前置癒着胎盤の一症例．青森県臨床産婦人科医会誌;27:25-29. 2012

5.飯野香理，樋口 毅，伊東麻美，阿部和弘，山内瑤子，三崎直子，田中幹二，水沼英樹．妊娠時の血圧値と将来の生活習慣病発症の関連性～母子手帳の解析から～．日本妊娠高血圧学会雑誌;20:62-64. 2013

6.横山良仁，二神真行，福井淳史，田中幹二，樋口 毅，水沼英樹．広汎性子宮頚部摘出術の現状．青森県臨床産婦人科医会誌;27:1-8,2013

7. 小笠原佑介，安原教子，石川玲：目標設定と退院の時期について考えさせられた心臓原発肉腫の再発症例．理学療法研究，30：36-40，2013.

8.今井寛人，小枝周平，清水寛己，佐藤真央，高橋良，小池祐士，澄川幸志．脳卒中後

疼痛が心身機能および健康関連 QOL に与える影響. 日本ペインリハビリテーション学会，2．17-22，2012.

.

2）総説

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.樋口 毅，飯野香理，阿部和弘，谷口綾亮，水沼英樹．ホルモン補充療法の最新知識-リスク･ベネフィットを今、どう考えるか-子宮内膜癌．産科と婦人科;79:463-470．2012
2.樋口 毅，水沼英樹．樋口毅，水沼英樹．萎縮性腟炎.臨床婦人科産科;66:306-309. 2012
3.樋口 毅，水沼英樹．更年期症状・泌尿生殖器症状の改善．臨床婦人科産科;66:916-922. 2012
4.樋口 毅，飯野香理，阿部和弘，水沼英樹．ホルモン補充療法実践マニュアル　女性医学分野　Turner 症候群．産科と婦人科;80:288-293. 2013
5.野戸結花，北宮千秋.【被ばく医療における看護の人材育成と研究-弘前大学大学　院被ばく医療人材育成プロジェクト】原子力災害における看護活動と福島第一原子力発電所事故への対応．看護研究, 46(1). 47-54, 2013
6.野戸結花.【被ばく医療における看護の人材育成と研究-弘前大学大学院被ばく医療人材育成プロジェクト】　フランスにおける被ばく医療体制と教育．看護研究，46(1)．67-70, 2013
7.和田一丸 : 抗てんかん薬治療とてんかん包括医療．メディカル・ビューポイント，33 : 4, 2012.
8.井瀧千恵子,北嶋結．特集　被ばく医療における看護の人材育成と研究　弘前大学大学院被ばく医療人材育成プロジェクト　現職者を中心とする被ばく医療教育．看護研究,46(1), 39-46, 2013
9.髙見彰淑：脳血管疾患理学療法のリスク管理.理学療法学 39：135-140、2012.
10.髙見彰淑：大脳・小脳神経回路の障害と理学療法（脳のシステム障害と理学療法）．PT ジャーナル 47：13-18、2013.
11.髙見彰淑 : 脳卒中片麻痺によるバランス障害の評価と理学療法．理学療法 29 : 389-397、2012.
12. 髙見彰淑 : 脳卒中患者の手指把持機能改善のためのアプローチ. 理学療法 29 : 1360-1366、2012.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 高橋純平，髙見彰淑，若山佐一：脳卒中片麻痺患者における歩行の自立判定方法ならびに関連要因の検討，理学療法科学 27：731-736，2012

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

3）著書

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.樋口 毅, 漢方とＨＲＴの比較　加味逍遥散の更年期障害への臨床研究-無作為割付研究の結果より-,日本女性医学学会ニューズレター, 日本女性医学学会, 2012.

2.和田一丸：てんかん病像の変化と長期予後．兼子直（編）．てんかん教室 改訂第 3 版．pp. 201-207，新興医学出版社，東京，2012.

3.和田一丸，菊地隆，吉田秀一：てんかん患者の妊娠，出産．兼子直（編）．てんかん教室 改訂第 3 版．pp. 208-229，新興医学出版社，東京，2012.

4.和田一丸，岩佐博人：てんかんと社会生活．兼子直（編）．てんかん教室 改訂第 3 版．pp. 230-251，新興医学出版社，東京，2012.

5.髙見彰淑：リハ実践テクニックー脳卒中　髙見彰淑・千田富義編集，改訂第 2 版，373 頁，メジカルビュー社，東京，2012（編集）.

6.髙見彰淑：リハビリテーションの実際　運動・動作障害．リハ実践テクニックー脳卒中　髙見彰淑・千田富義編集, 改訂第 2 版, pp120-150, メジカルビュー社, 東京, 2012.

7.髙見彰淑：ADL 評価．リハ実践テクニックー脳卒中　髙見彰淑・千田富義編集，改訂第 2 版，pp217-223，メジカルビュー社，東京，2012.

8.髙見彰淑：リハビリテーションの実際　CI 療法．リハ実践テクニックー脳卒中　髙見彰淑・千田富義編集，改訂第 2 版，pp247-251，メジカルビュー社，東京，2012.

9.髙見彰淑：総論　脳神経疾患のみかた，脳・神経リハビリテーション（ビジュアル実践リハ），潮見泰藏編集，pp20-34，羊土社，東京，2012.

10.髙見彰淑：脳疾患-1A 脳卒中急性期，脳・神経リハビリテーション（ビジュアル実践リハ），潮見泰藏編集，pp44-66，羊土社，東京，2012.

11.髙見彰淑:脳疾患-2 くも膜下出血, 脳･神経リハビリテーション(ビジュアル実践リハ), 潮見泰藏編集，pp107-111，羊土社，東京，2012.

12.髙見彰淑:脳疾患-3 多発性脳梗塞, 脳･神経リハビリテーション(ビジュアル実践リハ), 潮見泰藏編集，pp112-117，羊土社，東京，2012.

13.髙見彰淑：解析の実際，今日から使えるリハビリテーションのための統計学,，高橋仁美・加賀谷斉編集，pp36-41，44-47，50-51，医歯薬出版，東京，2013.

14.髙見彰淑：脳卒中の理学療法-2-1 意識障害，標準理学療法学ー神経理学療法学，吉尾雅春・森岡周編集，pp64-73，医学書院，東京，2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

4）その他

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Takao Osanai, Yoko Sito, Terumi Kogawa, Hiroyuki Nozaka, Kiyotada Wshiya, Kumiko Saito, Tomoko Ichinohe and Kazuyuki Kida : Activities of the Social Coordination Group in Radiation Emergency Medicine, 2009-2011． The proceedings of the 4th international symposium on radiation emergency medicine at hirosaki university. 13-15, 2012.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.川崎くみ子，大沢恵利加，藤田　雄，村上礼一，生体腎移植患者の移植準備期における心理的プロセスと看護の役割，　第 45 回日本臨床腎移植学会記録集　腎移植症例集 2012

2.川添郁夫，藤田あけみ，北宮千秋，西沢義子，工藤文子，　三上みどり，境恵理子，丹代房枝，三國裕子，佐藤弥生，磯邊優子，佐藤美佳，壬生寿子，市川美子，中村由美子，半田幸.「ペーパー・ペイシェントを用いた入学時看護学生の家族認識の分析」. 青森県看護教育研究会研究会誌，41，24-28，2012.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1.漆坂真弓，北島麻衣子，高間木静香，葛西敦子，工藤せい子，齋藤久美子，他：看護教員の英語教育に対する意識および取り組みに関する調査，青森県看護教育研究会誌，41：7-11，2013.3

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1.平塚磨奈，工藤せい子，冨澤登志子，西沢義子：就業年数別にみた看護者の対人態度について，弘前大学医学部附属病院看護部紀要，12：50-53，2012

Ⅱ．学会、研究会等の発表

1）国際学術集会

Ａ.特別（招待）講演

なし

Ｂ．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1. Takao Osanai：Activities of the Social Coordination Group in Radiation Emergency Medicine, 2009-2011, The 4th international symposium on radiation emergency medicine at hirosaki university.

2. Tomisawa.T., Itaki. C., Aizu. K., Ogino. A., Tagami. K. The Relationship Risk Perception on Radiation and Radiological Knowledge on Nurses after the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plants Disaster. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University

Ｃ.一般演題（ポスター発表を含む）

1.Susumu Yonesaka,Toru Takahashi, Takumi Sato, Tomomi Ueda, Yosuke,Kitagawa,Yuki Konno, Jun shimada, Shuji Eto, Akira Sato, Katuki Otani, Kota Ichinose, Manabu

Kinjo.Clinicopathological investigation on dilated cardiomyopathy in infants and children: The role of endomyocardial biopsy and biomarkers.AEPC (Association for European Pediatric Cardiology) 46th Annual Meeting. 2012,May 22-27,Istanbul, Turkey

2. Akemi Fujita, Seiko Kudo：SELF-CARE AND EGO STATES IN POSTOPRATIVE RECTAL CANCER PATIENTS WITH DYSCHEZIA，Developing International Networking for Nursing Research，The 16th EAFONS，21・22 February 2013 Bangkok, Thailand.
3. Higuchi T，Iino K，Mizunuma H, Effects of Kamishoyosan(Japanese herbal Medicine)for Climacteric Disorders Compared with HT, The American College of Obstetricians and Gynecologists Annual Clinical Meeting, San Diego, 2012.
4. Iino K，Higuchi T，Mizunuma H, The Role of Anti-Mullerian Hormone,lnhibin B,FSH and Estradiol as a Tool of Menopausal Marker, The American College of Obstetricians and Gynecologists Annual Clinical Meeting, San Diego,2012
5. Yuka Noto, Noriko Ogura, Mayumi Urushizaka, Maiko Kitajima, Yoshiko Nishizawa, Tomoko Ichinohe and Hideaki Yamabe. THE ATTITUDE OF NURSES FOR RADIATION EMERGENCY MEDICINE AND ITS STRUCTURE. The 16th EAFONS . Bangkok. 2013
6. Maiko Kitajima, Mayumi Urushizaka, Toshiko Tomisawa, Chieko Itaki, Yuka Noto, Kyoko Tagami, Kumiko Ozawa. THE PSYCHOLOGICAL EFFECTS OF WALKING FOR DIABETES PATIENTS AT SHIRAKAMI-SANCHI IN JAPAN. The 16th EAFONS . Bangkok. 2013
7. Noriko Ogura, Yuka Noto, Yoshiko Nishizawa, Hideaki Yamabe, Mayumi Yamauchi and Yayoi Tsutsumi. FACTORS INFLUENCING THE OCCURRENCE OF DERMATITIS IN PATIENTS WITH BREAST CANCER DURING RADIOTHERAPY. The 16th EAFONS . Bangkok. 2013
8. Mayumi Urushizaka, Yuka Noto, Noriko Ogura, Maiko Kitajima, Yoshiko Nishizawa, Tomoko Ichinohe, Hideaki YamabeHirosaki. CHANGES IN IMPRESSION OF RADIATION IN NURSES BEFORE AND AFTER THEY ATTENDED EDUCATIONAL SEMINARS ON RADIATION. The 16th EAFONS . Bangkok. 2013
9. Yoshiko Nishizawa, Chiaki Kitamiya, Yuka Noto and Keiko Aizu. STUDY OF THE IMPRESSION OF THE HAZMAT SUIT A COMPARISON BETWEEN NURSING STUDENTS AND NURSES. The 16th EAFONS . Bangkok. 2013
10. Chiaki Kitamiya, Yuka Noto, Takushi Odariri. Mental health care by nurses during a nuclear disaster. The9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery. Kobe. Japan. 2012
11. Yuka Noto, Harumi Shikanai, Yoshiko Nishizawa, Noriko Ogura, Eriko Kudo, Hideaki Yamabe, Yoichiro Hosokawa and Masahiko Aoki. Acute Radiation Syndrome and Quality of Life in Head and Neck Cancer Patients Undergoing Radiation Therapy. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University. Hirosaki. Japan. 2012
12. Yuka Noto, Harumi Shikanai, Yoshiko Nishizawa, Noriko Ogura, Eriko Kudo, Hideaki Yamabe, Yoichiro Hosokawa and Masahiko Aoki. Acute Radiation Syndrome and Quality of Life in Head and Neck Cancer Patients Undergoing Radiation Therapy. The Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University. 25-29. 2012
13. Yuka Noto, Noriko Ogura, Mayumi Urushizaka, Maiko Kitajima, Yoshiko ,Nishizawa, Tomoko Ichinohe and Hideaki Yamabe. Development of the Attitude Scale on Radiation Emergency Medicine for Japanese Nurses and Evaluation of its Reliability and Validity. The

4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University. Hirosaki. Japan. 2012

14.Yuka Noto, Noriko Ogura, Mayumi Urushizaka, Maiko Kitajima, Yoshiko Nishizawa, Tomoko Ichinohe and Hideaki Yamabe. Development of the Attitude Scale on Radiation Emergency Medicine for Japanese Nurses and Evaluation of its Reliability and Validity. The Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University. 35-42. 2012

15.Chiaki KITAMIYA, Yoshiko NISHIZAWA, Ikuo KAWAZOE .Feature of support by nursing students of different training courses in Japan,The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS),February 21-22,Thailand,2013

16. Hiromi Yokota, Maiko Kitajima, Yuu Kitajima, Shizuka Takamagi,Chieko Itaki. Effective decontamination against injuries radiological contamination -How far does the decontamination splash radiological materials around the injury? The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS),February 21-22,Thailand,2013

17.Tagami, K., Itaki, C., Tomisawa,T., Kitajima, M., & Urusizaka,M.. The effects of a self-management support program for lifestyle-related diseases on communication skills of nursing students. 2012 Asian Society of Human Services Congress In Okinawa

16.Tomisawa T, Itaki C, Aizu K, Ohgino A, Tagami K.The relationship risk perception on radiation and radiological knowledge on nurse after the Hukushima Dai-ichi Nuclear Power Plants disaster.2th Asian Society of Human Services Congress , 108-109, 2012

2）全国学術集会

A．特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1.樋口　毅,中高年女性の健康管理プログラム策定における基礎的・臨床的検討,第 64 回日本産科婦人科学会シンポジウム,神戸,2012

2.樋口　毅, 女性のライフステージと骨粗鬆症　-HRTをどう使うか-　若年性無月経, 第4回HRT研究会ワークショップ,東京,2012.

3.樋口　毅, 閉経後ホルモン療法　HRT による悪性疾患, 第 18 回日本女性医学会ワークショップ,名古屋,2013.

4.樋口　毅,女性ホルモンと FLUTS-臨床レビュー-,第 11 回 Female LUTS and Pelvic Floor Meeting パネルディスカッション,東京,2013

5.髙見彰淑：第 47 回日本理学療法士学術大会　協会企画シンポジウムー「チーム医療と理学療法プロフェッション」. 神戸市,2012

6.則包和也、看護師が実践する認知行動療法における多職種連携を考える：第 12 回日本認知療法学会,東京,2012.

C．一般演題（ポスター発表を含む）　44 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として
1. 野戸結花
研究種目：基盤研究 C
研究課題名：リンパ浮腫に対する運動療法プログラムの開発と効果の検証
配分額：650（千円）
2. 井瀧千恵子
研究種目：基盤研究 C
研究課題名：糖尿病セルフマネジメント支援に関する学生教育プログラムの開発
配分額：1,300　（千円）
3.五十嵐世津子
研究種目：学術研究助成基金助成金（挑戦的萌芽研究）
研究課題名：乳児の離乳に関する母親の意識と実態　―食は人をつくる根源―
配分額：500　（千円）
4. 則包和也
研究種目：挑戦的萌芽
研究課題名：統合失調症患者の認知機能を改善するソフト“ＭＣＴ”の効果検討に関する研究
配分額：1,368（千円）
5.藤田俊文
研究種目：科学研究費補助金　若手研究 B
研究課題名：全身振動刺激が筋循環・代謝機能に与える影響の解明
配分額：4,420 千円
6. 扇野綾子
助成名：　科学研究費補助金　若手研究 B
研究課題名：慢性疾患患児を育てる親のストレス・コーピング構造の変化に関する縦断的研究
配分額：464　（千円）

他研究単位との研究分担者として
1.工藤せい子
研究種目：基盤研究（C）
研究課題名：直腸がん手術患者の排便状態アセスメントシートの作成と排便障害改善の看護介入
研究代表者名：藤田あけみ
配分額：　100（千円）
2. 樋口毅
研究種目：地域イノベーションクラスタープログラム
研究課題名：地域イノベーションクラスタープログラム「プロテオグリカンをコアとした津軽ヘルス&ビューティー産業クラスターの創生」
研究代表者名：柿崎育子
配分額：1,500（千円）
3.則包和也
研究種目：基盤研究 C
研究課題名：精神科病院における社会的入院患者数減少に向けた退院支援評価指標の開発と実証
研究代表者名：石﨑智子
配分額：　30（千円）

2）その他の省庁からの研究費
研究代表者として

なし

3）学内の研究助成
研究代表者として
1.野戸結花
助成名：緊急被ばく医療人材育成プログラム
研究課題名：緊急被ばく医療に対する態度への影響要因
配分額：378（千円）

他研究単位との研究分担者として
なし

4）民間の研究助成
研究代表者として
なし

他研究単位との研究分担者として
1. 横田ひろみ
助成名：弘前大学と弘前との連携調査研究委託モデル事業
研究課題名：観光資源を活用した運動散策マップ作成による生活習慣病対策及び観光推進に関連した研究事業
研究代表者名：山辺英彰
配分額：500（千円）

VI. 研究に関する社会活動
1）国際交流、国際的活動
a) 国際学術集会の主催
なし

b) 外国人研究者の招聘、受け入れ状況
なし

c) 外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況
なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加（3ヵ月未満）状況
なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況
なし

f) その他
なし

2）国内、地域活動
a) 全国レベルの学会の主催
なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況
なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況
なし

Ⅶ. その他
なし

４．社会貢献活動の実施状況（評価年度についてのみ）

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	日本小児循環器学会 日本小児科学会 青森県小児保健学会 青森臨床循環器研究会 東北小児循環器研究会 東北小児循環器懇話会	評議員 代議員 幹事 幹事 幹事 幹事
工藤　せい子	一般社団法人日本看護研究学会	理事・評議員
石川　玲	青森県理学療法士会表彰委員会	委員長
樋口　毅	日本女性医学学会 日本女性医学学会 青森県臨床産婦人科医会 婦人科骨粗鬆症研究会 青森県骨粗鬆症研究会 青森県 STI 研究会 Female LUTS and Pelvic Floor Meeting	評議員 幹　事 理　事 世話人 世話人 世話人 世話人
野戸結花	日本放射線看護学会	理事
和田　一丸	日本てんかん学会 日本てんかん学会東北地方会 東北てんかん談話会 東北精神保健福祉学会	評議員 幹事 幹事 理事
井瀧千恵子	日本放射線看護学会 第 1 回日本放射線看護学会学術集会実行委員	理事
小山内隆生	東北作業療法学会 東北精神保健福祉学会 青森県作業療法士会	評議員 副会長 会長
加藤拓彦	青森県作業療法士会	監事
則包和也	日本精神科看護技術協会	幹事

藤田　俊文	一般社団法人青森県理学療法士会広報局ﾆｭｰｽ編集部 一般社団法人青森県理学療法士会津軽支部広報部	部長 部長
横田ひろみ	自然放射線被ばくと低線量放射線影響に関する国際シンポジウム	実行委員会事務局
小池　祐士	青森県作業療法士会　広報部	部員

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	青森臨川崎病研究会 青森小児心臓病懇話会	代表世話人 代表世話人
工藤　せい子	【セミナー】名称：患者指導スキル向上のためのインタープロフェッショナルワーク２回の企画・運営 《第 1 回》 日時：平成 24 年 11 月 7 日（金）17:40～19:30 《第 2 回》 日時：平成 25 年 2 月 27 日（水）17:40～19:00	企画・運営の主担当者
野戸結花	第 1 回日本放射線看護学会学術集会	事務局長
川崎くみ子	第一回日本放射線看護学会学術集会 青森県看護教育研究会	企画委員 会長
川添　郁夫	第 1 回日本放射線看護学会学術集会 青森県継続看護研究集会	企画委員 役員
則包和也	青森継続看護研究会　第 13 回研究集会 第 1 回日本放射線看護学会学術集会	編集 運営委員
田中　真	第 25 回青森県作業療法学会	実行委員
藤田俊文	平成 23 年度青森県理学療法士会津軽支部特別講習会「徒手的理学療法の実践 in ひろさき」	主催者
横田ひろみ	看護診断セミナー初級コース 看護診断セミナー中級コース 看護診断セミナー上級コース 第 1 回　日本放射線看護学会学術集会	実行委員 企画委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	日本健康教育会誌	査読委員
工藤　せい子	日本ヒューマンケア科学学会 一般社団法人日本看護研究学会 日本看護倫理学会	査読委員 査読委員 編集委員と査読委員
樋口　毅	日本産科婦人科学会 日本女性医学学会	査読委員 査読委員
野戸結花	Radiation Emergency Medicine	査読

井瀧千恵子	保健科学研究 日本放射線看護学会誌	査読 査読
五十嵐世津子	保健科学研究（編集委員　査読）	委員
小山内隆生	作業療法 青森県作業療法研究	査読委員 査読委員
加藤拓彦	日本作業療法士協会 青森県作業療法士会	機関誌編集協力者 査読委員
髙見彰淑	理学療法 理学療法学 理学療法研究	査読員 査読員 査読員
則包和也	日本精神科看護技術協会	査読
田中　真	青森県作業療法士会	査読委員
藤田俊文	東北理学療法学 理学療法研究	査読員 査読員

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
工藤　せい子	第１回日本放射線看護学会	編集企画委員と査読員
石川　玲	第 48 回日本理学療法学術大会の演題の査読	査読委員
五十嵐世津子	第 1 回日本放射線看護学会学術集会一般演題査読	査読員
小山内隆生	日本作業療法士協会	学会演題審査査委員
加藤拓彦	日本作業療法士協会	学会演題審査委員
髙見彰淑	第 48 回日本理学療法学術大会	審査
川添　郁夫	（財）日本精神看護技術学会青森県支部	査読委員
田中　真	日本作業療法士協会	学会演題査読委員
藤田俊文	日本理学療法学術大会 東北理学療法学術大会	査読員 査読員

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
工藤　せい子	リウマチ患者会「のぞみの会」に４・７・１０・１月と参加、４・７・１０月の３回については、季刊リーフレットへケアリングコラムを投稿	世話人
石川　玲	放送大学青森学習センターで面接授業を担当（担当科目：運動療法入門）	講師
野戸結花	はちけん地区まちづくりセミナー　放射線の風評被害をなくすため　正しく知ろう、学ぼう放射線！	講師
五十嵐世津子	弘前大学講演会　「市民公開講座」弘前大学総合文化祭「知の創造」事業	企画･運営委員

髙見彰淑	弘前大学講演会　「市民公開講座」弘前大学総合文化祭「知の創造」事業 大間町学習講演会	運営委員 講師
川添　郁夫	看護職者の教育力開発支援センター・現職者支援部門主催セミナー「患者支援のためのインタープロフェッショナルワーク」弘前大学大学院保健学研究科の特定プロジェクト教育研究センター「看護職者の教育力開発支援センター・現職者支援部門」患者指導スキルアップセミナー	講師
田中　真	傾聴ボランティア養成講座継続研修（野辺地町）	講師
扇野綾子	紅りんご・青りんごベビーサークルにおける育児講話 女性のためのよろず健康相談	講師 構成員
山内瑶子	青年講座「大人の保健体育」 青年講座「イクメン講座」 講座「体験しよう」 女性のためのよろず健康相談	講師

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
和田　一丸	青森県国民健康保険診療報酬審査委員会	委員
小山内隆生	医療審議会 青森県精神保健福祉協会	委員 理事

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職
石川　玲	青森県平成 24 年度産学連携・課題解決型医療福祉関機器等研究開発モデル実証（ライフイノベーション新成長産業創出事業）「人体の力学特性に調和する新駆動方式車椅子の開発」プロジェクト	構成員

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	「医用システム開発マイスター」養成塾	講師
石川　玲	弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾での研究テーマに関する相談	非常勤講師

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	東北小児循環器懇話会教育講演	演者
石川　玲	弘前大清水ホーム	講師

樋口　毅	むつ下北医師会学術講演会 第 118 回山形県産婦人科集談会 むつ下北産婦人科医会 一関市医師会学術講演会 第 489 回西北五医師会集談会 第 292 回青森県臨床産婦人科医会	講師 講師 講師 講師 講師 講師
和田　一丸	公立学校共済組合青森支部メンタルヘルスセミナー	講師
井瀧千恵子	国保中南支部合同研修会	講師
髙見彰淑	第 24 回青森県理学療法士会－西北五支部特別研修会：「姿勢定位障害－Pushing について」 日本理学療法士協会主催　理学療法講習会基本編－脳卒中理学療法のリスク管理など	講師 講師
田中　真	こころの健康づくり講演会（五所川原市）	講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	大館市立病院小児心臓外来診療 金城公立病院小児科外来診療	非常勤医師
石川　玲	老人介護施設「大清水ホーム」におけるリハビリ園内研修及び現任研修 芙蓉会村上病院での理学療法技術及び研究指導講師 青森県高齢者等地域リハビリテーション支援体制整備事業津軽圏域地域リハビリテーション広域支援センター発行の「在宅･施設で行えるリハビリマニュアル」の監修	講師 講師 監修者
樋口　毅	青森県マンモグラフィー読影委員会 青森県骨密度判定委員会 弘前市マンモグラフィー読影委員会	委員 委員 委員
和田　一丸	弘前大学医学部附属病院 青森県障害者相談センター 青森市立浪岡病院 五所川原市立西北中央病院 東北電力（株）東通原子力発電所 青森県警察本部交通部運転免許課	医師 嘱託医 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 認定医
井瀧千恵子	第 2 回緊急被ばく医療現職者研修	講師
小山内隆生	みちのく記念病院 芙蓉会病院	非常勤講師 非常勤講師
加藤拓彦	社会福祉法人みやぎ会	講師

髙見彰淑	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 青森慈恵会病院 ときわ会病院 ひかり荘	非常勤理学療法士
川崎くみ子	あおもり協立病院医療倫理委員会主催公開倫理講座	講師
藤田俊文	介護老人保健施設つがる 長慶苑デイサービスセンター 弘前静光園デイサービスセンター	非常勤理学療療法士
小池祐士	平川市介護予防事業（運動器の機能向上事業）	講師

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	弘前大学教員免許状更新講習	講師
工藤　せい子	弘前大学医学部附属病院看護部「看護倫理研修会」2012.9/6，9/7，9/26 国立大学保健医療系代表者協議会看護分科会 一般社団法人日本看護系大学協議会	講師 検討委員 代表
石川　玲	青森県理学療法士会新人研修での講師 青森県理学療法士会表彰委員会委員として功労賞及び学術奨励賞の選考	講師 委員長
樋口　毅	アステラス株式会社社員研修会	講師
井瀧千恵子	青森県看護協会　緊急被ばく医療と看護 弘前大学医学部附属病院　コンサルティングナースの研修会 看護診断セミナーの開催（年 3 回）	講師 講師 講師
五十嵐世津子	弘前大学医学部附属病院看護部研修 平成 24 年度院内研修（3 年目研修　エビデンスリサーチ）	講師
小山内隆生	青森県作業療法士会基礎研修会	講師
加藤拓彦	日本作業療法士協会	教育部部員
川崎くみ子	青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会 弘前大学医学部付属病院看護部研修 自己育成：看護倫理（1）（2）	講師 講師
川添郁夫	青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会	演習講師
則包和也	青森県看護協会実習指導者講習会　精神看護学実習指導の方法 日本精神科病院協会講習会　看護に活かす認知行動療法	講師 講師

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職
小山内隆生	ラ・トローブ大学短期海外研修引率 UTM 教員受け入れ事業 ストックホルム大学放射線防護研究センターとの学術協力協定調印	責任者 責任者 委員長

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
石川　玲	青森東高校　進学相談会　2011.6.30	相談員
樋口　毅	テレビ診察室 ZIP フライデー	出演者 出演者
五十嵐世津子	弘前大学大学院保健学研究科附属すこやかコミュニティ支援センター「女性のためのよろず健康相談」 ドリーム講座　（五所川原高校） 弘前大学進学相談会（五所川原農林高等学校）	講師 講師 講師
井瀧千恵子	ドリーム講座（弘前高校） 被ばく状況調査（第 3 回派遣チーム） 警戒区域一時立ち入りプロジェクト 福島県浪江町視察	講師 協力員 視察員
髙見彰淑	FM ラジオ放送アップルウェーブ : りんご王国こうぎょくカレッジ「最近の脳卒中リハビリテーション」 ドリーム講座 : リハビリテーションについてー五所川原高校	講師 講師
川崎くみ子	女性のためのよろず健康相談	相談員
川添　郁夫	ドリーム講座（青森北高等学校）	講師
田中真	あおもりいのちの電話	研修副委員長
藤田俊文	トレーナー活動 ○第 58 回全日本中学校通信陸上競技大会青森大会	トレーナー

放射線生命科学分野

Department of Radiological Life Sciences

１．教員

放射線生命科学分野(人)

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
5	3	3	6	1

２．教育実績

1）21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
12 年度	中川公一	教授	化学 IB(3) 基礎ゼミナール	16 8
	細川洋一郎	教授	環境と生活 D 生物の科学、技術（A） ①生物の環境適応と進化 芸術の世界 D	16 10 14
	齋藤陽子	教授	最新医学の現状 基礎ゼミナール	6 30
	祐川幸一	准教授	科学・技術の発達（D）	30
	廣田淳一	准教授	統計学の基礎	30
	樽澤孝悦	講師	科学・技術の発達(J) ―放射線の利用と防護―	32
	工藤幸清	講師	テーマ科目「環境と生活（D)」	16
	中原岳久	講師	生物学の基礎ⅡＡ④ 物理学の基礎ⅡＤ（Ｒ） 物理学の基礎ⅡＤ（Ｔ）	12 32 32
	久保田　護	助教	放射線防護の基礎	2
	寺島真悟	助教	放射線防護の基礎	2

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
12 年度	細田正洋	助教	基礎科学実験	108

2）学部教育

(4) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	柏倉幾郎	教授	放射化学Ⅰ 放射化学Ⅱ 医療情報 医用情報学演習	2 2 3 3	30 15 15 30
	中川公一	教授	放射線計測学 放射線計測学演習 総合演習 II	2 3 4	32 32 8
	細川洋一郎	教授	放射線治療技術学 放射線治療線量評価学演習 放射線治療技術学演習 放射線治療物理学演習 医学英語 卒業研究 総合演習 III 保健学概論演習	2 3 3 4 3 4 4 4	30 20 30 30 10 60 10 6
	真里谷　靖	教授	臨床医学概論演習 医学英語 画像解剖学 画像解剖学演習 核医学検査技術学Ⅰ 核医学検査技術学Ⅱ 核医学検査技術学演習 総合演習Ⅱ 総合演習Ⅴ 医療リスクマネジメント 核医学検査技術学（T）	2 3 2 2 2 3 3 4 4 3 3	32 10 18 22 18 20 8 6 6 4 16
	齋藤陽子	教授	量子撮影技術学 診療画像技術学Ⅰ 診療画像技術学Ⅱ 診療画像技術学演習 医学英語 総合演習Ⅳ 総合演習Ⅴ 理学療法特殊講義 神経・筋・感覚機能検査学 疾病論Ⅱ	2 2 3 3 3 4 4 3 3 2	64 32 32 32 10 16 10 6 7 4
	祐川幸一	准教授	人体形態学 人体形態学演習 総合演習Ⅴ	1 1 4	64 32 4

	廣田淳一	准教授	放射線機器工学実験 X 線 CT 工学演習 放射線治療機器工学 波動応用機器工学 放射線治療線量評価学演習 医用工学 総合演習 I 核医学機器工学 医用工学実験 波動応用機器工学演習 解析学	3 3 3 2 3 2 4 2 2 2 1	45 30 15 15 5 30 10 15 45 30 15
	樽澤孝悦	講師	放射線安全管理学 放射線安全管理学演習 総合演習Ⅲ 卒業研究	3 4 4 4	30 30 8 240
	工藤幸清	講師	量子撮影技術学 医用工学演習 X 線機器工学 総合演習 I 総合演習Ⅳ	2 2 3 4 4	8 32 32 20 14
	中原岳久	講師	放射線生物学 総合演習Ⅲ	2 4	30 8
	久保田　護	助教	総合演習Ⅲ	4	6
	對馬　惠	助教	核医学検査技術学 I 核医学検査技術学Ⅱ 核医学検査技術学演習 医用情報学演習 画像解剖学演習 デジタル処理演習 総合演習Ⅱ 総合演習Ⅳ	2 3 3 3 2 3 4 4	14 14 16 8 10 30 6 6
	細田正洋	助教	放射線画像形成学	2	22
	門前　暁	助教	放射線画像形成学 医用情報学演習	2 3	12 14
	寺島真悟	助教	放射線生物学 放射線治療線量評価学演習 総合演習Ⅲ	2 3 4	2 6 4
	小山内　暢	助手	総合演習Ⅴ	4	2

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	柏倉幾郎	教授	放射線科学実験	3	45
	細川洋一郎	教授	放射線計測学実験	3	39
	祐川幸一	准教授	人体形態学実習	1	45
	樽澤孝悦	講師	放射線安全管理学実験	4	45

12 年度	工藤幸清	講師	医用工学実験 放射線機器工学実験	2 3	45 45
	中原岳久	講師	医用物理学実験（R） 医用物理学実験（T） 放射線科学実験 放射線安全管理学実験	1 1 3 4	45 45 21 45
	久保田　護	助教	放射線機器工学実験 放射線管理学実験 放射線計測学実験 医用画像情報学実験	3 4 3 3	45 45 45 45
	對馬　惠	助教	放射線安全管理学実験 放射線計測学実験 医用画像情報学実験	4 3 3	45 45 45
	細田正洋	助教	放射線機器工学実験 放射線科学実験 医用画像情報学実験 医用物理学実験（T） 医用工学実験	3 3 3 1 2	45 45 45 45 45
	門前　暁	助教	放射線科学実験 医用物理学実験 放射線計測学実験	3 1 3	21 45 45
	寺島真悟	助教	医用物理学実験(R) 医用物理学実験(T) 放射線計測学実験	1 1 3	42 42 45
	吉野浩教	助教	放射線科学実験 放射線計測学実験	3 3	21 45
	小山内　暢	助手	放射線機器工学実験 放射線安全管理学実験 放射線計測学実験 医用画像情報学実験 医用工学実験	3 4 3 3 2	45 45 45 45 45

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
12 年度	細川洋一郎	教授	3 4	60 60
	真里谷　靖	教授	3 4	120 120
	齋藤陽子	教授	3 4 3T	45 45 21

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	年間担当時間数
12 年度					

3）卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　　導　　者　　名
12 年度	5 名	柏倉幾郎、門前　暁、吉野浩教
	1 名	中川公一
	5 名	細川洋一郎、門前　暁
	4 名	真里谷　靖、門前　暁
	4 名	齋藤陽子
	4 名	祐川幸一
	2 名	廣田淳一
	2 名	樽澤孝悦
	4 名	工藤幸清
	3 名	中原岳久

4）大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	柏倉幾郎	教授	放射線防護総論（M） 放射薬品学特論 放射線生命科学特講（D）	1 1 1	30 30 30
	中川公一	教授	放射線防護総論（M） 保健学研究セミナー（M）	1 1, 2	8 約 10
	細川洋一郎	教授	放射線生命科学特講（D） 被ばく医療総論（M） 放射線治療技術学特論（M）	1 1 1	8 8 30
	真里谷　靖	教授	医療マネジメント（M） トレーサー情報解析学特論（M）	1 2	8 30
	齋藤陽子	教授	画像診断技術学特論（M） 被ばく医療総論（M）	1 1	30 8
	祐川幸一	准教授	脳機能画像解析学（M）	1	30
	廣田淳一	准教授	インタープロフェッショナルワーク論（D）	1	15
	工藤幸清	講師	放射線防護総論（M） 保健学連携セミナー（M）	1 1	8 30
	中原岳久	講師	放射線安全管理学特論（M） 放射線防護総論（M）	1 1	32 8
	對馬　惠	助教	トレーサー情報解析学特論（M）	2	14

(2)演習の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	柏倉幾郎	教授	生体情報放射線科学演習（M） 放射線生命科学特講演習 B（M）	1 1	30 30

12 年度	齋藤陽子	教授	被ばく医療演習（M） 生体画像情報学演習（M）	1 1	30 30
	門前　暁	助教	生体情報放射線科学特別研究（M） 放射線生命科学特別研究（D)		150 90

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
12 年度	柏倉幾郎	教授	柴宏博「グラム陰性細菌 N—アシル—L—ホモセリンラクトン類似体化合物のヒトがん細胞の増殖に対する作用」（D）
	齋藤陽子	教授	大湯和彦 肝細胞特異性 MRI 用造影剤ガドキセト酸ナトリウムの至適造影方法に関する基礎的検討（M） 小山内　暢 CT 検査における被曝低減に関する研究～冠状動脈 CT における低電圧撮影法の画質と被曝線量～（D）

5）その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　称　等
12 年度	中川公一	教授	弘前大学公開授業　1 回 ＦＤ参加　2 回
	細川洋一郎	教授	①平成 24 年度弘前大学ＦＤワークショップ（第 14 回）テーマ「能動的学修（アクティブ・ラーニング） ②ＦＤシンポジウム(H24.11.3) 公開授業立案参加、精神障害作業療法疾患学和田一丸教授(授業 2 回担当) 公開授業立案参加、放射線計測学演習中川公一教授 ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30) 公開授業立案参加、大学院博士前期課程　国際医療保健学－病気の歴史－　伊藤巧一准教授
	齋藤陽子	教授	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30)
	對馬　惠	助教	公開授業参観（中川公一）20120619 公開授業参観（一戸とも子）20120625
	寺島真悟	助教	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」 ＦＤ講演会 第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」 保健学研究科独自の公開授業

12 年度	吉野浩教	助教	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」 ＦＤ講演会第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」
	小山内　暢	助手	ＦＤ講演会 第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30) 第 2 回「教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み」(H24.10.25)

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
12 年度	細川洋一郎	教授	歯科放射線学 放射化学	岩手医科大学 青森大学	2 10
	祐川幸一	准教授	人体の構造と機能Ｉ 人体のしくみと働き	秋田看護福祉大学 弘前市医師会看護専門学校	30 140
	久保田　護	助教	成人看護(放射線診療と看護)	八戸准看護学院	6
	對馬　惠	助教	放射線科学	青森県立黒石高等学校専攻科看護科	10
	細田正洋	助教	放射化学 核医学物理学･保健物理学特論演習（特別講義） 放射線防護学（がんプロフェッショナル養成事業）	青森大学 首都大学東京大学院 茨城県立医療大学	6 2 3

３．研究業績

Ｉ．発表論文

1）原著

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Nakagawa K., Ohba Y, Epel B, Hirata H, The 9 GHz EPR Imager for Thin Materials: an Application to Surface Detection, Journal of Oleo Science, 61(8), 451-456 (2012).
2. Nakagawa K, Minakawa S, Sawamura D, Spectroscopic Evidence of Abnormal Structure of *Psoriasis Vulgaris* Stratum Corneum, Journal of Dermatological Science, 65(3), 222-224 (2012).
3. Hosokawa Y, Okumura K, Terashima S, Sakakura Y. RADIATION PROTECTIVE EFFECT OF HYPOXIA-INDUCIBLE FACTOR-1α (HIF-1α) ON HUMAN ORAL SQUAMOUS CELL CARCINOMA CELL LINES. Radiation Protection Dosimetry. 152(1-3):159-63 (2012).
4. Yoichiro Hosokawa, Masahiro Hosoda, Akifumi Nakata, Masanori Kon, Mayumi Urushizaka1 and Mitsuaki A Yoshida. Thyroid screening survey on Children after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. REM.2(1): 82-86 (2013).
5. S. Monzen, I. Kashiwakura. Radioprotective effects of (-)-epigallocatechin-3-gallate on human erythrocyte/granulocyte lineages. Radiation Protection Dosimetry. 152(1-3): 224-228

(2012).

6. S. Monzen, H. Yoshino, K. Kasai-Eguchi, I. Kashiwakura. Characteristics of myeloid differentiation and maturation pathway derived from human hematopoietic stem cells exposed to different linear energy transfer radiation types. PLoS One. 2013;8(3):e59385.
7. S. Monzen S, H. Matsutani, I. Kashiwakura. A continuous 4-year evaluation of medical informatics education in a graduate school of health sciences using a questionnaire survey. Radiat Res, 178(4): 280-288 (2012).
8. H. Yoshino, K. Kiminarita Y. Matsushita and I. Kashiwakura. Response of the Nrf2 protection system in human monocytic cells after ionising irradiation. Radiation Protection Dosimetry, 152(1-3): 104-108 (2012).

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. S. Ebina, T Chiba, T. Ozaki, I. Kashiwakura. Relationship between 8-hydroxydeoxyguanosine levels in placental/umbilical cord blood and maternal/neonatal obstetric factors. Exp Ther Med, 4(3): 387-390 (2012).
2. S. Ebina and I. Kashiwakura. Relationships between feeding modes and infant weight gain in the first months of life. Exp Ther Med, 5(1):28-32 (2013).
3. J. Ishikawa, Y. Takahashi, M. Hazawa, Y. Fukushi, A. Yoshizawa, I. Kashiwakura. Suppressive effects of liquid crystal compounds on the growth of U937 human leukemic monocyte lymphoma cells. Cancer Cell Int, 12(1): 3 (2012).
4. M. Yamaguchi, S. Ebina and I. Kashiwakura. Involvement of placental/umbilical cord blood acid-base status and gasvalues on the radiosensitivity of human fetal/neonatal hematopoietic stem/progenitor cells. J Radiat Res, 54(2):277-284 (2013).
5. S. Ebina, I. Kashiwakura. Influence of breastfeeding on maternal blood pressure at one month postpartum. Int J Womens Health, 4: 333-339 (2012).
6. T. Wakasaya, H. Yoshino, Y. Fukushi, A. Yoshizawa and I. Kashiwakura. A liquid crystal-related compound induces cell cycle arrest at the G2/M phase and apoptosis in a human non-small cell lung cancer A549 cell line. Int J Oncol, 42(4): 1205-1211 (2013).

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. K. Kato, A. Omori and I. Kashiwakura. Radiosensitivity of human hematopoietic stem/progenitor cells. Journal of Radiological Protection, 33(1): 71-80 (2013).
2. Sueishi Y, S. Iwamoto, K. Miyazono, S. Nakatani, Nakagawa K. Macroscopic characterization of bilayer membranes composed of triglyceride and phosphathidylcholine investigated using high-pressure ESR spin probe technique, Colloids and Surfaces A: Physicochemical and Engineering Aspects, 415, 262-267 (2012).
3. M. Hazawa, Y. Hosokawa, S. Monzen, H. Yoshino, I. Kashiwakura. Regulation of DNA damage response and cell cycle in radiation-resistant HL60 myeloid leukemia cells. Oncol Rep, 28(1): 55-61 (2012).
4. H. Chai, M. Hazawa, Y. Hosokawa, J. Igarashi, H. Suga, I. Kashiwakura. Novel acridine-based N-acyl-homoserine lactone analogs induce endoreduplication in the human oral squamous carcinoma cell line SAS. Biol Pharm Bull, 35(8): 1257-1263 (2012).
5. Yuichi Sakamoto, Yasushi Mariya, Kohmei Kubo. Quantification of Epstein-Barr Virus Is Helpful for Evaluation of Chronic Active Epstein-Barr Virus Infection. Tohoku J. Exp. Med. 227, 307-311, 2012.
6. Shinji Tokonami, Masahiro Hosoda, Suminori Akiba, Atsuyuki Sorimachi, Ikuo Kashiwakura, Mikhail Balonov. Thyroid doses for evacuees from the Fukushima nuclear accident. *Scientific Reports*. 2: 507 1- 4 (2012).
7. Ganesh Prasad, Tetsuo Ishikawa, Masahiro Hosoda, Atsuyuki Sorimachi, Miroslaw Janik, Kumar Sahoo, Shinji Tokonami, Shigeo Uchida. Estimation of radon diffusion coefficients in soil using an updated experimental system. *Review of Scientific Instruments.* 83, 093503

(2012).

8. Ganesh Prasad, Tetsuo Ishikawa, Masahiro Hosoda, Sarata K. Sahoo, Norbert Kavasi, Atsuyuki Sorimachi, Shinji Tokonami, Shigeo Uchida. Measurement of radon exhalation rate and gamma ray dose rate in Hiroshima Prefecture. *Radiation Protection Dosimetry.* 152:1-3, 130-134 (2012).
9. Kazumasa Inoue, Masahiro Hosoda, Masato Sugino, Hideo Simizu, Arisa Akimoto, Kenta Hori, Tetsuo Ishikawa, Sarata K. Sahoo, Shinji Tokonami, Hiroto Narita, Masahiro Fukushi. Environmental radiation in Izu-Ooshima Island After the accident of Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Radiation Protection Dosimetry.* 152:1-3, 234-237 (2012).
10. Hirofumi Tazoe, Masahiro Hosoda, Atsuyuki Sorimachi, Shinji Tokonami, Masatoshi Yamada. Radioactive pollution in the terrestrial environment released by the accident of Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Radiation Protection Dosimetry*.152:1-3, 198-203 (2012).
11. Yoshitaka Shiroma, Shogo Kina, Takuyou Fujitani, Masahiro Hosoda, Atsuyuki Sorimachi, Tetsuo Ishikawa, Sarata K. Sahoo, Shinji Tokonami, Masahide Furukawa. Characteristics of Radon and Thoron Exhalation Rates in Okinawa, Subtropical Region of Japan 、 *Radiation Protection Dosimetry.* 152:1-3, 184-188 (2012).
12. Hideki Kakiuchi, Naofumi Akata, Hidenao Hasegawa, Shinji Ueda, Shinji Tokonami, Masatoshi Yamada, Masahiro Hosoda, Atsuyuki Sorimachi, Hirofumi Tazoe, Kaori Noda, Shun'ichi Hisamatsu. Concentration of ^{3}H in plants around Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Station. *Scientific Reports*. 2:947 1-3 (2012).
13. Kazuki Iwaoka, Masahiro Hosada, Hiroyuki Tabe, Tetsuo Ishikawa, Shinji Tokonami, Hidenori Yonehara. Activity concentration of natural radionuclides and radon and thoron exhalation rates in rocks used as decorative wall coverings in Japan. Health Physics. 104:1, 41-50 (2013).
14. Miroslaw Janik, Shinji Tokonami, Chutima Kranrod, Atsuyuki Sorimachi, Tetsuo Ishikawa, Masahiro Hosoda, James Mclaughlin, Byung-Uck Chang, Yong Jae Kim. Comparative analysis of radon, thoron and thoron progeny concentration measurements. *Journal of Radiation Research*. (2013)
15. Yukari Tajika, Yumi Yasuoka, Hiroyuki Nagahama, Toshiyuki Suzuki, Yoshimi Homma, Tetsuo Ishikawa, Shinji Tokonami, Takahiro Mukai, Miroslaw Janik, Atsuyuki Sorimachi, Masahiro Hosoda. Radon concentration of outdoor air: measured by an ionization chamber for radioisotope monitoring system at radioisotope institute. *Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry*. 295:3, 1709-1714 (2013).
16. Hirose K, Monzen S, Yoshino H, Sato H, Aoki M, Hatayama Y, Kawaguchi H, Sato M, Narita Y, Takai Y, Kashiwakura I. Effects of radiation on the maturation of megakaryocytes. J Radiat Res. 2013 Jan 7. [Epub ahead of print].
17. Hirose K, Monzen S, Sato H, Sato M, Aoki M, Hatayama Y, Kawaguchi H, Narita Y, Takai Y, Kashiwakura I. Megakaryocytic differentiation in human chronic myelogenous leukemia K562 cells induced by ionizing radiation in combination with phorbol 12-myristate 13-acetate. J Radiat Res. 2012 Dec 31. [Epub ahead of print].
18. Iwasaki A, Kimura S, Sutoh K, Kamimura K, Sasamori M, Seino M, Komai F, Terashima S, Kubota M, Narita Y, Hosokawa Y, Miyazawa M. Reconsideration of the Iwasaki-Waggener iterative perturbation method for reconstructing high-energy X-ray spectra. Biol Pharm Bull. 35(8):1257-63 (2013).

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.真里谷 靖、関澤玄一郎、関　博文．Repeat stereotactic radiosurgery による脳転移治療と脳機能維持．癌の臨床．58, 189-197 (2012).

2.門前 暁，松谷秀哉，柏倉幾郎．医学部保健学科における医療情報リテラシーの理解度調査－4 年間の継続調査からみた考察．日本放射線技術学会雑誌, 69: 1 (2013).

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1.山内真弓，野戸結花，小倉能理子，西沢義子，山辺英彰，細川洋一郎，青木昌彦，堤弥生．放射線治療を受けている乳がん患者の急性放射線障害と QOL．日本放射線看護学会誌 1(1):13-21(2013).

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

2）総説

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1.Suminori Akiba, Shinji Tokonami, Masahiro Hosoda. Summary of discussions at the symposium focusing on problems resulting from the nuclear accident at the Fukushima Daiichi nuclear power plant. *Journal of Radiological Protection.* 33:1, E1-E4 (2013).

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

3）著書

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. K. Nakagawa, “Lipid structures of various stratum corneum investigated by electron paramagnetic resonance,” ***Keratin: Structure, Properties and Applications***, Chapter 5, Renke Dullaart and Joao Mousques, Eds, Nova Science Publishers, Inc., New York, 113-131 (2012). ISBN 978-1-62100-336-6

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 細田正洋, 中谷儀一郎：放射線計測学．福士政広編．診療放射線技師ポケット・レビュー帳．2nd edition．148-173，メジカルビュー社，東京都，2012.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 真里谷 靖 他．2012 年版放射線治療計画ガイドライン改訂作業委員会．頭頸部． 放射線治療計画ガイドライン 2012 年版．日本放射線腫瘍学会編．76-122．金原出版．東京. 2012.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 大谷浩樹，細田正洋：放射線計測学．福士政広編．診療放射線技師ブルーノート基礎編．3rd edition．504-508 および 520-548，メジカルビュー社，東京都，2012.
2. 大谷浩樹，細田正洋：放射線計測学．福士政広編．診療放射線技師グリーンノート基礎編 ．2nd edition．192-193 および 202-215，メジカルビュー社，東京都，2012.

4）その他

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 小山内暢，斎藤陽子，細川洋一郎．医療被ばく低減に向けて～ＣＴ検査における対策～. ESI-NEWS 30(2)1-6, 2012.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 井瀧千恵子，漆坂真弓，扇野綾子，小山内 暢，北島麻衣子，北嶋 結，工藤幸清，齋藤陽子，高間木静香，寺島真悟，冨澤登志子，中野 学，中村敏也，野戸結花，則包和也，細川洋一郎，細田正洋，真里谷 靖，門前 暁，横田ひろみ，吉野浩教: 弘前大学大学院保健学研究科現職者研修実行委員会編．弘前大学大学院保健学研究科被ばく患者対応トレーニングマニュアル．弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療現職者研修実行委員会，弘前市, 2013.3.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

Ⅱ．学会、研究会等の発表

1）国際学術集会

A.特別（招待）講演

1. I. Kashiwakura, S. Tokonami, M. Hosoda, S. Akiba, A. Sorimachi, and M. Balanov. Thyroid doses for evacuees from the Fukushima daiichi nuclear power plant accident. International Academic Conference on Radiation Health Risk Management in Fukushima (Fukushima, Japan, 25 Feb, 2013).

Ｂ．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

Ｃ.一般演題（ポスター発表を含む）

1. I. Kashiwakura, S. Tokonami, M. Hosoda, S. Akiba, A. Sorimachi, and M. Balanov. Thyroid doses for evacuees from the Fukushima daiichi nuclear power plant accident. International Academic Conference on Radiation Health Risk Management in Fukushima. Feb 25, 2013, Fukushima, Japan.
2. K. Ito, A. Nakano, K. Ito, I. Kashiwakura and H. Sato. Double-unit umbilical cord blood transplantation induces MHC-matched Single-unit dominance with development of immunocompetent lymphocytes in recipient mice. 54th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition, December 8-11 2012, Atlanta, USA.
3. H. Sato, A. Wakayama, K. Ito, I. Kashiwakura and K. Ito. Functional adaptive immune responses in hematopoietic chimeric mice after umbilical cord blood cell transplantation. 54th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition, December 8-11 2012, Atlanta, USA.
4. K. Nakagawa, Yasunori Ohba, Boris Epel, and Hitoshi Hirata, “A 9 GHz EPR imager for thin materials, such as skin,” The 8th Asia Pacific EPR/ESR Symposium (APES2012), Beijing, China, 10/11-10/15 (13 IL-19), 2012. Invited Lecture
5. K. Nakagawa, K. Kobukai, K. Nakatsukasa, and A. Hironaka, “EPR Investigation of Sucrose Radicals Produced by X-ray and Heavy-ion Irradiations, The 8th Asia Pacific EPR/ESR Symposium (APES2012), Beijing, China, 10/11-10/15 (13, poster), 2012.
6. K. Nakagawa, Y. Ohba, “Skin Lipid Structure Investigated by EPR Spin-probe Method and a Possible EPR-Imaging Application, World Congress on Oleo Sicence and 29th ISF Congress, Sasebo, Nagasaki, O-46, 9/30-10/4 (10/1), 2012. Oral
7. K. Nakagawa, Yasunori Ohba, Boris Epel, and Hitoshi Hirata, “A 9 GHz EPR Imager: A Possible Application to Skin,” The 2nd International Symposium on Electron Spin Science (ISESS 2012), Sendai, p 76, 7/23-7/25 (25), 2012. Oral
8. M. Hosoda, T. Ishikawa, A. Sorimachi, S. K. Sahoo, H. Takahashi, Y. Shiroma, M. Furukawa, S. Tokonami. Distribution of Radon Exhalation Rate from the Soil Surface in Japan. *13th International Congress of the International Radiation Protection Association*. May 13-18, 2012, Glasgow, Scotoland.
9. A. Sorimachi, M. Hosoda, H. Tazoe, S. Tokonami, M. Yamada, S. Monzen, M. Osanai, I. Kashiwakura. Time Variation of Dose Rate and Gamma Spectrum of the Radionuclides Deposited on the Ground Due to the Fukushima Nuclear Crisis. *13th International Congress of the International Radiation Protection Association*. May 13-18, 2012, Glasgow, Scotoland.
10. S. Mishra, H. Arae, A. Sorimachi, M. Hosoda, S. Tokonami, T. Ishikawa, H. Yonehara, S. K. Sahoo. Chemical characterization and migration behavior of fallout radionuclides in soil affected by Fukushima nuclear power plant accidents. *Third International Geo-Hazards Research Symposium*. June 10-14, 2012, Uttarakhand, India.
11. S. K. Sahoo, M. Hosoda, H. Takahaashi, A. Sorimachi, T. Ishikawa, S. Tokonami, S. Uchida. Naturally Occurring Radionuclides and Rare Earth Elements Pattern in Western Japanese Soil Samples. *Third International Geo-Hazards Research Symposium*. June 10-14, 2012, Uttarakhand, India.
12. M. Hosoda, S. Tokonami, S. Akiba, A. Sorimachi, I. Kashiwakura, M. Balonov. 55. Thyroid dose for evacuees from the Fukushima nuclear accident. *The first NIRS symposium on reconstruction of early internal dose due to the TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station accident*. July 10-11. 2012, Chiba, Japan.
13. S. Tokonami, M. Hosoda, A. Sorimachi, O. Kurihara, S. Akiba. 56. Thyroid doses due to radioiodine (I-131) using radiocesium activity measured by Whole Body Counter (WBC). *The second NIRS symposium on reconstruction of early internal dose due to the TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station accident*. January 27, 2013, Tokyo, Japan.
14. Shingo Terashima, Yoichiro Hosokawa, Satoru Monzen, Ikuo Kashiwakura, and Toshiya Nakamura. Effect of ascorbic and X-ray on human leukemia HL-60 cells and the role played by reactive oxygen species in this effect, *The 4th International Symposium on Radiation*

Emergency Medicine at Hirosaki University, Hirosak, 2012.

2）全国学術集会

A．特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1. 柏倉幾郎，伊藤巧一，中野 学，千葉 満，門前 暁，吉野浩教．国内承認医薬品を組合せた急性放射線障害治療プロトコールの探索．日本放射線影響学会第 55 回仙台大会，2012 年 9 月 6 日-8 日，東北大学川内北キャンパス，仙台市，P92.
2. 齋藤陽子．放射線専門看護師へ一放射線科医として期待すること．シンポジウム放射線看護専門看護師の必要性と期待される役割．日本放射線看護学会．平成 24. 9. 29（弘前）

C．一般演題（ポスター発表を含む）　36 件

Ⅲ．学術賞

1. 吉野浩教
   平成 24 年度若手放射線生物学研究会優秀論文賞受賞（2012 年 9 月）

Ⅳ．共同研究

1. 柏倉幾郎
   1) 環境科学技術研究所．研究課題名:放射線障害と回復・再生に関する実験的解析
   2) 富山大学、北海道大学．研究課題名:放射線の非がん影響の解明
2. 廣田淳一
   1) 株式会社日立製作所高度医療支援事業推進本部.
      研究課題名：放射線の電力応用に関する研究

Ⅴ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1. 柏倉幾郎
   研究種目：挑戦的萌芽研究
   研究課題名：国内承認医薬品に新たな急性放射線障害治療プロトコールを見出す！
   配分額：1,200 千円
2. 中川公一
   研究種目：挑戦的萌芽研究
   研究課題名：皮膚疾患に見られる角層の機能異常の検出とその識別化
   配分額：1,000（千円）
3. 細川洋一郎
   研究種目：基盤研究（C）
   研究課題名:4-メチルウンベリフェロン暴露または放射線暴露した場合の細胞内ヒアルロン酸の定量と細胞郵送、細胞浸潤因子の分析
   配分額：1,300（千円）
4. 樽澤孝悦
   研究種目：挑戦的萌芽研究
   研究課題名：被ばく歴を考慮した実効線量制限値設定システムの開発に関する研究
   配分額：1,430（千円）
5. 小山内 暢
   研究種目：若手研究(B)

研究課題名：CT 肺がん検診における乳腺の被曝低減を目的とした体表遮蔽撮影法の確立
配分額：780（千円）

6. 門前 暁
研究種目：若手研究（B）
研究課題名：ヒト造血幹細胞の放射線障害におけるサイトカインによる修復機構の解明
配分額：1,300（千円）

7. 吉野浩教
研究種目：若手研究(B)
研究課題名：樹状細胞のパターン認識受容体に及ぼす放射線の影響と機構解明
配分額：1,700（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.柏倉幾郎
研究種目：基盤研究（C）
研究課題名：臍帯血中のストレス関連分子と胎児の発育との関連性
研究代表者名：蝦名智子
配分額：700 千円

2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

1.柏倉　幾郎
助成名：文部科学省科学技術振興調整費・地域再生人材創出拠点の形成
研究課題名：「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」
代表者氏名：弘前大学学長　佐藤敬
配分額：43,966 千円

他研究単位との研究分担者として

1. 柏倉　幾郎
助成名：平成 24 年度原子力災害影響調査等事業
研究課題名：放射線の非がん影響の解明
研究代表者名：富山大学教授　近藤隆
配分額：4,500 千円（平成 24 年度）

3）学内の研究助成

研究代表者として

1. 柏倉幾郎
助成名：弘前大学機関研究
研究課題名：東日本大震災対応放射線科学研究プログラム
配分額：7,000 千円

2. 中川公一
助成名：弘前大学　平成 24 年度科研費獲得支援事業
研究課題名：皮膚科学研究のための 3 次元画像 ESR 法の構築
配分額：400（千円）

3. 細田正洋
助成名：平成 24 年度 弘前大学若手研究者支援事業
研究課題名：福島原発事故被災住民の甲状腺被ばく線量の評価
配分額：425（千円）
助成名：平成 24 年度大学院保健学研究科緊急被ばく医療人材育成プロジェクト

研究課題名：福島県内仮設住宅におけるラドン濃度調査と内部被ばく線量評価
配分額：625（千円）

4. 門前 暁
助成名：平成 24 年度 弘前大学若手研究者支援事業
研究課題名 : 放射線分割曝露がヒト造血幹細胞に与える DNA 損傷とその修復機構の解明
配分額：425（千円）

5. 吉野浩教
助成名：平成 24 年度弘前大学若手研究者支援事業
研究課題名：免疫細胞の放射線抵抗性獲得機序の解明から、放射線による免疫機能低下の改善策に繋げる
配分額：425（千円）

他研究単位との研究分担者として

1. 中川公一
助成名：平成 24 年度緊急被ばく医療人材育成プロジェクト
研究課題名：スクロースラジカルを用いた低放射線線量の線量評価
配分額：413（千円）

2. 真里谷靖、細田正洋、吉野浩教
助成名：弘前大学機関研究
研究課題名：東日本大震災対応放射線科学研究プログラム
配分額：7,000 千円（平成 24 年度）

3. 吉野浩教
助成名：平成 24 年度　弘前大学学長指定重点研究
研究課題名：細胞内小器官-微小ドメイン間のクロストーク解析を基盤にした新規ストレス応答機構の解明
研究代表者名：伊東 健
配分額：250（千円）

4）民間の研究助成

研究代表者として

1.廣田淳一
助成名：委託指導研究
研究課題名：使用済燃料貯蔵施設における放射線の有効利用に係る検討
配分額：　600（千円）

他研究単位との研究分担者として

なし

VI. 研究に関する社会活動

1）国際交流、国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘、受け入れ状況

なし

c) 外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加（3ヵ月未満）状況

1. 柏倉幾郎
   - 韓国放射線医科学研究、DIRAMS 東南原子力医学院視察（2012 年 5 月 30 日-6 月 2 日、韓国）
   - ストックホルム大学視察（2012 年 9 月 10 日-19 日、スウェーデン）
   - チェルノブイリ原子力発電所視察（2012 年 10 月 28 日-11 月 5 日、ウクライナ）
   - ハンガリー・パンノニア大学　放射化学・放射生体学研究所視察（2013 年 3 月 11 日-15 日、ハンガリー共和国）
2. 真里谷靖
   - ストックホルム大学、スウェーデン、平成 24 年 9 月 11 日～18 日
   - チェルノブイリ原子力発電所視察（2012 年 10 月 28 日-11 月 5 日、ウクライナ）
   - REAC/TS 講習、米国、平成 25 年 3 月 9 日～17 日
3. 細田正洋
   - チェルノブイリ原子力発電所視察（2012 年 10 月 28 日-11 月 5 日、ウクライナ）
4. 吉野浩教
   - REAC/TS の緊急被ばく医療コース講習受講　平成 24 年 6 月 5 日～6 月 8 日
   - Methodist Medical Center of Oak Ridge および Cytogenetic Biodosimetry Laboratory の視察　平成 24 年 6 月 8 日
   - チェルノブイリ原子力発電所視察（2012 年 10 月 28 日-11 月 5 日、ウクライナ）

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

2）国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

研究に関連した記事等があれば、添付すること。

1. 柏倉幾郎

1) 第 20 回生体応答科学研究セミナーの開催

日時：平成 24 年 6 月 4 日（月）　17：40～19：00

会場：大学院講義室

演題：「医療情報は正しく伝わるのか？情報の選択と判断」
講師：北海道大学大学院保健科学研究院　教授　小笠原克彦先生

2) 第 21 回生体応答科学研究セミナーの開催
日時：平成 24 年 7 月 27 日（金）　17：40～19：00
会場：大学院講義室
演題：「カザフスタンにおける核実験による住民への被ばく関連の疫学調査」
講師：株式会社スタットラボ　代表取締役石橋雄一先生

3) 第 22 回生体応答科学研究セミナーの開催
日時：平成 24 年 12 月 13 日（木）　17：40～19：00
会場：24 番講義室
演題：「コンパニオン診断薬と個別化医療」
講師：三重大学大学院医学系研究科　臨床系講座　検査医学分野　教授　登勉先生

4) 第 23 回生体応答科学研究セミナーの開催
日時：平成 25 年 2 月 21 日（木）　17：40～19：00
会場：大学院講義室
演題：「造血因子ハンティングに沸いた 1980 年代から 1990 年代を振り返って」
講師：協和発酵キリン株式会社　リサーチフェロー　宮崎　洋博士

5) 第 24 回生体応答科学研究セミナーの開催
日時：平成 25 年 3 月 14 日（木）　17:40～19:00
会場：大学院講義室
演題：「抗酸化剤による細胞防護効果と細胞致死効果」
講師：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　助教　犬童寛子先生

2. 中川公一

1) アドバンスド ESR 法によるアラニン線量計の研究
Boris Rakvin 先生、Ruđer Bošković Institute, Zagreb, Croatia
H24 年 10 月 17 日(水)

2) スピンラベル ESR 法による タンパク質の構造解析
荒田 敏昭 先生、大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻
日 時: 平成 24 年 7 月 26 日(木)

3. 齋藤陽子

1) 特別講演「末梢血管の画像診断」第 12 回青森 CT・MRI 診断・技術研究会. 平成 24 年 10 月 20 日（青森市労働福祉会館）

4. 吉野浩教

1) 第 46 回 脳研・高度先進合同セミナー 講演
平成 24 年 7 月 4 日（金）　17:00～18:00　医学部基礎研究棟５階 多目的ルーム
演題: 「樹状細胞の分化誘導における放射線の影響」

2) 日本放射線影響学会　第 55 回大会におけるワークショップ企画および座長
平成 24 年 9 月 6 日（木）10：20～11：50　東北大学川内キャンパス
ワークショップタイトル: 「組織幹細胞とがん幹細胞への放射線影響を障害と治療の課題から考える」

学 術 講 演 会

「スピンラベル ESR 法による タンパク質の構造解析」

荒田 敏昭 先生

大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻

日　時: 平成 24 年 7 月 26 日(木)
17:40 － 18:45

場　所: 総合研究棟 2 階　15 番教室

要　旨: タンパク質に遺伝子工学をもちいて、部位特異的に スピンラベル(ニトロキシド)を導入し、スピンラベルの運動性、角度、スピン間距離の測定と解析について講演します。さらに、モータータンパクキネシン、骨格筋心筋調節タンパク・トロポニン、トロポミオシン等について述べる予定です。

この講演会は、1、2、3、4 年生、院生、教職員の方々を歓迎します。

問い合わせ： 放射線 中川 (内線 5921)

学 術 講 演 会

「アドバンスド ESR 法による アラニン線量計の研究」

Boris Rakvin 先生

Ruđer Bošković Institute, Zagreb, Croatia

日　時: 平成 24 年 10 月 17 日(水)
17:40 – 18:45

場　所:保健学科 C 棟 2 階 大学院セミナー室 1

要　旨:　最も簡単なアミノ酸であるアラニンは、放射線照射で安定ラジカルになることが知られ、アラニン線量計として用いられている。このアラニンラジカルについて、最新の ESR(電子スピン共鳴)法による研究成果を述べる予定です。

この講演会は、1、2、3、4 年生、院生、教職員の方々を歓迎します。

問い合わせ： 保健学研究科 中川 (内線 5921)

第46回 脳研・高度先進合同セミナー
（「心の遺伝子」研究コンソーシアム研究セミナー）

日時：2012年7月4日（水）17：00～18：00
場所：医学部基礎研究棟5階 多目的ルーム

＜講演1＞

樹状細胞の分化誘導における放射線の影響

吉野　浩教
保健学研究科

（口演15分、質疑5分）

＜講演2＞

ミトコンドリアCoupling factor 6の肥満脂肪代謝における役割

富田　泰史
循環呼吸腎臓内科学講座

（口演30分、質疑10分）

どうぞお気軽に御参加下さい．学生の参加も大歓迎です．

Information: 伊東健（内5157），若林孝一（内5130）

W3：組織幹細胞とがん幹細胞への放射線影響を障害と治療の課題から考える（若手放射線生物学研究会の企画） W3-1～W3-3

発表：9月6日(木) 10：20－11：50 D会場
座長：吉野 浩教（弘前大学大学院 保健学研究科）
　　廣内 篤久（環境科学技術研究所 生物影響研究部）

W3-1 microRNA による抗がん剤抵抗性の制御とがん幹細胞治療
Micromanaging of drug-resistant cancer stem cells

○落谷 孝広
国立がん研究センター研究所分子細胞治療研究分野

我が国の死因の一位を占めるのは「がん」であり、働き盛りの年齢層における最大の死因でもあり、保健医療上の重要性は極めて高い。がんの本態はゲノム不安定性を背景に、多段階過程を通して複数の遺伝子構造・発現異常が体細胞（がん細胞）に集積することに起因する。従ってがん細胞・組織のゲノム解析は、診断・治療の分子標的を同定し、個別化された予知医療を確立するために極めて有効である。国内でも代表的ながんを対象にゲノム・遺伝子網羅的解析が進み、新たながん関連遺伝子・治療応答性関連遺伝子やその候補領域が多数同定され、機能解析から医薬への応用がはかられようとしている。がんの予後を左右する因子としては、転移と放射線・抗がん剤耐性などがあげられる。これらの問題をどうコントロールするかが患者の存命の鍵となるが、いずれもそのメカニズム解明が様々に検討されているものの、その基礎研究の成果が十分に臨床に反映されていないのが実情である。我々は実際の乳がん患者の遺伝子発現プロファイルをもとに，リボフォリンⅡ（RPN2）という薬剤耐性乳がんの治療標的分子を同定した（Nat Med, 2008)。RPN2は粗面小胞体に局在する膜タンパク質であり、今までの創薬概念では創薬不可能な標的といえる。しかし、RNAi の出現により創薬の可能性は大きく広がり、RPN2を標的とする RNAi 医薬が薬剤耐性乳がんの分子標的薬として利用できると期待される。さらに、臨床検体を用いた研究等から、RPN2はがんの治療抵抗性を象徴する「がん幹細胞」に強く発現する事、そして乳がんの予後不良症例であるトリプルネガティブ乳がんの患者での発現が高い事がわかった。現在は、この RPN2分子を制御する小分子 RNA である microRNA（miRNA）の同定にも成功し（Mol Ther, 2012)、その miRNA が薬剤耐性やリンパ節転移と相関する可能性が見いだされており、miRNA のような non-coding small RNA が制御する治療抵抗性機構の全容解明は、がん幹細胞を標的とする治療戦略に大きなインパクトを与えるに違いない。

がん幹細胞、microRNA、耐性

W3-2 非癌幹細胞は腫瘍放射線感受性に影響を与えるか？
Effect of non-cancer stem cells on tumor radiosensitivity

○三浦 雅彦
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔放射線腫瘍学分野

「放射線治療の標的細胞は、腫瘍組織中にわずかに存在する無限の自己複製能を有する癌幹細胞である」という概念は、最新の癌幹細胞モデルによって初めて提唱されたものではない。実に、何十年も前から存在しており、実際、放射線治療でごく一般的に用いられる腫瘍制御（治癒）確率論は、ポアソン分布を仮定し、腫瘍の治癒率が、初期癌幹細胞の数と放射線感受性によって規定されることを前提として、広く受け入れられている。放射線生物学でゴールドスタンダードとして用いられているコロニー法による線量―細胞生存率曲線は、clonogenic cells = cancer stem cells との発想が伺われ、非癌幹細胞とは異なる放射線感受性を持つものとの考え方があったと思われる。最近、ようやく癌幹細胞マーカーが同定され、単離が可能となり、癌幹細胞は、グルタチオン合成能が亢進し、DSB 修復能が高く放射線抵抗性であることが判明した。また、癌幹細胞の性質を維持するニッチの存在が知られ、血管内皮細胞との接触と低酸素状態がその機能を果たすこともわかってきた。しかしながら、もし、こうした癌幹細胞説が正しいとするならば、治療中の腫瘍組織から得られるアポトーシス頻度、あるいはアポトーシス関連シグナルは、非癌幹細胞を反映する情報であるにもかかわらず、これまで、アポトーシス頻度と治療成績に強い相関があるとの多くの報告はどのように説明できるであろうか。このことについて考察してみたい。

癌幹細胞、非癌幹細胞、腫瘍放射線感受性

W3-3 重粒子線による癌幹細胞を標的とした癌治療の基礎的研究
Cancer Stem Cell Targeted Treatment by Heavy Ion Radiotherapy

○崔 星[1)]、上條 武彦[2)]、山田 滋[3)]、鎌田 正[3)]
[1)] 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター 次世代重粒子治療プログラム、[2)] 千葉県がんセンター研究局・発がん制御研究グループ、
[3)] 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター 病院

ここ十数年、各種腫瘍において癌幹細胞の存在が確認され、この癌幹細胞が放射線抵抗性、薬剤耐性、再発や転移と深く関係していることが報告されている。高 LET 重粒子線は低 LET 一般放射線抵抗性腫瘍に対して顕著な治療成果をあげている。しかし、重粒子線照射がX線等一般放射線に比べなぜ高い局所制御率や治癒率をもたらしているか、そのメカニズムについて解明すべきところが多く、特に癌治療の根治率を左右する癌幹細胞への影響についての研究は非常に重要と考える。今回、ヒト消化器系腫瘍（大腸癌由来 HCT116、SW480、膵臓癌由来 PANC1、 PK45、MIAPaCa2、 BxPc3）細胞を用い、in vitro 及び in vivo にて癌幹細胞を同定・分離し、これら癌幹細胞に対して、炭素線（290, 50keV/um, 6-cm SOBP）或いはX線照射前後の細胞生存率、コロニー形成能、spheroid 形成能、DNA 損傷の違いを調べ、また SCID マウスに移植し、腫瘍形成能、移植腫瘍に対する増殖抑制や治癒率の違いについて比較検討した。上記各種癌細胞において、炭素線照射に比べX線照射では程度の違いはあるものの CD133、 CD44、 CD24、ESA 等癌幹細胞マーカー陽性細胞の割合や蛋白発現が線量依存的に顕著に増加することが認められた。大腸癌細胞においては、CD133+、CD44+/ESA+細胞、膵臓癌細胞では CD44+/CD24+や CD44+/ESA+細胞がそれぞれのマーカー陰性の細胞に比べ有意に colony 形成数が多く、spheroid 形成能や動物移植腫瘍形成能が高いことが認められた。CD133+、CD44+/ESA+細胞や CD44+/CD24+は、X線或いは炭素線照射に対しともに抵抗性を示すが、炭素線はX線照射に比べより強い細胞殺傷能力が認められ、またより強い腫瘍増殖抑制や高い治癒率が認められた。そして、癌幹細胞マーカー陽性細胞に対して炭素線はX線より修復しにくい複雑な DNA 損傷を与えていることが確認された。以上の結果から、炭素線は放射線抵抗性や抗癌剤耐性を示す癌幹細胞を有効的に殺傷することが示唆され、今後より選択的に癌幹細胞をターゲットとした新規重粒子線治療法の開発が期待される。

癌幹細胞、重粒子、DNA 修復

平成２５年３月７日（木）毎日新聞(23 面)

被ばく医療

弘大大学院が学術協定

スウェーデンの大学と「福島支援に貢献」

被ばく医療活動に取り組む弘前大大学院保健学研究科とスウェーデン・ストックホルム大○放射線防護研究センターが6日、弘前市で教育研究の交流を目的とする学術協力協定を締結した。

弘大によると、調印した同センター長のアンジェイ・ボイチク教授は、放射線生物学の世界的なスペシャリスト。教授は弘大が健康支援をする福島県浪江町について触れ、「私が研究しているバイオマーカーなどで染色体レベルの放射線影響を測定すれば、浪江町住民はおそらく陰性の結果が出る可能性が高く、安心につながるだろう」と話した。

学術協力協定書にサインし握手する対馬均・保健学研究科長（左）とアンジェイ・ボイチク教授

対馬均・保健学研究科長は協定の意義について、「細胞レベルで研究する医療生命科学分野の特に被ばく線量の測定研究が発展するだろう」と語った。

保健学研究科の真里谷靖教授が1995年、ボイチク教授と共同研究して同センターとの交流が始まった。同科が海外の研究機関と協定を結ぶのは初めて。

【松山彦蔵】

４．社会貢献活動の実施状況

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	日本放射線影響学会 日本医学放射線学会生物部会	評議委員 幹事
Kouichi Nakagawa	The 2nd International Symposium on Electron Spin Science (The 2nd ISESS 2012)	実行委員
細川洋一郎	日本放射線看護学会	評議員

真里谷　靖	日本放射線腫瘍学会 日本放射線腫瘍学会教育委員会委員 日本放射線腫瘍学会放射線治療推進委員会委員 日本臨床検査医学会 日本放射線看護学会	代議員 委員 委員 評議員 評議員
齋藤陽子	日本磁気共鳴医学会　評議員 日本心臓血管放射線研究会	代議員 幹事
久保田　護	日本放射線技術学会 日本放射線技術学会東北部会	評議員 理事
吉野浩教	若手放射線生物学研究会	運営委員

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	International Symposium on the Natural Radiation Exposures and Low Dose Radiation Epidemiological Studies. *International Symposium on Natural Radiation Exposure and Low Dose Radiation Epidemiological Studies* (Hirosaki, Japan, Feb 29 – Mar 3, 2012).	組織 委員
細川洋一郎	第 56 回日本影響学会事務局 第 4 回緊急被ばく医療シンポジウム	プログラム 委員長 実行委員
真里谷　靖	第 23 回生体応答科学研究セミナー “コンパニオン診断と個別化医療”（講師：登勉教授、三重大学大学院医学系研究科長） 日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会事務局 日本放射線影響学会第 56 回青森大会	担当 プログラム 委員長 プログラム 委員
齋藤陽子	第 12 回国立大学診療放射線技師教育施設協議会	会長
細田正洋	日本放射線影響学会第 56 回青森大会実行委員会	委員
門前　暁	日本放射線影響学会第５６回大会準備委員会 （web サーバー、ホームページ運営担当）	委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	Radiation Emergency Medicine 放射線生物研究会 PLoS ONE Radiation Research Radiation Oncology Journal of Radiation Research	編集委員長 編集委員 査読 査読 査読 査読

Kouichi Nakagawa	1. Analytical Chemistry Insights 2. Dental Materials Journal 3. Journal of Oleo Science Spectroscopy, An International Journal Analytical Chemistry Insights WebmedCentral	論文審査 Editor Editorial Board Specialty Advisory Board
細川洋一郎	Radiation Emergency Medicine	編集委員
真里谷　靖	Radiation Emergency Medicine 日本臨床検査医学会・学術雑誌・臨床病理 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	編集委員、査読 査読 査読
齋藤陽子	Radiation　Emergency Medicine	査読
細田正洋	日本原子力学会 Journal of Radiological Protection 誌 Radiation Emergency Medicine 誌 Journal of Radiation Research 誌（1 編） Radiation Protection Dosimetry 誌（2 編）	査読委員 Guest Editor 編集委員および査読 査読 査読
吉野浩教	Radiation Protection Dosimetry 誌（1 篇）	査読

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	1.弘前大学総合文化祭「知の創造」（共催） 日時：平成 24 年 10 月 26 日（金）17 時 30 分～19 時 30 分 場所：弘前市立観光館 1 階 多目的ホール テーマ：環境と放射線。そして食の安全』 演題：「私たちの身の回りにある放射線って？ ―自然界にある放射線のはなし―」 演者：弘前大学大学院保健学研究科　助教　細田正洋先生 2.「放射線による人体への影響～基礎編～」 日時：平成 24 年 11 月 30 日（金）　18:00～19:30 場所：弘前文化センター　中会議室 演者:弘前大学被ばく医療総合研究所　教授　床次眞司先生	生体応答科学研究センター長
細川洋一郎	東北電力　女性のまなびや　結い学舎　放射線の ABC（八戸市）（むつ市） 東北電力　くらしえーるサロン　わたしたちの暮らしと放射線（盛岡市） 東北電力　暮らしのヒント、みつけた。Komachi café わたしたちの暮らしと放射線（秋田市）	講師 講師 講師

真里谷　靖	アップルウェーブりんご王国カレッジ “緩和医療としての放射線治療の重要性について”	講師
吉野浩教	市民公開講演会の開催 （平成 24 年 11 月 30 日(金）18：00～19：30) 弘前文化センター. 『放射線による人体への影響～基礎編～』 講師：弘前大学被ばく医療総合研究所 床次眞司教授	開催実行委員

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
細田正洋	独）放射線医学総合研究所放射線防護研究センター 規制科学研究プログラム自然放射線防護研究チーム 青森県原子力センター環境放射線調査研究検討会 青森県原子力施設環境放射線調査結果検討会	客員 研究員 委員 委員

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	平成 24 年度更新放射線取扱者再教育訓練講師（鹿児島大学，医学部鶴陵会館，平成 24 年 6 月 14 日）.	講師
真里谷 靖	・　放射線看護セミナー “緩和的治療としての放射線療法の実際” ・　メタストロン注説明会（日本化薬、弘前中央病院）	講師 講師
齋藤陽子	鳴海病院　院内勉強会 「緊急被ばく医療について」	講師
細田正洋	第 12 回弘前大学総合文化祭「知の創造」 市民公開講座「環境と放射線。そして食の安全」，2012 年 10 月 26 日，弘前市立観光館	講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
細川洋一郎	弘前大学教員免許状更新講習　放射線の基礎と放射線看護 青森県保険医協会主催研修会　最新歯科CTの進歩と放射線被曝 青森県看護協会研修　緊急被ばく医療における看護職の役割	講師 講師 講師
真里谷 靖	青森県立中央病院・腫瘍放射線科・放射線治療業務 青森市民病院・放射線科・放射線治療業務	非常勤医師
齋藤陽子	画像診断業務 ・財団法人　医療と育成のための清明会研究所 鳴海病院 ・財団法人　医療と育成のための清明会研究所 青森PET画像診断センター	非常勤医師 非常勤医師
廣田淳一	PET関連機器の性能評価 医用加速器に関する教育・指導	非常勤嘱託
久保田　護	社団法人慈育会福士病院	画像検査技術教員

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	韓国原子力医学院（KIRAMS）緊急被ばく医療センター（NREMC)と人材育成・研究における相互協力についての連携協定を締結	教授
真里谷　靖	スェーデン・ストックホルム大学放射線防護研究センターとの学術協力協定締結	実務担当
細田正洋	BilaTserkva National Agrarian University において福島原発事故における避難住民の内部被ばく線量評価に関する講演を行った。（2012年10月31日）	講師

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	・　甲状腺に関する記者会見（2012 年 7 月 12 日） ・　初期ヨウ素被ばくに関する記者会見（2013 年 1 月 9 日） ・　NHK スペシャル「空白の初期被ばく～消えたヨウ素 131 を追う～」（2013 年 1 月 12 日放送） ・　被ばく医療総合研究所に関する取材（2013 年 2 月 4 日）	取材対応
齋藤陽子	緊急被ばく医療　現職者講習 青森県総合防災訓練・国民保護訓練 青森県原子力防災訓練 福島県立医科大学　災害医療学習センター「よろず相談事業」	講義講師・演習指導 参加（ｻｰﾍﾞｲ） 参加（ｻｰﾍﾞｲ） 相談員
工藤幸清	進学相談会（帯広柏葉高校、帯広緑陽高校）	講師
細田正洋	・ NHK スペシャル「空白の初期被ばく～消えたヨウ素 131 を追う～」（2013 年 1 月 12 日放送） ・ 緊急被ばく医療現職者研修会での講義，演習「放射線の基礎」，「放射線の量と単位」 ・ 弘前大学進路相談会　青森県立三沢高等学校	取材対応 講師 講師
小山内　暢	弘前大学同窓会 弘前大学医学部保健学科同窓会 弘放会 弘前大学同窓会報編集委員	理事 会長 副会長 委員
吉野浩教	緊急被ばく医療現職者研修会での講義，演習「放射線の生物影響の基礎」，「演習 2　サーベイメータの取り扱い」	講師

生体機能科学分野

Department of Biomedical Sciences

１．教員

生体機能科学分野(人)

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
3	3	3	2	0

２．教育実績

1）21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
12 年度	松本光比古	教授	物理学の基礎Ⅰ(B)	30
	中村敏也	教授	化学の基礎Ⅰ(B)	14
	伊藤巧一	准教授	基礎ゼミナール 放射線防護の基礎 生物学の基礎Ⅰ(A)①	26 2 10
	武尾照子	准教授	生物学の基礎Ⅰ(A)	10
	石川　孝	講師	化学の基礎Ⅱ(D)① 化学の基礎Ⅱ(D)② スポーツ実技（卓球 B）	32 32 30
	野坂大喜	講師	情報Ⅰ⑰ 情報Ⅰ⑱	32 32
	七島直樹	講師	生物の基礎ⅡA 生物の科学・技術 (B)	10 10
	中野　学	助教	基礎ゼミナール 化学の基礎ⅠB 生物の科学・技術 B①	30 14 12

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
12 年度				

2）学部教育

(5) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	松本光比古	教授	人体機能学 人体機能学演習 作業療法機能学演習 研究方法論演習	1 1 3 3	30 30 30 6

12 年度	中村敏也	教授	栄養・代謝学（検査技術科学専攻） 栄養・代謝学（放射線技術科学専攻） 代謝機能検査化学演習 健康食品学 検査科学英語演習 臨床検査総合演習Ⅰ	1 2 2 3 3 4	32 16 14 10 8 4
	伊藤巧一	准教授	臨床免疫学 臨床免疫学演習 感染制御学 臨床検査総合演習Ⅰ	1 2 3 4	32 32 6 6
	武尾照子	准教授	臨床生理学 臨床生理学演習 臨床検査総合演習Ⅱ 健康食品学 健康食品法規	2 2 4 3 3	32 32 8 2 2
	石川　孝	講師	分子生物検査学 医療リスクマネジメント	3 3	6 2
	野坂大喜	講師	医用情報機器工学 検査機器総論 検査管理総論 臨床検査総合演習Ⅰ 臨床検査総合演習Ⅱ 臨床栄養学	2 2 2 4 4 2	32 32 16 2 2 12
	七島直樹	講師	臨床化学検査学 臨床検査科学総合演習Ⅰ 代謝機能検査化学演習 臨床栄養学	2 4 2 2	45 6 16 14
	中野　学	助教	健康食品管理	3	2

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	松本光比古	教授	人体機能学実習 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ	2 4 4	90 20 20
	中村敏也	教授	栄養・代謝学実習	2	45
	伊藤巧一	准教授	臨床免疫学実習	2	32
	武尾照子	准教授	臨床生理学実習	3	45
	石川　孝	講師	医用化学実験（検査） 医用化学実験（放射線） 分子生物学実験	1 1 3	45 45 18
	野坂大喜	講師	医用情報機器工学実習	3	48
	七島直樹	講師	臨床化学検査学実習	2	45
	千葉　満	講師	栄養・代謝学実習 臨床化学検査学実習 医用情報機器工学実習	2 2 3	45 45 45

12 年度	中野　学	助教	臨床免疫学実習 臨床血液学形態学実習 臨床血液検査学実習 寄生虫学実習	2 2 3 3	36 30 45 27

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
12 年度	伊藤巧一	准教授	3	20

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
12 年度	七島直樹	講師	2	生化学実習	30

3）卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
12 年度	0 名	松本光比古
	1 名	中村敏也
	2 名	伊藤巧一
	2 名	武尾照子
	2 名	石川　孝
	1 名	野坂大喜
	2 名	七島直樹
	3 名	千葉　満
	1 名	中野　学

4）大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	松本光比古	教授	神経情報学特論(M)	1	30
	中村敏也	教授	細胞生物化学(M) 機能酵素化学(M) 細胞分子生物化学特別研究(M) 生体機能科学特別研究(D)	1 1 2 3	30 15
12 年度	伊藤巧一	准教授	分子生化学(M) 国際医療保健学(M) 生体機能科学特講(D) 基礎細胞分子生物科学特論(M) 細胞分子生物科学特別演習(M)	1 1 1 1 1	10 8 10 10 10
	石川　孝	講師	機能酵素化学(M)	1	15
	野坂大喜	講師	細胞生物化学(M) 医療マネジメント（M）	1 1	32 16

12 年度	七島直樹	講師	分子生化学(M) 保健学研究セミナー(M)	1 1,2	10 4

(2)演習の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	中村敏也	教授	被ばく医療演習(M) 生体機能科学特講演習(D)	1 2	45 45
	武尾照子	准教授	細胞機能科学特別演習(M)	1	14

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
12 年度	中村敏也	教授	1. 細胞診標本における観察妨害物質の除去(M) 2. ヒアルロン酸合成酵素の機能調節に関与する翻訳後修飾の解析(D)
	武尾照子	准教授	骨導聴性定常反応測定時における不関電極装着部位の検討(M)

5）その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　称　等
12 年度	中村敏也	教授	FD 講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30)
	武尾照子	准教授	FD 講演会(H24.8.30) 保健学科 FD ミニフォーラム(H24.9.6)
	七島直樹	講師	英語論文の書き方 教育コンテンツとモバイル・ラーニングへの取り組み FD ミニフォーラム「公開授業のあり方について(公開授業検討会を含む) 大学教育研究フォーラム（京都大学）

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
12 年度	伊藤巧一	准教授	免疫学	北里大学医学部	2
	武尾照子	准教授	人体の構造と機能 I	秋田看護福祉大学	32
	石川　孝	講師	生体試料特殊検査演習	（被ばく医療プロフェッショナル育成計画）	8
	七島直樹	講師	生化学 生化学	弘前市医師会付属看護専門学校 国立弘前病院付属看護学校	20 30

３．　研究業績

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

A: 筆頭著者が当該分野の教員等の場合

1. Nozaka H, Miura T, Zheng Z: Multi-Layer Virtual Slide Scanning System with Multi-Focus Image Fusion for Cytopathology and Image Diagnosis. IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems, E96-D(4):856-863, 2013.
2. Nanashima N, Ito K, Ishikawa T, Nakano M, Nakamura T: Damage of hair follicle stem cells and alteration of keratin expression in external radiation-induced acute alopecia. Int J Mol Med 30: 579-584, 2012.
3. Chiba M, Asari S, Kimura M, Nakamura T: An efficient method for high-fidelity messenger RNA amplification from a small amount of total RNA. Biomed Rep, 1:105-110, 2013.
4. Chiba M, Miura T, Kasai K, Monzen S, Kashiwakura I, Yasue H, Nakamura T: Identification of up/down-regulated cis-natural antisense transcripts in the human B lymphoblastic cell line IM-9 by X-ray irradiation. Mol Med Rep, 5:1151-1157, 2012.
5. Chiba M, Yasue H, Ohkohchi N: Gene expression profiling of sense and antisense transcripts in liver regeneration by microarray analysis. Biomed Rep, 1: 383-388, 2013.
6. Chiba M, Asari S, Kimura M, Nakamura T: An efficient method for high-fidelity messenger RNA amplification from a small amount of total RNA. Biomed Rep, 1:105-110, 2013.
7. Chiba M, Kimura M, Asari S: Exosomes secreted from human colorectal cancer cell lines contain mRNAs, microRNAs and natural antisense RNAs, that can transfer into the human hepatoma HepG2 and lung cancer A549 cell line. Oncol Rep, 28: 1551-1558, 2012.
8. Chiba M: Radiation-responsive transcriptome analysis in human lymphoid cells. Radiat Prot Dosimetry, 152: 164-167, 2012.
9. Chiba M, Miura T, Kasai K, Monzen S, Kashiwakura I, Yasue H, Nakamura T: Identification of up/down-regulated cis-natural antisense transcripts in the human B lymphoblastic cell line IM-9 by X-ray irradiation. Mol Med Rep, 5:1151-1157, 2012.

B: 筆頭著者が当該研究科・他分野の教員等の場合

1. Sato H, Wakayama A, Ito K, Ito K: Recipient-transferred allogeneic umbilical cord blood cells reconstitute the hematopoietic system and immunological functions in a murine model. The Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, 61-64, 2012.
2. Nakano A, Sato H, Ito K, Ito K: Double unit umbilical cord blood transplantation induces MHC-matched single unit dominance with development of immunocompetent lymphocytes in recipients. The Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, 65-69, 2012.
3. Tanaka K, Suto S, Kuroda Y, Ishikawa T, Nakano K, Chiba M, Nanashima N, Nakano M, Ito K, Nakamura T: Effect of X-ray irradiation on extracellular matrix components of rat osteoblasts and femurs. Radiat Emerg Med, 2: 43-49, 2012.
4. Kuroda Y, Kasai K, Nanashima N, Nozaka H, Nakano M, Chiba M, Yoneda M, Nakamura T: 4-Methylumbelliferone inhibits the phosphorylation of hyaluronan synthase 2 by 12-*O*-tetradecanoyl-phorbol-13-acetate. Biomed Res, 34: 97-103, 2013.

C: 筆頭著者が他研究科または他研究機関の教員等の場合

1. Kakizaki I, Suto S, Tatara Y, Nakamura T, Endo M: Hyaluronan-chondroitin hybrid

oligosaccharides as new life science research tools. Bochem Biophys Res Commun, 423: 344-349, 2012.

2.Harada N, Ito K, Hosoya T, Mimura J, Maruyama A, Noguchi N, Yagami K, Morito N, Takahashi S, Maher JM, Yamamoto M, Ito K: Nrf 2 in bone marrow-derived cells positively contributes to the advanced stage of atherosclerotic plaque formation. Free Radic Biol Med, 53: 2256-2262, 2012.

3.Fukuyama A, Tanaka K, Kakizaki I, Kasai K, Chiba M, Nakamura T, Mizunuma H: Anti-inflammatory effect of proteoglycan and progesterone on human uterine cervical fibroblasts. Life Sci, 90: 484-488. 2012.

4. Mistry BV, Zhao Y, Chang TC, Yasue H, Chiba M, Oatley J, Diaz F, Liu WS: Differential expression of PRAMEL1, a cancer/testis antigen, during spermatogenesis in the mouse. PLOS ONE, 8: e60611, 2013.

5. Nagai K, Kohno K, Chiba M, Pak S, Murata S, Fukunaga K, Kobayashi A, Yasue H, Ohkohchi N: Different expression profiles of sense and antisense transcripts between HCV-associated hepatocellular carcinoma and corresponding non-cancerous liver tissue. Int J Oncol, 40: 1813-1820, 2012.

6. Fukuyama A, Tanaka K, Kakizaki I, Kasai K, Chiba M, Nakamura T, Mizunuma H: Anti-inflammatory effect of proteoglycan and progesterone on human uterine cervical fibroblasts. Life Sci, 90: 484-488, 2012.

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 野坂大喜, 遠藤健太郎, 尾﨑恵理香, 藤岡美幸. 市販アイスクリーム類における食品衛生調査. 保健科学研究,3: 141-146, 2012.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 菅井 有, 幅野 渉, 吉田雅一, 杉本 亮, 野坂大喜, 石田和之, 山野泰穂, 山本英一郎, 鈴木 拓, 大塚幸喜, 若林 剛, 鈴木一幸. 【右側大腸腫瘍の臨床病理学的特徴】 発生部位に基づいた大腸癌の分子解析と背景粘膜の DNA メチル化異常. 胃と腸,47(13):1935-1946,2012.

2）総説

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

3）著書
英文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

和文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

4）その他
英文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

和文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

Ⅱ．学会、研究会等の発表

1）国際学術集会

A.特別（招待）講演
なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演
なし

C.一般演題（ポスター発表を含む）

1. H. Sato, A. Wakayama, K. Ito, K. Ito. Recipient-transferred allogeneic umbilical cord blood cells reconstitute the hematopoietic system and immunological functions in a murine model. 第4回緊急被ばく医療国際シンポジウム. 弘前大学創立 50 周年記念会館, 2012 年 9 月 30 日
2. A. Nakano, H. Sato, K. Ito, K. Ito. Double unit umbilical cord blood transplantation induces MHC-matched single unit dominance with development of immunocompetent lymphocytes in recipients. 第 4 回緊急被ばく医療国際シンポジウム. 弘前大学創立 50 周年記念会館, 2012 年 9 月 30 日
3. H. Sato, A. Wakayama, K. Ito, I.Kashiwakura and K. Ito. Functional adaptive immune responses in hematopoietic chimeric mice after umbilical cord blood cell transplantation. 54th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition, Atlanta, USA, December 8-11 2012.
4. K. Ito, A. Nakano, K. Ito, I. Kashiwakura and H. Sato. Double-unit umbilical cord blood transplantation induces MHC-matched Single-unit dominance with development of immunocompetent lymphocytes in recipient mice. 54th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition, Atlanta, USA, December 8-11 2012.
5. H. Nozaka, A. Mayama, H. Takami, K. Takahashi, Y. Konishi, Y. Mue, M. Suzuki, N. Uesugi, K. Ishida, T. Sugai. CDKN1A, 1B, 2A, TP53 mRNA and miR-34a, 192, 215, 221 expression of crypts and stroma in human colorectal cancer. USCAP2013. Baltimore. 2013.
6. Shimogiri T, Shibata K, Chiba M, Yamamoto S, Mizuta K, Murata S, Nishibori M, Kawabe K, Okamoto S, and Yasue H. *ASL2* sense/antisense expression in the chicken testis and their relationship to ASL activity and testes weight. 33th International Society for Animal Genetics, July 15-20, 2012, Cairns, Australia, P2052.

2）全国学術集会

A．特別（招待）講演
なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演
なし

C．一般演題（ポスター発表を含む）・・・・8 件

Ⅲ．学術賞
なし

Ⅳ．共同研究

1. 野坂大喜
   UNIC TECHNOLOGIES, INC.
   血液病理画像に関する医療画像解析システムの研究開発
2. 野坂大喜

岩手県立釜石病院
緊急災害時における情報通信ネットワークの構築と運用に関する研究

3. 野坂大喜
岩手県立千厩病院
緊急災害時における情報通信ネットワークの構築と運用に関する研究

Ⅴ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1. 野坂大喜
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究課題名：コメディカル学生における協同学習とｅーラーニング併用型医学教育 プログラムの開発
配分額：900（千円）

他研究単位との研究分担者として

1. 伊藤巧一
研究種目：緊急被ばく医療支援人材育成及び体制の整備
研究課題名：緊急被ばく医療支援体制の整備
研究代表者名：柏倉幾郎
配分額：1,467（千円）

2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

1. 千葉　満
助成名：日本学術振興会 JSPS　平成 24 年度科学研究費補助金（若手研究（B））
研究課題名：「血清中エキソソーム内アンチセンス RNA による新たな大腸癌スクリーニング法の開発」
配分額：1,500（千円）（直接経費）

他研究単位との研究分担者として

なし

3）学内の研究助成

研究代表者として

1. 千葉　満
助成名：平成 24 年度弘前大学若手研究者支援事業 A 区分独創的個人研究支援
研究課題名：「体液中微量 RNA 増幅法の開発と被ばくバイオマーカー同定への応用」
配分額：425（千円）

2. 石川　孝
助成名：科研費獲得支援事業
研究課題名：「尿中プロテアーゼ活性を指標とした迅速な外部被ばく線量スクリーニング法の構築」
配分額：100（千円）

他研究単位との研究分担者として

1. 中村敏也，伊藤巧一，七島直樹，千葉　満，中野　学
助成名：平成 24 年度弘前大学機関研究
研究課題名：「東日本大震災対応放射線科学研究プログラム」
研究代表者名：柏倉幾郎

配分額： 7,000（千円）

2. 中村敏也, 伊藤巧一, 七島直樹, 千葉　満, 中野　学
助成名：平成 24 年度弘前大学機関研究
研究課題名：「東日本大震災対応放射線科学研究プログラム」
研究代表者名：柏倉幾郎
配分額： 250（千円）

4）民間の研究助成

研究代表者として

1. 野坂大喜
助成名： むつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援助成
研究課題名：ももの地域特産化に向けた機能性商品開発事業
配分額：1,250（千円）

2. 千葉　満
助成名：公益財団法人武田科学振興財団　2012 年度医学系研究奨励（臨床）
研究課題名：放射線被ばく線量評価に有用な血清・尿中エキソソーム内在性 non-coding RNA バイオマーカーの同定
配分額：3,000（千円）

他研究単位との研究分担者として

なし

VI. 研究に関する社会活動

1）国際交流、国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘、受け入れ状況

なし

c) 外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加（3 ヵ月未満）状況

ストックホルム大学（スウェーデン）アンジェイ・ヴォイチク教授（3 日間）

e) 外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

2）国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況
なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況
なし

Ⅶ. その他

1.特許取得

1) 4-アルキルウンベリフェロンの新規医薬用途（特願 2005-187157）（特開 2007-1955）
特許権者：国立大学法人弘前大学
発明者：中村敏也
特許登録　第 4997492 号　(登録日 2012 年 5 月 25 日)

2) サケ軟骨に含まれるプロテオグリカンの新規な薬理用途（特願 2007-90857）（特開 2008-247803）
特許権者：国立大学法人弘前大学
発明者：中村敏也、高垣啓一
特許登録　第 5194253 号　(登録日 2013 年 2 月 15 日)

3) スライド画像データ作成装置　（日本国特許 特許登録 5059816 号. 2012）
高松輝賢, 佐藤達資, 三浦富智, 野坂大喜, 安池秀且, 三浦宏美, チョンシーチェン

4) アブラツノザメ頭部軟骨由来の骨リモデリング改善剤、骨形成促進剤、骨形成促進食品および骨粗鬆症予防食品（日本国特許 特願 2012-126836. 2012）
野坂大喜, 田向常城.

2. 伊藤巧一. 放射線被ばく医療における臍帯血移植の役割と今後の課題. 第 12 回弘前大学総合文化祭「知の創造」, ポスター展「弘前大学大学院保健学研究科の緊急被ばく医療に対する取り組みの紹介」, 2012 年 10 月 26 日～28 日, 弘前大学総合教育棟.

3. 伊藤巧一. 同種異系（アロ）臍帯血移植による免疫系再構築に関する研究. 緊急被ばく医療支援人材育成及び体制の整備・平成 23 年度年度末評価報告会, 2012 年 12 月 7 日, 弘前大学大学院保健学研究科大会議室.

4. 伊藤巧一. 混合臍帯血移植による造血機能回復の特性とその制御機構の解明. 緊急被ばく医療支援人材育成及び体制の整備・平成 23 年度年度末評価報告会, 2012 年 12 月 7 日, 弘前大学大学院保健学研究科大会議室.

5. 伊藤巧一, 工藤藤美, 伊藤京子, 中野　学. ヌクレオチドによる新たな好中球の機能制御に関する研究. 第 6 回弘前大学大学院保健学研究科研究発表会, 2013 年 2 月 21 日, 弘前大学大学院保健学研究科総合研究棟.

４．社会貢献活動の実施状況

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	日本生化学会 日本結合組織会	評議員 評議員

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	第４回緊急被ばく医療国際シンポジウム	実行委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	1.Radiation Emergency Medicine 2.Radiation Emergency Medicine 3.BMC Complementary and Alternative Medicine	編集委員 査読 査読
伊藤巧一	Radiation Emergency Medicine	査読
千葉　満	1.Radiation Protection Dosimetry, 2 件 2.HOAJ Biology, 1 件 3.BMC Cancer, 1 件 4.International Journal of Medical Sciences, 1 件	査読 査読 査読 査読

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	青森県産業技術センター弘前地域研究所バイオテクノロジー部ライフサイエンス分科会	分科会メンバー

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	1.４－アルキルウンベリフェロンの新規医薬用途 （特願 2005-187157）（特開 2007-1955） 特許権者　：　国立大学法人弘前大学 発明者　：　中村敏也 特許登録　第 4997492 号　(登録日 2012 年 5 月 25 日) 2.サケ軟骨に含まれるプロテオグリカンの新規な薬理用途 （特願 2007-90857）（特開 2008-247803） 特許権者　：　国立大学法人弘前大学 発明者　：　中村敏也、高垣啓一 特許登録　第 5194253 号　(登録日 2013 年 2 月 15 日)	発明者 発明者
野坂大喜	1.スライド画像データ作成装置. 日本国特許 特許登録5059816号. 2012. 2.顕微鏡装置. 日本国特許 特許登録4995656 号. 2012. 3.アブラツノザメ頭部軟骨由来の骨リモデリング改善剤、骨形成促進剤、骨形成促進食品および骨粗鬆症予防食品. 日本国特許 特願 2012-126836. 2012.	講師 講師 講師

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	1.文部科学省地域イノベーションクラスタープログラム（都市エリア）「プロテオグリカンをコアとした津軽ヘルス＆ビューティー産業クラスターの創生」 2.株式会社クラーロ	研究員 医学技術指導顧問
石川　孝	株式会社クラーロ	医学技術指導顧問
野坂大喜	弘前市、平川市、JA 津軽みらいとの 6 次産業化事業に支援機関として参画し、桃の事業化に向けた試作品開発を行った。	

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	1.「プロテオグリカン」2nd カンファレンス 平成 24 年 7 月 26 日 三菱ビルコンファレンススクエア M+ 2.文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム（都市エリア型）【弘前エリア】「プロテオグリカンをコアとした津軽ヘルス＆ビューティー産業クラスターの創生」研究成果発表会 2013 年 2 月 19 日，ベストウェスタンホテルニューシティ弘前	講演者 発表者
野坂大喜	1.国立病院機構北海道東北ブロック 診療放射線技師研修会 2.岩手県立千厩病院　院内研修会	講師 講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
武尾照子	弘前大学進学相談会(盛岡)	講師
石川　孝	弘前大学進学相談会(黒石高校)	講師

病態解析科学分野

Department of Pathologic Analysis

１．教員

病態解析科学分野(人)

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
3	3	0	5	0

２．教育実績

1）21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
12 年度	千葉正司	教授	基礎ゼミナール 運動とリハビリテーション（F） 生物学の基礎Ⅰ(A)	8 32 12
	高見秀樹	教授	最新医学の現状	
	大友良光	准教授	バイオハザード対策 最新医学の現状（L）	15 6
	三浦富智	准教授	生物学の基礎ⅡD（R） 生物学の基礎ⅡD（T）	20 20
	藤岡美幸	助教	バイオハザード対策 最新医学の現状 基礎ゼミナール	16 6 30
	阿部由紀子	助教	生物学の基礎Ⅰ(B)	6
	葛西宏介	助教	生物学の基礎ⅡA 生物学の基礎ⅡD（T） 生物学の基礎ⅡD（R）	10 10 10

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
12 年度				

2）学部教育

(6) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	千葉正司	教授	人体形態学(PT/OT) 人体形態学演習(PT/OT) 人体機能学演習(R) R 総合演習Ⅴ	1 1 1 4	32 32 32 8
	高見秀樹	教授	臨床血液学 臨床血液検査学 臨床検査総合演習Ⅰ	2 2 4	32 32 6

	渡邉　純	教授	人体病理学 病理組織細胞検査学 臨床検査総合演習 I 細胞診断学講義 I 細胞診断学講義 II 細胞診断学講義 III 細胞診断学演習 I 細胞診断学演習 II 細胞診断学演習 III	1(他専攻) 2 4 1 2 2 2 3 3	32 32 6 64 64 64 64 64 64
	大友良光	准教授	微生物学総論 ウイルス学 リスクマネジメント 臨床微生物検査学 感染制御学 微生物学 臨床検査総合演習Ⅱ	2 2 3 2 3 1 4	30 15 2 30 6 30 6
	三浦富智	准教授	分子生物検査学	3	45
	鷲谷清忠	助教	細胞診断学演習Ⅱ 細胞診断学演習Ⅲ	3 3	22 26
	吉岡治彦	助教	細胞診断学演習Ⅱ 細胞診断学演習Ⅲ 病理組織細胞検査学講義 臨床検査総論演習Ⅱ	3 3 2 4	26 12 14 2
	葛西宏介	助教	分子生物検査学 検査科学英語	3 3	10 8

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	千葉正司	教授	人体形態学実習(PT/OT) R 卒業研究	2 4	96 192
	高見秀樹	教授	臨床血液学形態学実習 臨床血液検査学実習	2 3	45 45
	渡邉　純	教授	人体病理学実習 病理組織細胞検査学実習 細胞診断学実習	2 3 4	48 48 310
	大友良光	准教授	微生物学実習 臨床微生物検査学実習	2 2	45 45
	三浦富智	准教授	医用生物学実験（R） 医用生物学実験（T） 分子生物検査学実験	1 1 3	45 45 45
	鷲谷清忠	助教	病理組織細胞診検査学実習 人体病理学実習 細胞診断学実習	2 2 4	18 48 310

	吉岡治彦	助教	細胞診断学実習 細胞診断学臨床実習 人体病理学実習 病理組織細胞検査学実習	3 4 2 3	20 310 48 15
	藤岡美幸	助教	微生物学実習 臨床微生物学実習 臨床血液検査学実習 臨床生理学実習	2 2 3 3	45 45 45 45
	阿部由紀子	助教	医用化学実験 尿検査学実習 衛生学・公衆衛生学実習	1 2 3	90 45 45
	葛西宏介	助教	医用生物学実習（T） 医用生物学実験（R） 分子生物学実験	1 1 3	160 160 160

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
12 年度	高見秀樹	教授	4	血液学	12

3）卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
12 年度	4 名	千葉正司
	２名	高見秀樹
	２名	渡邉　純
	2 名	大友良光
	2 名	三浦富智
	2 名	鷲谷清忠
	2 名	吉岡治彦
	1 名	藤岡美幸
	1 名	阿部由紀子
	1 名	葛西宏介

4）大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	千葉正司	教授	インタープロフェッショナルワーク論(D)	1	30

12 年度	高見秀樹	教授	臨床血液学特論（M） 教育・研究者育成コースワーク（D）	1,2 1,2	30 6
	渡邉　純	教授	腫瘍細胞学特論（M） 教育・研究者育成コース（D）	1,2 1,2	30 4
	大友良光	准教授	感染防御免疫学特論（M） 医療マネジメント（M） 国際保健医療学（M）	1 1 1	14 6 8
	三浦富智	准教授	基礎細胞分子生物化学特論（M）	1	20
	鷲谷清忠	助教	人体腫瘍学特論（M）	1,2	6
	藤岡美幸	助教	保健学連携セミナー(M)	1	30

(2)演習の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
12 年度	千葉正司	教授	病態解析科学特別研究(D)	3	300
	高見秀樹	教授	病態解析学特別演習（M）	2	6
	大友良光	准教授	病態解析科学特別演習	1	30

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
12 年度	千葉正司	教授	肘窩の静脈穿刺部位における皮静脈と神経・動脈との局所解剖学的研究(D)
	大友良光	准教授	腸炎ビブリオの発育に関する各種無機塩の活性機構（M） 培養細胞を使用した病原性腸炎ビブリオの検出法について（M）

5）その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　　称　　等
12 年度	千葉正司	教授	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30) 大学院博士前期課程　国際医療保健学－病気の歴史－　伊藤巧一准教授
	高見秀樹	教授	FD シンポジウム
	吉岡治彦	助教	ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」(H24.8.30)
	藤岡美幸	助教	FD シンポジウム(H24.11.3) 平成 24 年度ＦＤミニフォーラム「公開授業のあり方について(公開授業検討会を含む)」(H24.9.6) ＦＤ講演会　第 1 回「英語論文の書き方」

12 年度	藤岡美幸	助教	(H24.8.30) ＦＤ講演会第 2 回「教育コンテンツとモバイルラーニングへの取り組み」(H24.10.25) H24 年度「公開授業・検討会」

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
12 年度	大友良光	非常勤講師	安全工学 微生物学 微生物学 微生物学	弘前市医師会看護専門学校 黒石厚生病院付属看護学校 青森県立保健大学	76 30 30
	三浦富智	准教授	染色体評価学 染色体評価学演習	被ばくプロフェッショナル 被ばくプロフェッショナル	4 21
	葛西宏介	助教	キャリア開発セミナー	農学生命科学研究科	2

３．　研究業績

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Yoshimitsu Otomo, Farzana Hossain, Fazle Rabbi, Yuki Yakuwa, Chowdhury Rafiqul Ahsan: Pre-enrichment of estuarine and fresh water environmental samples with sodium chloride yields in better recovery of *Vibrio parahaemolyticus*. Advances in Microbiology, 3 ,21-25, 2013.
2. Washiya, K., Takamizu, R., Kumagai, Y., Himeji ,Y., Kobayashi,T., Iwai, M., Watanabe, J. World Wide Web-Based Cytological Analysis of Atypical Squamous Cells Cannot Exclude High-Grade Intraepithelial Lesions. Acta Cytol. , 56:47-54, 2012.
3. Washiya, K., Noro, T., Narumi, K., Yoshioka, H., Kurose, A., Watanabe, J. Usefulness of discriminant analysis using nuclear 3 dimensional analysis in atypical cells prepared from bronchial brushing cytology cases that are cytologically challenging. Acta Cytol., 56: 297-303, 2012.
4. Washiya, K., Narumi, K., Noro, T., Hamakawa, S., Furuta, N., Yoshioka, H., Watanabe, J. Discriminant analysis of malignant mesothelioma and reactive mesothelium using three-dimensional nuclear estimation. Acta Cytol., 56:189-195, 2012.
5. Washiya, K., Sato, T., Miura, T., Tone, K., Kojima, K., Kijima, K., Watanabe, J. Differential diagnosis between well-differentiated adenocarcinoma and benign cells of the lung through analysis of nuclear luminance histograms. J. Health Sci. Res., 2:137-145, 2012.
6. Miyuki Fujioka, Yoshimitsu Otomo, Chowdhury Rafiqul Ahsan: A novel single-step multiplex polymerase chain reaction assay for the detection of diarrheagenic *Escherichia coli*. J. Microbiological Methods, 92, 289-292, 2013.
7. Abe Y, Hu D-L, Omoe K, Fukuda I, Nakane A: Comparative prevalence of antibioticresistance, staphylococcal cassette chromosome mec and superantigenic toxin genes in coagulase-negative staphylococci. Hirosaki Medical Journal, **63**: 143-153,　2012.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. Mikuni Y, Chiba S, Tonosaki Y. Topographical anatomy of the superficial veins, cutaneous nerves, and arteries at venipuncture sites in the cubital fossa. Anat Sci Int, 88. 46-57, 2013.
2. M. Chiba, T. Miura, K. Kasai, S. Monzen, I. Kashiwakura, H. Yasue, T. Nakamura. Identification of up-regulated and down-regulated cis-natural antisense transcripts in the human B lymphoblastic cell line IM-9 after X-ray irradiation. *Mol Med Rep.* 5(5): 1151-1157, 2012.
3. Satoh K, Yamakawa D, Kasai K, Hayakari M, Uchida K, Miura T. Nonclonal growth of preneoplastic cells positive for glutathione S-transferase P-form in the rat liver. Cancer Sci. 103(8):1445-1450, 2012.
4. A. Fukuyama, K. Tanaka, I. Kakizaki, K. Kasai, M. Chiba, T. Nakamura, H. Mizunuma. Anti-inflammatory effect of proteoglycan and progesterone on human uterine cervical fibroblasts. *Life Sci.* 90(13-14): 484-488, 2012.
5. Y. Kuroda, K. Kasai, N. Nanashima, H. Nozaka, M. Nakano, M. Chiba, M. Yoneda, T. Nakamura. 4-Methylumbelliferone inhibits the phosphorylation of hyaluronan synthase 2 by 12-*O*-tetradecanoyl-phorbol-13-acetate. *Biomed. Res*. 34(2): (2013)　in press

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Yukiko Hara-Kudo, Shihoko Saito, Kayoko Ohtsuka, Shogo Yamasaki, Shunsuke Yahiro, Tomohiro Nishio, Yoshito Iwade, Yoshimitsu Otomo, Hirotaka Konuma, Hiroyuki Tanaka, Hirosi Nakagawa, Kanji Sugiyama, Yoshiko Sugita-Konishi, and Susumu Kumagai: Characterstic of a sharp decrease in *Vibrio parahaemolyticus* iinfections and seafood contamination in Japan. Int. J. Food Microbiol. 157, 95-101, 2012.

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 大友良光、月足正辰: 散発下痢症患者から分離されたＴＤＨ産生性の新しいＯＫ血清型組み合わせＯ１１：Ｋ１５型腸炎ビブリオ. 感染症学雑誌, 87(1), 53-54, 2013.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

2）総説

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
1.山形和文,高見秀樹：ジヒドロ葉酸還元酵素欠損症.　血液症候群Ｉ，21:114-117, 2013.
2.山形和文,高見秀樹：葉酸欠乏性巨赤芽球性貧血.　血液症候群Ｉ，21:107-110, 2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

3）著書
英文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
1. 玉井佳子，　高見秀樹：血栓形成機序と薬物作用機序.　奥村謙編.　心房細動マネージメント．pp.183-191，メジカルビュー社，東京，2012

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

和文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

4）その他
英文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

和文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
1.千葉正司（編）．第 8 回 人体形態学実習における解剖所見の発表会．総頁 103 頁，弘前大学医学部保健学科，2012.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
1.工藤紫織，金澤裕哉，中村優平，福島秀治，千葉正司．ヒト大脳動脈輪の形態と動脈瘤・動脈硬化の出現について．形態科学，16．17-25，2013.

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

Ⅱ．学会、研究会等の発表

1）国際学術集会
Ａ.特別（招待）講演
なし

Ｂ．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演
なし

Ｃ.一般演題（ポスター発表を含む）

1. Chiba S, Morphological study of the digestive, nervous and sensory organs, bone marrow, and lymph node in X-irradiation mice. The 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, Hirosaki, 2012
2. Chiba S, Higuchi Y, Nakai Y, Higashidate I, Sato H, Fukushima S, Nakamura Y, Itoh Ko, Itoh Ky, Nakano M, Yoshioka H. Morphological study of the digestive, nervous and sensory organs, bone marrow, and lymph node in X-irradiation mice. The Proceedings of the 4th International Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University, 81-87, 2013.
3. Fazle Rabbi, Mahmuda Yasmin, Jamalun Nessa, Yoshimitsu Otomo, and Chowdhury R. Ahsan: Evaluation of virulence potentials of local bovine *Escherichia coli* O157:H7 isolates for causing outbreaks in Bangladesh. 1st AFSA Conferences on Food Safety and Food Security.（2012.9.15-17, Osaka）
4. Miura T, Nakata A, Kasai K, Tsushima E, Ossetrova NI, Yoshida MA, Blakely WF. A Novel Parameter, Cell-cycle Progression Index, for Radiation Dose Absorbed Estimation in the Premature Chromosome Condensation Assay. EPRBioDose2013, 3/24-28 、2013(Leiden/Netherlands)
5. A. Nakata, T. Miura, K. Kasai, Y. Fujishima, R. Ujiie, K. Tanaka, and M. A. Yoshida. Chromosome analysis of peripheral lymphocyte from the persons worked in the Fukushima Dai-Ichi Nuclear Power Station after the accident. *EPR-BioDose2013*, March 24-28, 2013, Leiden, The Netherlands
6. Nakata A, Ichikawa H, Kasai K, Miura M, Yoshida MA. Comparison of the protein phosphatase inhibitors (okadaic acid and calyculin A) in premature chromosome condensation (PCC)-ring method for biodosimetry of accidental high dose exposure. EPRBioDose2013, 3/24-28、2013(Leiden/Netherlands)

2）全国学術集会
Ａ．特別（招待）講演

1.鷲谷清忠、要望講演「鑑別困難な悪性腫瘍における核の立体的輝度解析の有用性」、第53回日本臨床細胞学会総会、2012年 6月 1日-3日、幕張メッセ国際会議場、千葉市、P119.
2.鷲谷清忠、要望講演　「核の立体的輝度解析による悪性中皮腫と反応性中皮細胞の判別分析」、第63回細胞検査士教育セミナー、2012年 8月25日-26日、日本教育会館、東京.
3.鷲谷清忠、要望講演　「核の立体的輝度解析による悪性中皮腫と反応性中皮細胞の判別分析」、第63回細胞検査士教育セミナー、2012年 9月1日- 2日、松下IMPホール、大阪市

Ｂ．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1.鷲谷清忠、吉岡治彦、渡邉　純. ワークショップ　「バーチャルスライドを活用した精度管理・教育への取り組みと細胞解析」、第 51 回日本臨床細胞学会秋期大会、2012 年 11 月 9 日-10 日、新潟コンベンションセンター、新潟市、P599.

C．一般演題（ポスター発表を含む）　　9 件

Ⅲ．学術賞

1. Miura T.: Poster Prize: EPRBioDose2013, 3/24-28、2013(Leiden/Netherlands)

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1. 高見秀樹

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：新規抗 GPIb 抗体（HU-12）の活性化血小板マーカーとしての有用性に関する研究

配分額：1,020　　（千円）

2. 大友良光

研究種目：　平成 24 年度科学研究費助成事業（基盤研究（B））

研究課題名：バングラデシュのダッカ近郊の淡水域における病原性腸炎ビブリオの生態学的研究

配分額：　2,340（千円）

3.三浦富智

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：採血時間に依存しない高速性・安定性を備えた被ばく線量評価バイオマーカー

配分額：700（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.三浦富智

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：リンゴ果実プロシアニジン類の動脈硬化予防とその作用機構の解明

研究代表者名：庄司俊彦

配分額：350（千円）

2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

1.三浦富智

助成名：A-STEP 探索タイプ（JST）

研究課題名：部分照射モデルにおける新規細胞遺伝学的線量評価指標の有用性

配分額：500（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.三浦富智

助成名：委託プロジェクト「農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発」（農林水産省）

研究課題名：タンニン類に着目したリンゴ・茶の生体調節機能の医学的検証と高含有品種育成など活用に関する研究開発
研究代表者名：山本（前田）真理
配分額：3,000（千円）

3）学内の研究助成
研究代表者として
1.千葉正司
助成名：大学院保健学研究科　緊急被ばく医療人材育成プロジェクト
研究課題名：放射線照射が及ぼす各種臓器への傷害作用、特に皮膚と骨髄などへの影響
配分額：　1,025（千円
2. 大友良光
助成名：平成 24 年度科研費獲得向上対策費に係るインセンティブ経費
研究課題名：全般
配分額：　30（千円）
3.三浦富智
助成名：助成名：緊急被ばく医療人材育成プロジェクト
研究課題名:「部分照射モデルにおける新規細胞遺伝学的線量評価指標の有用性評価」、「化学誘導未成熟染色体凝縮法における不完全構築染色体形成メカニズムの解明」
配分額：942（千円）
4.葛西宏介
助成名：科研費獲得支援事業
研究課題名：新規Ｌ－アミノ酸オキシダーゼの抗菌・細菌結合とウイルス粒子破壊メカニズムの解明
配分額：150（千円）

他研究単位との研究分担者として
1. 渡邉　純、三浦富智、葛西宏介
助成名：機関研究
研究課題名：東日本大震災対応放射線科学研究プログラム
研究代表者名：柏倉幾朗
配分額：7,000（千円）

4）民間の研究助成
研究代表者として
なし

他研究単位との研究分担者として
なし

VI. 研究に関する社会活動
1）国際交流、国際的活動
a) 国際学術集会の主催
なし

b) 外国人研究者の招聘、受け入れ状況
なし

c) 外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況
なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加（3 ヵ月未満）状況
なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況
なし

f) その他
１．大友良光：ベトナムのフエ大学に赴き（H25.02.18-23））H25 年度研究予定の「淡水域における腸炎ビブリオの生態研究」の打合せを実施した。

2）国内、地域活動
a) 全国レベルの学会の主催
なし

b) 地方レベルの学会の主催
なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況
なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況
なし

Ⅶ. その他

４．社会貢献活動の実施状況

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
千葉正司	日本解剖学会	学術評議員
高見秀樹	日本血液学会 日本血栓止血学会 日本血液学会東北地方会 東北止血・血栓研究会 弘前大学医師会	代議員 評議員 世話人 世話人 理事
渡邉　純	日本病理学会 日本臨床細胞学会 日本婦人科腫瘍学会	評議員 評議員 評議員
大友良光	日本食品微生物学会 東北食中毒研究会 日本細菌学会東北支部会	評議員 幹事 地方委員

鷲谷清忠	日本細胞診断学推進協会理事会 細胞検査士会 細胞検査士会　情報委員会 日本臨床細胞学会施設認定制度委員会 医療関連画像精度管理委員会 （IHE-J　経済産業省諮問委員会） 医療関連サービスマーク制度調査指導委員会	幹事 役員 委員長 委員 委員 委員
吉岡治彦	日本臨床細胞学会青森県支部	役員

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
千葉正司	Anatomical Science Internatinal	査読
高見秀樹	International Journal of Hematology	査読委員
渡邉　純	日本臨床細胞学会雑誌 日本婦人科腫瘍学会雑誌	査読委員 編集委員
大友良光	日本食品微生物学会雑誌 日本食品衛生学会雑誌 The Journal of Veterinary Medical Science	副査 副査 副査
三浦富智	REM 編集委員	編集委員

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
千葉正司	第 35 回弘前大学白菊会総会に協力 第 7 回人体標本の見学・研修会の開催 第 12 回弘前大学総合文化祭に写真展示 第 12 回弘前大学総合文化祭でポスター展「弘前大学大学院保健学研究科の緊急被ばく医療に対する取り組みの紹介」を開催 保健学研究科の市民公開講座「環境と放射線。そして食の安全」の開催に協力	
吉岡治彦	FM アップルウェーブ「りんご王国こうぎょくカレッジ」出演　8 月 5 日、12 日（再放送）	助教

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
千葉正司	第 11 期あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験委員	国家試験委員

高見秀樹	厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業評価小委員会 青森県エイズ対策推進会議 青森県診療報酬審査委員会	委員 委員 委員
大友良光	平成 24 年度青森県食品衛生監視指導計画に関する検討委員会	委員長

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職
大友良光	ソバモヤシ製品からの除菌法検討 肝癌患者糞便からの *Nitrobacter* 検出	

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
高見秀樹	弘前大学医学部附属病院 大鰐町立病院	非常勤医師 非常勤医師
渡邉　純	弘前大学医学部附属病院 弘前市立病院 五所川原市立西北中央病院 青森厚生病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師
吉岡治彦	弘前市立病院　非常勤技師	助教

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職
大友良光	日本適合性認定協会の ISO 認定審査	技術審査員
鷲谷清忠	３回細胞診コントロールサーベイ（青森県日臨技会病理細胞診部門）	委員

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
三浦富智	浪江町避難住民初期被ばく検査（染色体転座検査）	検査員
葛西宏介	浪江復興支援ワーキンググループ	委員

管理運営活動

【全学関係委員会】

委員会名	委員名
教育研究評議会	對馬　均、木田和幸
運営会議	對馬　均
企画委員会	渡邊　純
総務委員会	石川　玲
教育委員会	一戸とも子
研究委員会	柏倉幾郎
社会連携委員会	千葉正司
総合情報処理ｾﾝﾀｰ運営委員会	野坂大喜
ネットワーク技術専門委員会委員	野坂大喜
生涯学習教育研究センター運営委員会	木立るり子
地域共同研究センター運営委員会	米内山千賀子
国際交流センター運営委員会	小山内隆生
保健管理センター運営委員会	鈴木光子
２１世紀教育センター運営委員会	若山佐一、對馬栄輝、川崎くみ子
ｱｲｿﾄｰﾌﾟ総合実験室運営委員会	樽澤孝悦
機器分析センター運営委員会	細川洋一郎
附属図書館運営委員会	野戸結花
情報公開・個人情報保護委員会	武尾照子
ハラスメント防止等対策委員会	一戸とも子
ハラスメント相談員	佐藤真由美、平川裕一
入学試験委員会	對馬　均、木田和幸
動物実験委員会（動物実験）	伊藤巧一
動物実験委員会(実験動物)	三浦　富智
バイオセーフティ委員会	大友良光
放射線安全管理委員会	對馬　均
エネルギー教育推進委員会	工藤幸清
サテライト運営委員会	上谷英史
知的財産審議会	加藤拓彦
総合文化祭実施委員会	一戸とも子
化学物質等管理委員会	石川　孝
出版会運営委員会	尾田　敦
出版会編集員	尾田　敦、大友良光
情報セキュリティ委員会	對馬　均
セキュリティ対策専門委員会	廣田淳一
評価室	北宮千秋、三浦富智
学生総合相談室	工藤せい子、和田一丸
被ばく医療総合研究所兼任教員	柏倉幾郎
就職支援センター兼任教員	加藤拓彦
地域共同研究センター兼任教員	米内山千賀子、三浦富智、野坂大喜
環境報告書作成委員会	渡邊　純
全学教員養成担当実施委員会	小倉能理子
芸術祭実行委員会	三崎直子
附属図書館図書選定委員会	西村美八

医用システム開発マイスター養成塾運営委員会	野坂大喜
教員免許状更新講習支援室運営委員会	一 戸とも子
教員免許状更新講習支援室教科グループ代表	西沢義子
教科ワーキンググループ	西沢義子
教科ワーキンググループ	小倉能理子
男女共同参画推進室	井瀧千恵子
白神自然観察園運営委員会	冨澤登志子
弘前大学後援会	木立るり子
附属病院医薬品等臨床研究審査委員会	川崎くみ子
ＧＰの採択獲得のための方策を検討するＷＧ	若山佐一
秋季入学に関するワーキンググループ	木田和幸
資料館（仮称）設置準備委員会	五十嵐世津子
学生『言語力』大賞コンテスト審査委員会	野戸結花
緊急教育推進会議	石川　　玲
研究戦略企画会議	小山内隆生
つがルネッサンス！地域でつなぐ女性人材タスクチーム	大津美香
新エネルギー関連大学院博士課程設置検討委員会	細川洋一郎
「医工連携による健康科学教育プログラムの開発」事業 健康科学教育プログラム策定委員会	若山佐一 野坂大喜

【本町地区共通委員会】

委員会名	委員名
学科間連絡会	對馬　均、木田和幸
医学研究科附属動物実験施設運営委員会	中村敏也、千葉正司
附属図書館医学部分館運営委員会	阿部由紀子、野戸結花、成田大一
医学研究科環境整備委員会	古川照美、大津美香
医学研究科倫理委員会	若山佐一、木立るり子
医学研究科動物実験倫理委員会	伊藤巧一
医学部情報公開検討委員会	米坂　勧、山辺英彰
医学研究科等放射線安全管理委員会	齋藤陽子、中川公一
本町地区安全衛生委員会	山辺英彰
臨床研究に係る利益相反マネジメント委員会	千葉正司

【保健学研究科管理運営】

研究科長		對馬　　均
副研究科長		木田和幸
領域代表者	健康支援科学領域	山辺英彰
	医療生命科学領域	柏倉幾郎
副領域代表者	健康支援科学領域	野田美保子
	健康支援科学領域	石川　玲
	医療生命科学領域	中村敏也
	医療生命科学領域	高見秀樹

委員会名	委員名（◎委員長、〇副委員長）
領域代表者等連絡会議	◎對馬　均、〇木田和幸、山辺英彰、野田美保子、石川　玲、柏倉幾郎、中村敏也、高見秀樹、長谷川直生
博士前期課程学事委員会	◎中村敏也、〇工藤せい子、木立るり子、柏倉幾郎、細川洋一郎、伊藤巧一、對馬栄輝、加藤拓彦
博士後期課程学事委員会	◎中村敏也、〇工藤せい子、山辺英彰、對馬栄輝、柏倉幾郎、細川洋一郎、三浦富智
将来計画委員会	◎對馬　均、〇木田和幸、山辺英彰、野田美保子、石川　玲、柏倉幾郎、中村敏也、高見秀樹、西沢義子、若山佐一、加藤拓彦、樽澤孝悦、武尾照子、渡邉　純
自己評価委員会	◎木田和幸、〇木立るり子、中村敏也、一戸とも子、山辺英彰、古川照美、小枝周平、米坂　勧、加藤拓彦、中川公一、細田正洋、石川　孝、渡邊　純、大友良光、長谷川直生
予算委員会	◎對馬　均、〇木田和幸、山辺英彰、野田美保子、石川　玲、柏倉幾郎、中村敏也、高見秀樹、冨澤登志子、鈴木光子、和田一丸、祐川幸一、七島直樹、渡邉　純
建築委員会	◎木田和幸、山辺英彰、柏倉幾郎、中村敏也、佐藤真由美、赤池あらた、若山佐一、上谷英史、川崎くみ子、田中　真、中原岳久、門前　暁、中村光男、稲葉孝志、吉岡治彦
ネットワークシステム管理委員会	◎野坂大喜、平川裕一、對馬栄輝、川添郁夫、廣田淳一、鷲谷清忠、門前　暁、中村敏也
広報委員会	◎門前　暁、工藤うみ、小枝周平、牧野美里、千葉　満、吉岡治彦
保健科学研究編集委員会	◎吉田英樹、上谷英史、五十嵐世津子、對馬　惠、松本光比古、葛西宏介
国際交流委員会	◎小山内隆生、漆坂真弓、大津美香、中川公一、中野京子、藤岡美幸、中村敏也
放射線管理委員会	◎中川公一、小倉能理子、井瀧千恵子、中原岳久、細田正洋、門前　暁、小山内　暢、長谷川直生
図書委員会	◎野戸結花、西村美八、成田大一、對馬　惠、松本光比古、阿部由紀子
情報セキュリティ委員会	◎對馬　均、廣田淳一、野坂大喜
FD 委員会	◎三崎直子、成田大一、田中　真、石戸俊雄、七島直樹、藤岡美幸、細川洋一郎、武尾照子
機器管理委員会	◎細川洋一郎、北島麻衣子、小枝周平、藤田俊文、門前　暁、中野　学、葛西宏介、中村敏也

博士前期課程入学試験委員会	◎對馬　均、中村敏也、工藤せい子、木立るり子、柏倉幾郎、細川洋一郎、伊藤巧一、對馬栄輝、加藤拓彦
博士後期課程入学試験委員会	◎對馬　均、中村敏也、山辺英彰、對馬栄輝、工藤せい子、柏倉幾郎、細川洋一郎、三浦富智
緊急被ばく医療検討委員会	◎對馬　均、○木田和幸、山辺英彰、柏倉幾郎、中村敏也、一戸とも子、西沢義子、若山佐一、細川洋一郎、井瀧千恵子、吉田光明、浅利　靖
（企画部門）	◎西沢義子、○山辺英彰、澄川幸志、木立るり子、野戸結花、小山内　暢、石川　孝、千葉正司、北宮千秋、成田大一
（教育部門）	◎中村敏也、○細川洋一郎、一戸とも子、小枝周平、井瀧千恵子、中野　学、大友良光、冨澤登志子
（研究部門）	◎柏倉幾郎、○若山佐一、山辺英彰、對馬栄輝、加藤拓彦、伊藤巧一、三浦富智
（社会連携部門）	◎木田和幸、○一戸とも子、古川照美、齋藤久美子、小山内隆生、齋藤陽子、野坂大喜、鷲谷清忠
研究発表会幹事	五十嵐世津子、高見彰淑
学園便り企画･編集協力教員	西村美八
組換えDNA実験安全主任者	伊藤巧一
緊急被ばく医療現職者研修実行委員会	冨澤登志子、漆坂真弓、北島麻衣子、北嶋　結、高間木静香、野戸結花、井瀧千恵子、則包和也、扇野綾子、横田ひろみ、西澤一治、細川洋一郎、齋藤陽子、細田正洋、門前暁、寺島真悟、吉野浩教、小山内　暢、中村敏也、中野　学、長谷川直生、嘉手苅広一郎、工藤聡子
緊急被ばく医療専門家委員会	◎桑原幹典、河内清光、片桐裕実、近藤　隆、明石真言、桑原幹典、太田勝正

【保健学科関係管理運営】

学科長		對馬　均
副学科長		木田和幸
専攻主任	看護	齋藤久美子
	放射線	齋藤陽子
	検査	高見秀樹
	理学	石川　玲
	作業	和田一丸

委員会名	委員名（◎委員長、○副委員長）
学務委員会	◎一戸とも子、〇五十嵐世津子、古川照美、祐川幸一、工藤幸清、武尾照子、石川　孝、對馬栄輝、吉田英樹、上谷英史、小山内隆生
入学試験委員会	◎對馬　均、〇木田和幸、齋藤久美子、米坂　勧、齋藤陽子、真里谷　靖、高見秀樹、石川　玲、若山佐一、和田一丸、野田美保子
就職支援委員会	◎加藤拓彦、佐藤真由美、三崎直子、細川洋一郎、中原岳久、武尾照子、葛西宏介、牧野美里、藤田俊文、小池祐士
臨地・臨床実習に関する合同検討会議	◎木田和幸、五十嵐世津子、鈴木光子、齋藤陽子、中野　学、吉田英樹、平川裕一

Ⅲ．平成 24 年度医学部保健学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士（ 看護学 ）： 88 名（ 看護学専攻)

氏　名	論文題目
五 十 嵐　　諒	基礎看護学実習Ⅱにおける看護学生の看護観の変化
伊藤　あゆ美	人見知り感と社会的スキル・生活経験との関連
江 畑　　祐 佳	中学生の睡眠と心身の健康との関連-帰宅後の過ごし方に焦点をあてて-
海 老 名　優 希	青森県の糖尿病医療資源の地理的分布と地域偏在に関する検討
及 川　　結 佳	長期入院している妊婦の入院環境への支援
大 館　　美 咲	自殺に対する大学生の意識と自殺念慮者への対応
小 笠 原　陽 子	大学生における競技ダンスによる身体活動が心理的側面に与える影響
葛 西　保 奈 実	女子大学生における子宮頸がんに関する意識調査と予防行動
門　脇　　唯 佐 藤　　花 織	親の養育態度が子どもの人格・性格形成に及ぼす影響についての研究
鎌 田　　璃 沙	看護師の職務満足度と患者満足度の関連
上 村　　知 里	大学生の死生観に関する調査－看護学生と人文学部学生の比較－
上 元　　達 仁	一般人のもつ男性看護師のイメージと“してもらいたくない”看護ケアについて～性差に焦点を当てて～
川 中　　メ グ	一般大学生における法改正後の「脳死」「臓器移植」に対する意識
北 沢　　健 太	男子看護学生の志望動機と入学後の意識の変化
京 谷　　尚 美 九 島　　千 瑛 齋 藤　　史 佳	健康習慣に関する記録行動が与える影響
工 藤　　由 乃	一般病棟におけるデスカンファレンスの必要性
久 保 田　千 鶴	療養環境における天井模様について ～3 種類のイメージ比較～
桑 田　　結 衣 深 津　　奏 瑛	電気毛布の強弱が生体に与える影響
齋 藤　　香 奈	訪問看護師が構築する終末期の在宅療養者やその家族との関係
阪 田　　亜 実	看護学生の喫煙イメージの調査-映画・ドラマ・バラエティー番組の影響-
佐 々 木　　彩	糖尿病、脂質異常症、高血圧と生活習慣の関連　-縦断調査から-
佐々木　綾 乃 鳥 越　　果 那	大学生の恋愛依存傾向と対人信頼感の男女差
佐々木　郁 実	臨地実習の有無における看護学生の生活習慣とその影響因子との関連
佐 々 木　　駿	大学生の飲酒に関する意識と飲酒状況
佐 々 木　　望	初回化学療法を受ける肺がん患者の心理的変化
佐 藤　　亜 衣	妊娠期の夫の役割意識
佐藤　いずみ	妊婦のボディイメージと食生活意識
佐 藤　　佳 奈	看護学生の看護職への志向を変化させた経験
佐 藤 可 奈 子	看護学生における乳がん自己検診の実施状況と情報源
佐　藤　　遥	第二子妊娠・出産に対する第一子の反応と母親の思い-4～9 歳の第

	一子をもつ母親を対象に-
佐藤　賀映	臨床実習前に危険予知トレーニングを行った学生の危険予測の学び
澤田　友美	働く母親の母乳育児を確立・継続するための社会的要因と今後の課題
芝井　早紀	大学生の栄養成分表示への関心と食生活・健康状態
嶋津　瞳	A 県の中年層が抱く高齢者イメージに関する研究
菅原　槙美	親の関わりと子の体型の関連
鈴木　芽衣	看護学生のレジリエンスとコーピングおよび対人依存欲求との関連
鈴木　理美	2 歳児の家庭環境と生活習慣の関連
須藤　早紀 天童　智也	病床環境を想定した騒音が生体に及ぼす影響
高渕　愛	救急領域におけるエンゼルケア家族参加の提案と看護師の思い
竹林　民子	訪問看護師と看護大学生が考える訪問看護に必要な能力の比較
舘　沙央里 長尾　いつ香	健康な女性に対するタクティール的ケアによる身体的・心理的影響
田中　麻美	看護学生の自己受容の実態
千田　菜未	障害児をもつ父親の受容過程
千葉　美侑	看護学生の性感染症に対する知識、危機感と予防行動との関連
継枝　美香 手代森　愛夏	積雪地域の育児におけるリスク防止の実態
戸堀　紗希	看護学生の育児支援制度の理解度と利用の可能性
中井　彩	喫煙者のカシス摂取による短期的影響に関する研究：皮膚表面温度の変化
成田　恵莉香	看護学生における高齢者への関わり行動に関する研究
野田　みなみ	老年看護学実習における学生の不安内容と対処方法
橋本　英里	てんかん児を支える家族心理の変化について
初貝　沙紀	喫煙者のカシス摂取による短期的影響に関する研究 血管内皮機能および酸化ストレスの変化
深川　香奈恵	健康教育受講前後での乳がんへの関心と乳房自己検診の実施状況について
福井　春樹	看護学生の臨地実習における ICU 病棟での体験
藤原　亜紀子	高齢女性介護者が夫を介護しながら抱く思い
蛇石　早紀	基礎体力で比較したウォーキング時の感情の変化
星　知美	老年期の三大精神疾患・症状を有する患者の支援に対する看護学生の意欲
堀籠　憂聖	アクティブビデオゲームを用いた運動による生体反応及び感情の変化
三上　啓二朗	臨床実習における看護学生と患者の信頼関係形成の始まりとなる出来事
三上　千尋	ウォーキングが身体に与える影響～基礎体力による比較～
嶺岸　莉江	看護学生と他の医療系専攻学生のがんに対するイメージの違いとその要因

村 上　　優 人	若年男性の喫煙習慣が肺機能へ及ぼす影響
村 田　　賢 哉	臨地実習に対する受持患者の意識
毛　内　　究	療養環境における色彩が血圧とストレスに与える影響
安 原　　育 李	看護学生の精神障害への偏見とその構造
結 城　　郁 弥	アトピー性皮膚炎児を持つ保護者のステロイド剤使用のとらえ方
若 崎　　美 冴	泡沫洗浄剤を用いた清拭のみと温湯による清拭を加えた場合の皮膚表面への影響 -皮表 pH と主観の変化から-
和 田　　香 菜 絵	アクティブビデオゲームを用いた運動メニューによるリラクセーション効果の違いに関する研究：脳波および自律神経機能について
大　礒　　忍 苫 米 地　　真 絵	看護学生におけるグリーフケアの認識
柏 葉　　奈 穂 美	看護学生の臨地実習における失敗体験と自己効力感の関連
河 田　　友 里 日 下　　な な み	看護学生の学生生活に対する満足度と充実のための対処行動
齊 藤　　真 由 美	看護学生のナースコールに関する認識
福 田　　夏 美	看護系大学生の自我同一性地位の傾向と進路選択との関連
本 田　　有 加	第 2 子妊娠中における経産婦への援助
三 浦　　明 博	看護学生の死生観形成に関する研究
山　崎　　恵	大学生の食生活と痩せ願望
阿 部　　佳 代	精神科デイケアのプログラムについての考察-デイケアスタッフへのインタビューを実施して-
佐　藤　　愛	デイサービスを利用する高齢者の主観的幸福感について
村 舘　　成 幸	看護学生の臨地実習経験における不安と学び

○学士（　保健学　）：　42 名（放射線技術科学専攻)

氏　名	論　文　題　目
阿部　　頌平	小児腹部を想定した低電圧造影 CT における被曝の検討
阿倍　　健	デジタルマンモグラフィによる拡大撮影の MTF とエッジ強調
石郷　　健斗	利き手に関する研究－動作テストから観た利き手の意味－
乾　　瑠里	低磁場 MRI での SWI 画像作成
岩谷　　隆賢	ESR 法によるサッカリンからの吸収線量評価
及川　　隼介	LROC の分割数の違いについて
葛西　　恵	利き手に関する研究－利き手・目・耳の相互関係と付加的要素について－
金澤　　裕哉	鎖骨下動脈の分枝と走行、ことに椎骨動脈と上行頚動脈の変異について
工藤　　紫織	大脳動脈輪の構成・変異と疾病について
国分　　達郎	明室と暗室で読影した際の ROC 解析
小堺　　雅貴	ウイルス核酸認識受容体に及ぼす放射線の影響

後藤　美保子	3.0T MRI 装置における容積測定精度の検討
小林　　史明	ESR 法による重曹からの吸収線量評価
小武海　　拳	X-線照射で生ずるスクロースラジカルの ESR 法による解析
今埜　　遼香	ヒト単球系細胞の分化に伴う放射線抵抗性獲得機序の解明－DNA 損傷応答に着目して－
坂上　　彰啓	ヒト造血幹細胞に対する放射線分割曝露と細胞核変化との関連性
菅野　　康貴	ヒト線維肉腫細胞 HT1080 に対する 4-メチルウンベリフェロン投与及び放射線照射併用による影響
早田　　憲治	GSI による物質解析の基礎研究および肺腫瘍診断への臨床的応用
平　　一馬	Micronucleus assay によるヒト細胞を用いた放射線障害の検討（１）
高橋　　大樹	転移性脳腫瘍の脳血流機能画像解析
高橋　　佳子	利き手に関する研究－“生来”という観点から捉えた利き手の要因－
田口　　知明	グリッドを使用した LROC 解析
竹林　　芽依	CT における小児を想定した低管電圧撮影の検討—低コントラスト分解能と被ばく線量について—
戸嶋　　桂介	放射線照射及びアスコルビン酸投与における生物学的動態の解析
中川　　杏奈	緩和時間を用いた固さ同定に関する検討
長根　　翔	シミュレーションによる除染効果の基礎研究　Ⅰ－ パッチシート法による除染効果の簡易計算　－
中村　　優平	マウス皮膚と付属器・骨格筋・生殖器導管・リンパ節への放射線照射の影響
成田　　栞	認知機能検査と脳血流代謝機能画像　～ アルツハイマー型認知症における検討～
成田　　光	JIS に従う超音波診断装置の基本性能試験
新岡　　詳久	コンボルーション法を用いての MLC 及び楔からの二次電子及び散乱光子に起因する線量の計算
西山　　彩香	放射線曝露個体の酸化ストレスマーカーの変動
畠山　　鈴加	利き手に関する研究－利き手と利き足に関連する文化要因－
福島　　秀治	マウス各部の骨髄と運動器・下垂体・内耳への放射線照射の影響
川村　　千香	Micronucleus assay によるヒト細胞を用いた放射線障害の検討（２）
松村　　駿	臨床用デジタルマンモグラフィにおけるウィナースペクト ル －測定位置及び線量依存－
村上　　翔	放射線曝露個体における骨髄細胞の放射線応答とマスト細胞への分化・増殖能の変化
山下　　耕平	エッジ法による presampled MTF 測定の安定性
山本　　裕樹	シミュレーションによる除染効果の基礎研究　Ⅱ－ パッチシート法による住宅地の除染効果の推定　－
若生　　愛奏	MLC 可変 4 次元動体追尾照射のための基礎実験—4 次元動体ファントムの幾何学的精度の評価—
今井　　達也	粒状性の違いについての ROC 解析
大野　　伸幸	ESR 法による NaCl からの吸収線量評価
佐藤　　慎也	3.0T MRI を用いた FLAIR 法における中脳水道を想定した flow artifact について

○学士（保健学）：　40 名（検査技術科学専攻)

氏　名	論　文　題　目
秋 山　　安 里	UDP 刺激で IgE 依存性好塩基球活性化による I 型アレルギー反応を抑制できるか？
浅 沼　　千 鶴	バングラデシュの河川における下痢原性大腸菌検出に関する研究
浅 水　　麻 里	市販豚レバーを用いた抗トキソプラズマ抗体検査の有用性の検討
阿 部　　洸 大	パンクレリパーゼ投与例の膵外分泌機能評価と栄養状態の推移
阿　部　　悠	メタボロミックスによる被ばく線量評価マーカーの探索
新 谷　　弥 香	同種異系（アロ）臍帯血移植は機能的な免疫系を構築するか？
石 塚　小百合	Staphylococcus aureus による TSST-1 産生が促進される培養条件の検討
伊 藤　　大 輔	一般住民における血圧・動脈硬化と血清エンドセリンの関係
遠藤　謙太郎	ヒト大腸癌における p53, HER2, TOP2A 発現解析
及 川　　颯 太	MCF-7 ヒト乳癌細胞における時計遺伝子 DEC と欠陥新生因子および細胞増殖能の相関
大 橋　　航 太	MDA-MB-231 ヒト乳癌細胞における血管新生因子と時計遺伝子の相互関係について
小川　久美子	X 線照射がラット膵腺房細胞における」Ach 誘発性 Ca2＋応答に及ぼす影響
角　田　　梓	グルコサミンは末梢神経インスリンシグナルを阻害する
櫛 引　　友 孝	尿中カリクレインの放射線線量評価マーカーとしての可能性について
近 藤　　宏 徳	子宮内膜増殖期と類内膜腺癌の鑑別における顕微分光分析の有用性
坂 本　　陽 奈	化学誘導未成熟染色体凝縮法における不完全構築染色体形成メカニズムの解明
坂 本　　茉 生	分泌小胞 Exosome に内在する RNA 種の同定と生化学的性状の解析
作 田　　泰 宏	ラットが経口摂取したプロテオグリカンの消化管動態
佐 藤　　泉 希	子宮内膜癌におけるアポトーシスの意義
菅 原　　倫 子	Hair ketain と Phospholipase A2 の欠損は Hirosaki hairless rat の乳腺の異常に関与するか？
菅 原　　桃 子	腸炎ビブリオの形質転換に関する研究
高 畑　　英 智	一般住民におけ糖代謝とレプチンの関係
高山　さおり	一般住民におけるインスリンと肥満・食事量の関係
田 本　　悠 佳	ダブルユニットの混合臍帯血移植は MHC 適合したユニット側で優先的に免疫系を再構築する
堤　　祐　介	部分照射モデルにおける新規細胞遺伝学的線量評価指標の有用性評価
長 尾　　祥 史	一般住民におけるレプチンと摂食調整の関係
中村　みのり	核の立体的画像解析による ASC-US の判別分析
橋 口　　研 朗	L-アミノ酸オキシダーゼの抗菌活性メカニズムの解明
平 野　　理 美	パッチクランプシステム Axopatch 200B によるマウス膵腺房細胞の膜電流記録
星 合　　桂 太	紫外線顕微鏡を用いた核領域解析によるがん細胞判別の検討
松 長　　夢 子	子宮内膜癌における増殖マーカー(Ki-67, Topoisomerase Iiα)の意義
水 木　　悠 太	画像解析による悪性中皮腫と反応性中皮細胞の判別分析
南舘　枝里奈	腸炎ビブリオの耐熱性溶血毒(TDH)高度産生培地の開発
宮 川　　詩 乃	アミロイド沈着糖尿病患者における膵内分泌細胞容積の検討

目 黒　　冬 樹	Phospholipase A2 group Ivc 欠失ラット HHR における乳腺の授乳期早期退縮機構の解明
渡 邉　　愛 深	Exosome 内在性 microRNA のレシピエント細胞内への導入と機能解析
渡 邉　　美 妃	Exosome の細胞外分泌機構とレシピエント細胞への取り込み機構解析
安 倍　　夏 紀	X 線誘発マウス胸腺リンパ腫における分子細胞遺伝学的解析
竹 村　　祐 希	尿中ウロキナーゼの放射線線量評価マーカーとしての可能性について
佐 藤　　広 視	N-acetyl-β-glucosaminidase(NAG)の放射線線量評価マーカーとしての可能性について

○学士（保健学）：26 名（理学療法学専攻)

氏　名	論　文　題　目
石 渡　　朝 生	足関節装具が運動課題の成績に及ぼす影響
伊 藤　　翼	椅子からの立ち上がり動作における主観的立ち上がりやすさと筋活動量・動作時間との関係について
岡本　成諭子	腰部交感神経節に対するキセノン光照射の体位による効果の違いに関する検討
小 田 桐　　伶	座位円背指数計測の妥当性の検討
川 田　　雅 弥	脳卒中患者の筋緊張重症度別における Gait Solution 適応性に関する検討
木 村　　敏 行	腹筋群の筋疲労が立位重心動揺に及ぼす影響について
小 池　　萌 水	四つ這いバランス練習は立位バランスを改善するか
齊 藤　　成 美	脳卒中患者の歩行自立度決定因に関する病期別検討
桜 庭　　勇 人	呼気延長は階段昇段時の心臓自律神経活動に影響を与えるか
佐々木　淳一	足底挿板の素材の違いがパフォーマンスおよび使用感に及ぼす影響
佐藤　菜奈子	ホットパックとストレッチングの同時施行の有効性に関する検討
佐 藤　　弘 樹	キネシオテーピング貼付後の時間経過が筋力に及ぼす影響
佐 藤　　結 衣	ストレッチングの前処置として神経筋電気刺激（NMES）は有効か？
澁 谷　　美 咲	ウォーミングアップとしての股関節外転筋群・内転筋群のダイナミックストレッチングは反復横跳びのパフォーマンス向上に有効か
高 杉　　愛 子	学童期における外反母趾と足部形態・アライメントの関連性－縦断調査による検討－
高 橋　　陽 子	腹部引き込み運動時の腹横筋および内腹斜筋の筋活動について－姿勢による検討－
成 田　　爽 子	運動がストレスに与える影響に対する客観的評価の検討
藤 林　　直 樹	動的ストレッチング実施後の筋力および関節可動域の経時的変化について
前 田　　貴 哉	キセノン光の星状神経節近傍照射に伴う上肢骨格筋血流動態に関する検討
南　　茂 幸	内側広筋優位の筋活動を引き起す片脚スクワット動作の検討－床反力に着目して－
伊 藤　　千 晶	健常成人に対する装具重量と足長が歩行時の下肢関節角度に及ぼす影響について
谷 村　　謙 伍	アーチドクターAQ 使用によるトレーニング効果の検討

三 浦　　秀 幸	震災後岩手県大船渡士における認知症とうつ病に対する巡回型デイケアの効果
粟 津　　雄 太	低負荷トレーニングが腱板外旋筋群の筋力に及ぼす影響について
池 田　雄太郎	上肢課題の違いが立ち上がり動作に与える影響
齋 藤　　茂 樹	骨格筋へのキセノン光照射が筋伸張性に及ぼす影響

○学士（保健学）：　21 名（作業療法学専攻)

氏　名	論　文　題　目
石 村　　龍 士	視覚記憶と聴覚記憶における探索過程の違い～Sternberg 課題における反応時間の差～
泉 田　　成 美	普通箸の操作獲得を目指した訓練の段階付けとして自助具の使用は有効か？
今 泉　　雄 太	脳卒中患者に対する座位での下衣操作訓練の現状と課題
加 藤　　瑞 貴	青森県における発達障害のある子どもの作業療法に対する保護者の思い～青森県の指導訓練の現状と今後の支援の検討～
木 附 沢　一 茂	脳卒中患者における睡眠障害に対する作業療法の検討
工 藤　　詩 織	非利き手の箸操作能力とつまみ中の持ち方との関係
工 藤　　未 来	作業活動時の検査者の関わり方が対象者の感情および検査者に対する印象に及ぼす影響
古 川　　愛 実	折り紙作業における教示方法の違いが感情におよぼす影響
今 野　　健 人	脳卒中後抑うつ症状の要因は脳卒中発症後の期間の違いにより違うのか？
斎 藤　　慶 大	統合失調症患者における色彩に対するイメージ及び色彩と感情との適合性の特徴
坂 本　　賢 吾	個人・集団という治療形態の違いが感情に及ぼす影響
佐 藤　　大 輔	色彩に対するイメージ及び色彩と感情との適合性の特徴～健常者を対象とした世代間による比較～
佐 藤　　美 佳	箸の持ち方を量的に提示することは非利き手の箸操作訓練として有効か？
小 豆 嶋　晃 一	注意の向け方の異なる運動学習方法における運動学習効果とその効果の経時的変化について
鈴 木　　郁 雄	視覚刺激の平面上の距離が記銘力に及ぼす影響
原 田　　裕 也	配列文字の意味が記銘におよぼす影響
前 田　　雄 介	高齢者における骨密度と日常生活の活動量との関係
松 澤　もなみ	青森県における発達障害のある子どもの作業療法に対する保護者の思い～保護者のニーズと感覚統合療法の理解～
三 橋　　佑 平	作業活動の心理的効果に対する作業時間の影響
目 黒　　佑 樹	作業活動後のフィードバックが自己効力感、感情に及ぼす影響
奈 良　佑 希 乃	高齢者の日常生活における歩行量と新体力テストの結果との関連性について－青森県 A 町と全国平均との比較－

Ⅳ．平成 24 年度保健学研究科博士（前期・後期）課程
学位論文題目一覧表

○修士（保健学）：　21 名

氏　名	論　文　題　目
市川　美奈子	糖尿病患者の自己管理行動と QOL の関連性
太田　一輝	湯たんぽの貼用方法の違いが生体と寝床内温度に与える影響
菊池　佑弥	女性多数環境における男子看護学生への教育の工夫―男子看護学生の経験とそれに対する看護教員の認識から―
堤　　弥生	重粒子線治療を受ける患者の急性放射線障害と QOL について－前立腺がんの場合
奈良　かな子	小児を持つ家庭の災害急性期における生活と健康に関する研究―学童とその保護者にとっての課題から、災害看護ニーズを明らかにする―
福士　未奈子	外来化学療法を受けるがん患者のセルフケアに関する研究
石川　純也	Characteristic of Human Hematopoietic Stem/Progenitor Cells Exposedto Ionizing Radiation in Cytokine-free Conditions　－放射線ばく露ヒト造血幹/前駆細胞のサイトカイン非存在下における分化・増殖能の変化－
小原　秀樹	放射線治療における 2 次元電離箱式配列検出器の空間分解能の検討
山口　　平	Role of reactive oxygen species in the radiation response of humanhematopoietic stem/progenitor cells　－ヒト造血幹/前駆細胞の放射線応答における活性酸素種の役割－
若佐谷　拓也	A liquid crystal-related compound induces cell cycle arrest at theG2/M phase and apoptosis in a human non-small cell lung cancer A549cell line　-液晶関連化合物の抗腫瘍作用及び放射線増感作用の可能性の検討-
大湯　和彦	肝細胞特異性 MRI 用造影剤ガドキセト酸ナトリウムの至適造影方法に関する基礎的検討
佐藤　めぐみ	骨導聴性定常反応測定時における不関電極装着部位の検討
本田　勝丈	胆汁細胞診標本における観察妨害物質の除去
石岡　拓得	安静時エネルギー消費量からみた統合失調症患者の代謝的特徴
山内　可南子	青森県下の土壌から分離された Leptomyxid amoeba の種の解析
安藤　道晴	在宅における運動プログラム継続に対するセルフ・エフィカシー介入への影響
工藤　寿子	パーキンソン病の方向変換動作における頚部―体幹の回旋運動の特徴について
佐藤　香吏	乳幼児を対象とした呼吸理学療法における客観的評価手法に関する基礎的研究 ～呼吸音の音響学的解析と心拍変動解析に着目して～
唐　　布和	中国内モンゴル自治区リハビリテーション医療の現状に関する調査
有原　裕貴	体幹の固定性と体幹機能の関連について
関　　裕也	脳卒中片麻痺患者の実用歩行速度に関連する歩行パラメータについて
小林　佳人	高齢化地域における Quality of Life と Social Capital に関する研究

○博士（保健学）：　8 名

氏　名	論　文　題　目
小沢　久美子	Factors Influencing Behavior of Taking Medicine in Elderly Patients Undergoing Hemodialysis（高齢血液透析患者の服薬行動に影響する要因の検討）
松尾　泉	子宮頸がん検診受診行動の実態と受診率向上に向けた健康教育プログラムの有効性についての研究
石田　和宏	腰椎椎間板ヘルニア患者に対する手術後早期からの積極的リハビリテーション実施の効果に関する調査研究
鈴木　英樹	高齢者の転倒回避行動に焦点を当てた寒冷積雪地における転倒予防介入の効果
小山内　暢	CT 検査における被曝低減に関する研究～冠状動脈 CT における低電圧撮影法の画質と被曝線量～
柴　宏博	グラム陰性細菌 N―アシル-L-ホモセリンラクトン類似体化合物のヒトがん細胞の増殖に対する作用
黒田　喜幸	ヒアルロン酸合成酵素の機能調節に関与する翻訳後修飾の解析
三國　裕子	肘窩の静脈穿刺部位における皮静脈と神経･動脈との局所解剖学的研究

保健学研究科自己評価委員会

委員長	木田　和幸	（副研究科長）
副委員長	木立るり子	（老年保健学分野）
委　員	中村　敏也	（学事委員長・生体機能科学分野）
委　員	石川　玲	（学務委員長・障害保健学分野）
委　員	山辺　英彰	（健康増進科学分野）
委　員	小倉　能理子	（健康増進科学分野）
委　員	小枝　周平	（老年保健学分野）
委　員	樋口　毅	（障害保健学分野）
委　員	高見　彰淑	（障害保健学分野）
委　員	中川　公一	（放射線生命科学分野）
委　員	細田　正洋	（放射線生命科学分野）
委　員	石川　孝	（生体機能科学分野）
委　員	渡邊　純	（病態解析科学分野）
委　員	大友　良光	（病態解析科学分野）
委　員	長谷川直生	（事務長）